

蒲郡市
男女共同参画に関する意識調査
報告書

令和7年3月
蒲 郡 市

目 次

I. 調査の概要

1. 調査の目的	2
2. 調査概要	2
3. 報告書の見方	2

II. 調査結果の総括

1. 市民調査結果の総括	3
2. 事業所調査の総括	7

III. 調査結果（一般市民）

1. あなた自身に関することについて	9
2. 男女平等に関する意識について	15
3. 家庭生活について	40
4. あなたの仕事の状況や女性の活躍に関することについて	45
5. 仕事と家庭生活（ワーク・ライフ・バランス）について	50
6. 地域活動・防災対策等について	61
7. 男女の人権について	66
8. 多様性について	80
9. 男女共同参画のまちづくりについて	86

IV. 調査結果（事業所）

1. 貴事業所について	91
2. ワーク・ライフ・バランスについて	93
3. 育児・介護について	95
4. 女性の活躍推進について	100
5. 多様性について	105
6. ハラスメント対策について	106
7. 男女共同参画全体について	108

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和 8 年度から開始する「第 4 次蒲都市男女共同参画プラン」策定の基礎資料として、市民・事業所の男女共同参画に関する意識や普段の行動などを把握することを目的に実施しました。

2. 調査概要

区分	一般市民調査	事業所調査
調査対象者	蒲都市在住の 18 歳以上の市民	蒲都市内の事業所
抽出方法	各年代で 250 人ずつを無作為抽出 (年代：10～20 代、30 代、40 代、 50 代、60 代、70 代以上)	蒲郡商工会議所議員企業 100 社
調査方法	郵送配布・郵送回収 WEB 回答	郵送配布・郵送回収 WEB 回答
調査期間	令和 6 年 10 月 25 日（金）～ 令和 6 年 11 月 15 日（金）	令和 6 年 10 月 25 日（金）～ 令和 6 年 11 月 15 日（金）
配布数	1,500 件	100 件
有効回収数	709 件	51 件
有効回収率	47.3%	51.0%

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- グラフにおける設問の選択肢については簡略化している場合があります。

Ⅱ. 調査結果の総括

1. 市民調査結果の総括

男女平等に関する意識について

- 男女共同参画に関する言葉の認知度では、「ジェンダー」や「選択的夫婦別氏（姓）制度」については9割弱が言葉を知っている一方で、「アンコンシャス・バイアス」や「アウティング」は2割未満となるなど、言葉によって認知度の差が非常に大きい。
- あらゆる分野の男女の地位について、「学校教育の場」以外では全体的に男性優遇の傾向が強く、特に、「政治の場」では全体の8割強が男性優遇だと感じている。女性は各分野で「男性優遇」の割合が男性に比べて大幅に高いことから、特に女性は社会のあらゆる場面において「男性優遇」を強く感じている傾向にある。
- 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべき」という考え方について、『反対派』が『賛成派』を18.7ポイント上回っている。また、令和1年度調査と比較すると、令和6年度調査では『反対派』が5.9ポイント多くなっている。
- 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきだ」という考え方に『賛成派』の理由として、「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変」が60.2%と多くなっており、固定的性別役割分担意識が高い人は、妻が家庭の役割を担うことが当然だという前提があることがうかがえる。
- 自分の子どもに望むこと（3つまで選択）では、女の子・男の子ともに「思いやり・優しさをもつこと」が望まれている。一方で、最も望むこと（1つだけ選択）は、女の子では「思いやり・優しさをもつこと」、男の子では「自立心をもつこと」となっており、子どもに最も望むことは性別によって異なる。
- 男女のイメージについて尋ねたところ、「女性は感情的になりやすい」という思い込みを持つ人が59.1%いることがわかった。また、「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきだ」という考え方に『反対派』であるにもかかわらず、様々な場面において性別による無意識の思い込みがある層が3割半ばいる。

家庭生活について

- 家庭での役割分担において、「妻」は家事の役割、「夫」は生活費を稼ぐ役割を担う傾向にある。共働きの家庭においてもその傾向は変わらないことから、蒲郡市の家庭では、「夫は仕事で生活費を稼ぎ、妻は家事を中心に負担し仕事は家計の補助的に行う」という役割分担がされている現状がうかがえる。
- 共働きの家庭や子育て中の家庭について、1日のうちで家事に費やす時間は男性より女性の方が圧倒的に長いことから、女性の家事負担が大きいことがわかる。

仕事の状況や女性の活躍に関することについて

- 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすにあたり障害となるものについて、男女ともに「家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと」が最も多くなっており、女性の家事負担が大きいことが女性リーダーを輩出することの阻害要因になっていると考えられる。
- 仕事をするうえでの悩みでは、男女ともに「収入が少ない」が最も多い。また、男性は女性より「労働時間が長い」が、女性は男性より「家庭生活との両立が難しい」が約 10.0 ポイント多くなっており、男女で違いが見られた。
- 管理職以上に昇進することについて、男女ともに「責任が重くなる」が最も多いが、女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」が男性より 19.4 ポイント多くなっており、仕事と家庭の両立を懸念する傾向が強い。

仕事と家庭生活（ワーク・ライフ・バランス）について

- 生活の中の優先度について、男性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先させたいという希望があるが、現実では「仕事」を優先せざるを得ない状況にあると考えられる。一方で、女性は希望でも現実でも「家庭生活」を優先させている結果となった。
- 女性、男性が仕事をもつことについて、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が女性では 52.0%、男性では 90.4%となった。女性では、「子供ができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 30.7%となっており、出産を機に仕事をやめることを望む層も一定数いることがわかる。
- 女性が出産や介護などを機に離職しないために必要なことでは、「保育サービスの充実」「家事・子育て支援サービスの充実」といった子育て支援を求める意見と、「職場の同僚の理解促進」といった職場への理解を求める意見が多くなっている。
- 男性が家事・子育て・介護等を行うことについて、「男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然」が 73.8%と多くなっている。しかし、「仕事と両立させることは現実として難しい」も 48.1%となっていることから、男性が家事等を行うことは当然という意識はありつつも、仕事によってそれが阻まれている現状がうかがえる。
- 男性が家事・子育て・介護等に積極的に参加していくために必要なことでは、「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること」が 66.1%で最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解を深めること」が 52.8%となっている。

地域活動・防災対策等について

- 地域活動に参加している割合は 43.2%となり、男女で大きな差はみられない。
- 役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについて、『必要派』が男性では 95.0%、女性では 86.9%と、女性より男性の方が必要だと感じている。また、『必要派』に対してどのようにすれば女性が参画できると思うか尋ねたところ、「役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が最も多くなった。一方、『不要派』に不要だと思う理由を尋ねたところ、「女性は役員と家事や育児との両立が難しいから」が最も多くなったことから、家事の役割は女性が担うものという前提があることがうかがえる。
- 男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるために必要な取組では、「男女双方の視点を活かした防災マニュアルを作成する」が 68.1%と最も多くなった。
- 災害時の避難所運営に必要だと思うことでは、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が 78.3%と最も多くなった。

男女の人権について

- DV にあたる行為のうち、身体的な行為（なぐる、けるなど）を暴力だと認識する割合は 9 割以上と高いが、「何を言っても長時間無視し続ける」や「携帯電話やメールをチェックしたり、外出や人付き合いを制限したりする」といった行為を暴力だと認識する割合は 5 割半ばとなった。
- DV にあたる行為のうち、すべての項目について「どんな場合でも暴力にあたる」と認識している割合は 41.3%となった。暴力にあたらない場合があると回答した人に対しその理由を尋ねたところ、「夫婦またはパートナーの喧嘩の範囲だと思う」が 43.6%となった。
- DV を受けたことがある割合は 13.7%となり、そのとき「だれ（どこ）にも相談しなかった」割合が 48.5%となった。理由として、「自分にも悪いところがあったと思った」が 42.6%となった。
- 蒲郡市の相談窓口について、法律相談や子ども家庭センターの認知度は 5 割以上となったが、DV 相談窓口や外国人相談窓口の認知度は 3 割強にとどまっている。また、相談窓口の情報入手方法として、「市の広報誌」が 62.8%と最も多くなっている。
- 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律のために市が取り組む必要があることでは、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が 51.3%と最も多くなっている。

多様性について

- 結婚、家庭、離婚についての考え方では、それぞれ個人の自由であるという意見に『賛成派』の割合が6割以上となっている。
- 自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがある割合は3.0%となった。また、周りに性的マイノリティ（LGBTQ）の人がいるかについて、「いる」が11.1%となった。
- 身近な人が性的マイノリティ（LGBTQ）だとわかった場合、「自分の親」や「自分の子ども」といった血縁関係にある人より、「友人」や「職場の人」といった他人の方が、変わらずに接することができると思う割合が多くなっている。
- 性的マイノリティ（LGBTQ）の人が暮らしやすい社会を作るために必要なことでは、「社会制度の見直し（パートナーシップ証明書、性別移行への配慮など）」が52.6%と最も多く、次いで「教育現場での啓発活動（性的マイノリティ（LGBTQ）に関する講演会や授業など）」が45.8%となっている。

男女共同参画のまちづくりについて

- 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきことは、「子育て支援や介護サービスなどの充実を図る」が57.0%と最も多く、次いで「学校において男女平等教育を浸透させる」が45.8%、「男性の家事・子育て・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実させる」が33.7%となっている。
- 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うことについて、「市の広報誌」が66.1%と最も多く、次いで「小・中学校の教育」が47.8%、「市の公式ホームページ」が43.6%となっている。

2. 事業所調査の総括

従業員の状況について

- 従業員の正規・非正規雇用割合について、正規雇用の男性は 82.3%、女性は 53.7%となっており、女性従業員の非正規割合が多くなっている。
- 管理職に占める女性の割合は、10.3%となっている。

ワーク・ライフ・バランスについて

- ワーク・ライフ・バランス施策では、有給休暇の半日単位での利用を実施中の割合が 80.4%となっている一方で、フレックスタイム勤務や在宅勤務（テレワーク）制度の導入、育児・介護休業等取得者への給付・貸付制度の導入については実施予定がない割合が 6 割以上となっている。
- ワーク・ライフ・バランス支援を進めていくうえでの課題は、「同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまう」が 51.0%、「業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい」が 47.1%と、人手不足が課題に挙がっている。

育児・介護について

- 令和 5 年度の育児休業の取得割合について性別でみると、「取得した」割合は女性で 100.0%の一方、男性で「取得した」割合は 55.4%となっている。
- 令和 5 年度の介護休業の取得人数は、男性は 0 人、女性は 6 人となっている。
- 令和 4 年 4 月からの育児・介護休業法の改正後の取組について、「個別の制度周知・休業取得意向確認」や「育児休業を取得しやすい雇用環境の整備の措置」を実施していない割合が 4 割以上となっている。また、令和 4 年 10 月から創設された「産後パパ育休（出生時育児休業）制度」について、制度に対応していない割合が 33.4%となっている。
- 育児・介護休業制度を定着させるために行っていることでは、「従業員への制度に関する情報提供」「制度を利用しやすい雰囲気づくり（上司の理解や同僚の協力など）」が 39.2%と最も多くなっている。
- 育児・介護休業制度の利用を進めていくうえで課題となることでは、「育児・介護休業期間中の代行要員の確保及び費用」が 52.9%と最も多くなっている。
- えるぼし認定やくるみん認定などといった国や県が定めている認証制度について、全項目について「知らないが」6 割以上となっており、認知度が低いことがわかる。

女性の活躍推進について

- 女性の活躍推進への取り組み状況では、「女性職員の採用拡大」「昇進・昇格基準の明確化」「出産・育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」について実施中の割合が4割以上となっている。
- 女性従業員の働き方として最も多いケースは「育児休業・介護休業などを活用して仕事を続ける」が58.8%となっている。また、女性従業員にどのように働いてほしいかについては、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を継続してほしい」が56.9%となっている。
- 女性従業員が活躍するメリットとして、「人的資源の有効活用ができる」「労働力の確保ができる」というメリットが挙げられている。また、「女性だからというわけではなく、男女が対等な職場である」も52.9%と多くなっている。
- 管理職への女性登用について、「積極的に登用していきたい」が54.9%、「特に増やしていく考えはない」が39.2%となっている。女性の管理職を増やすために必要なことでは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」が50.0%と最も多い。

多様性について・ハラスメント対策について

- 性的マイノリティ（LGBTQ）の従業員への取組については、「特に何もしていない」が52.9%と最も多くなっている。
- セクシュアル・ハラスメント対策、パワー・ハラスメント対策では、就業規則などでハラスメント防止の方針を明確にすることや、相談先を設けるといった対策方法が多くなっている。

男女共同参画全体について

- 男女共同参画を進めるにあたって市が力を入れていくべきことについて、「保育施設や保育サービスの充実」が58.8%と最も多く、次いで「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」が41.2%となった。
- 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うことについて、「市の広報誌」が56.9%と最も多く、次いで「市の公式ホームページ」が43.1%、「セミナーやシンポジウム」が29.4%となっている。

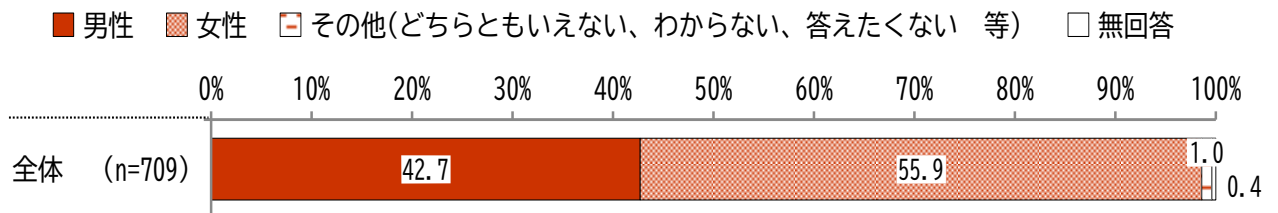
Ⅲ. 調査結果（一般市民）

1. あなた自身に関することについて

問1 性別【〇は1つ】

➤ 回答者の性別は、「女性」が55.9%、「男性」が42.7%となっている。

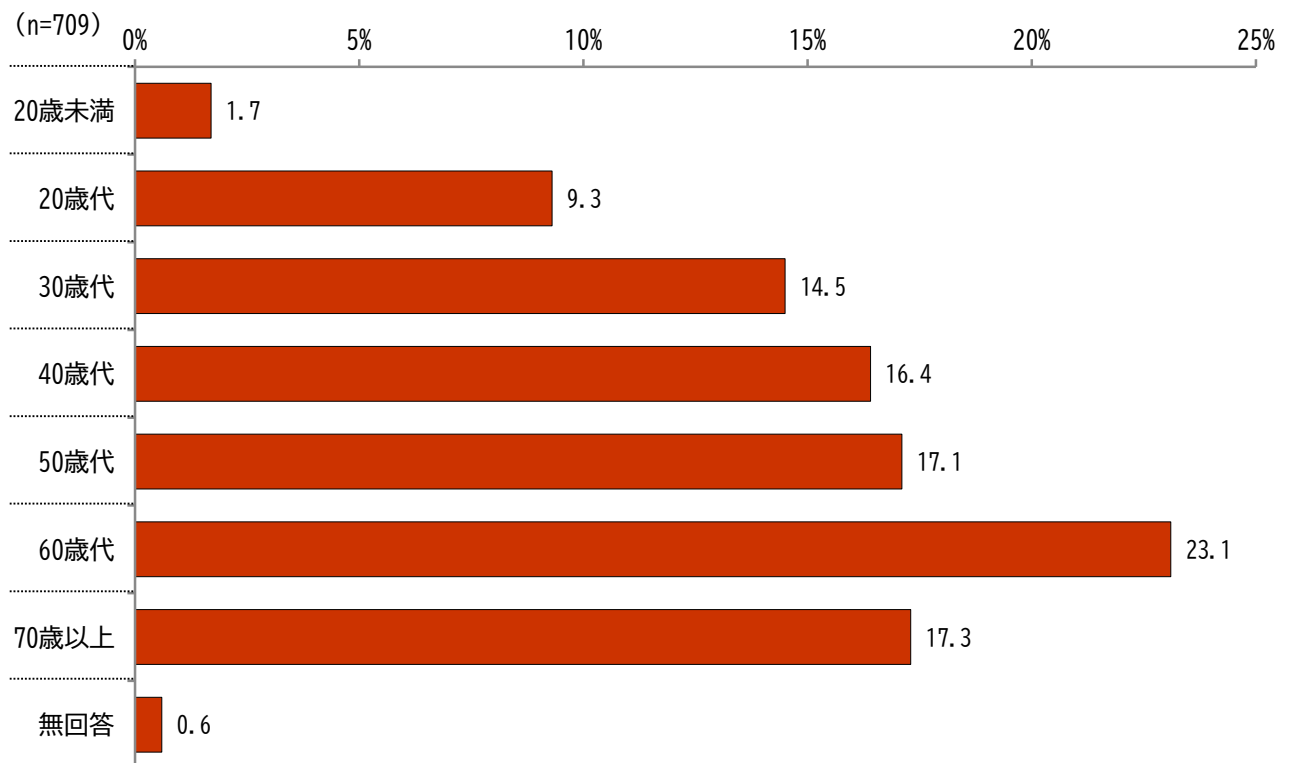
図表1 性別



問2 年齢※令和6年10月1日現在【〇は1つ】

➤ 回答者の年齢は、「60歳代」が23.1%と最も多く、次いで「70歳以上」が17.3%、「50歳代」が17.1%となっている。

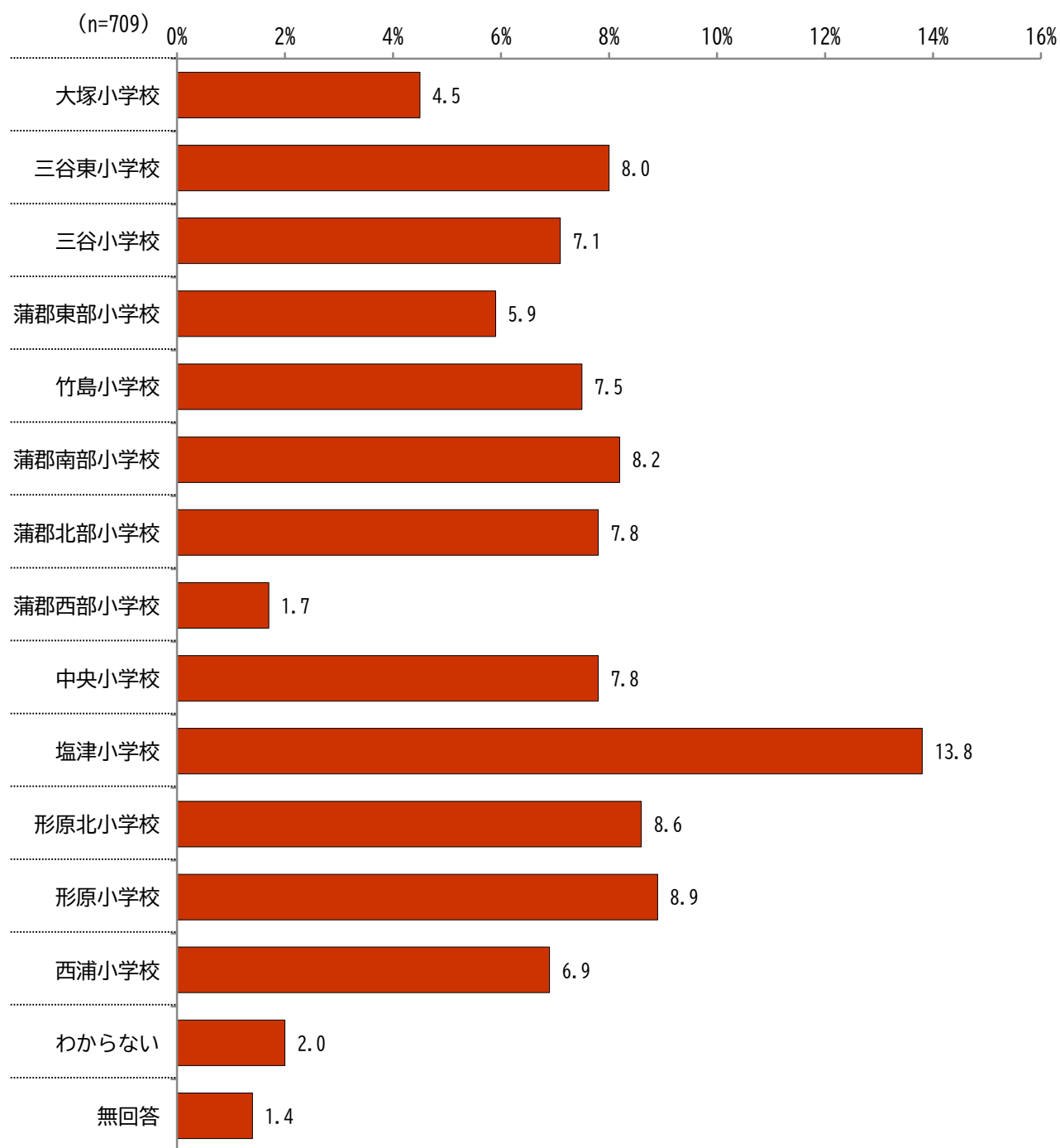
図表2 年齢



問3 お住まいの小学校区【〇は1つ】

- 回答者の住んでいる小学校区は、「塩津小学校」が13.8%と最も多く、次いで「形原小学校」が8.9%、「形原北小学校」が8.6%となっている。

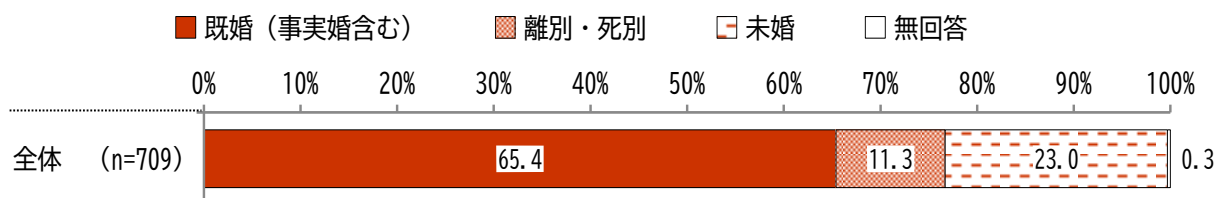
図表3 お住まいの小学校区



問 4 婚姻状況【〇は1つ】

- 回答者の婚姻状況は、「既婚（事実婚含む）」が 65.4%、『未婚』（「離婚・死別」＋「未婚」）が 34.3% となっている。

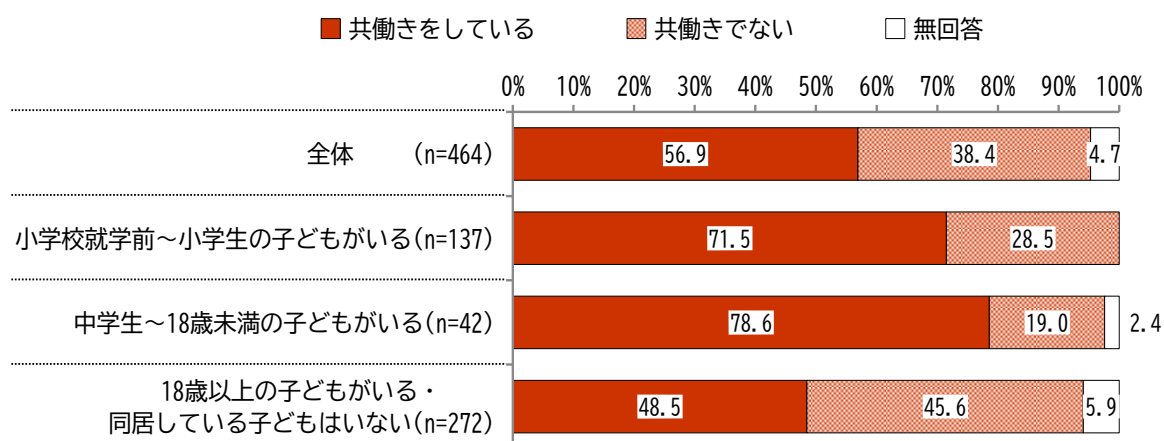
図表 4 婚姻状況



問 4-1 共働きについて（子どもの年齢別）【〇は1つ】

- 既婚者のうち、全体でみると、「共働きをしている」が 56.9%、「共働きでない」が 38.4%となっている。
- 子どもの年齢別でみると、18歳未満の子どもがいる家庭では「共働きをしている」が約7割以上となっている。

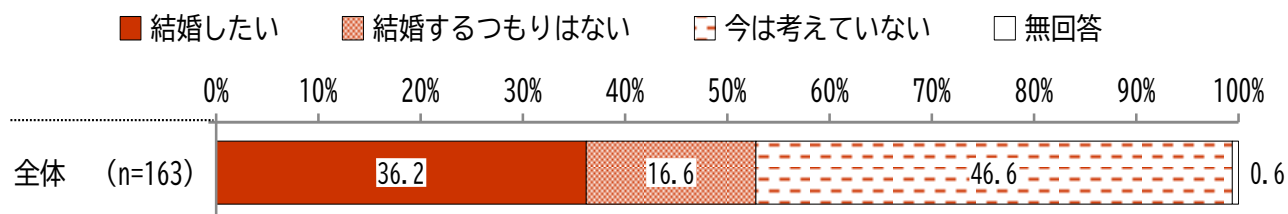
図表 5 共働きについて（子どもの年齢別）



問5 結婚の希望（未婚の方のみ）【〇は1つ】

- 未婚者に結婚の希望について尋ねたところ、「今は考えていない」が46.6%、「結婚したい」が36.2%となっている。

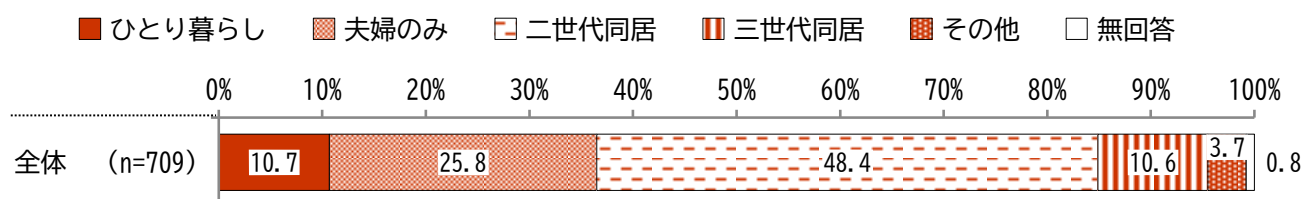
図表 6 結婚の希望（未婚者のみ）



問6 世帯構成【〇は1つ】

- 回答者の世帯構成は、「二世世代同居」が48.4%、「夫婦のみ」が25.8%となっている。

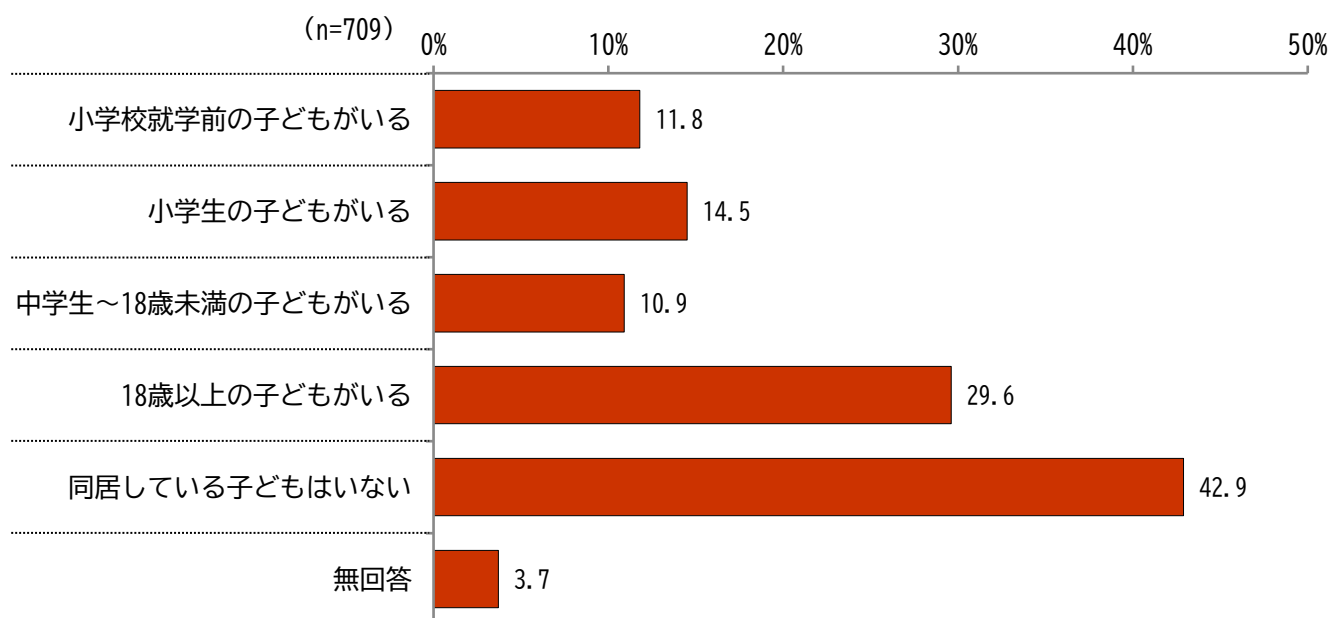
図表 7 世帯構成



問7 子どもの有無【〇はいくつでも】

- 同居の子どもの有無については、「同居している子どもはいない」が 42.9%と最も多く、次いで「18歳以上の子どもがいる」が 29.6%、「小学生の子どもがいる」が 14.5%となっている。

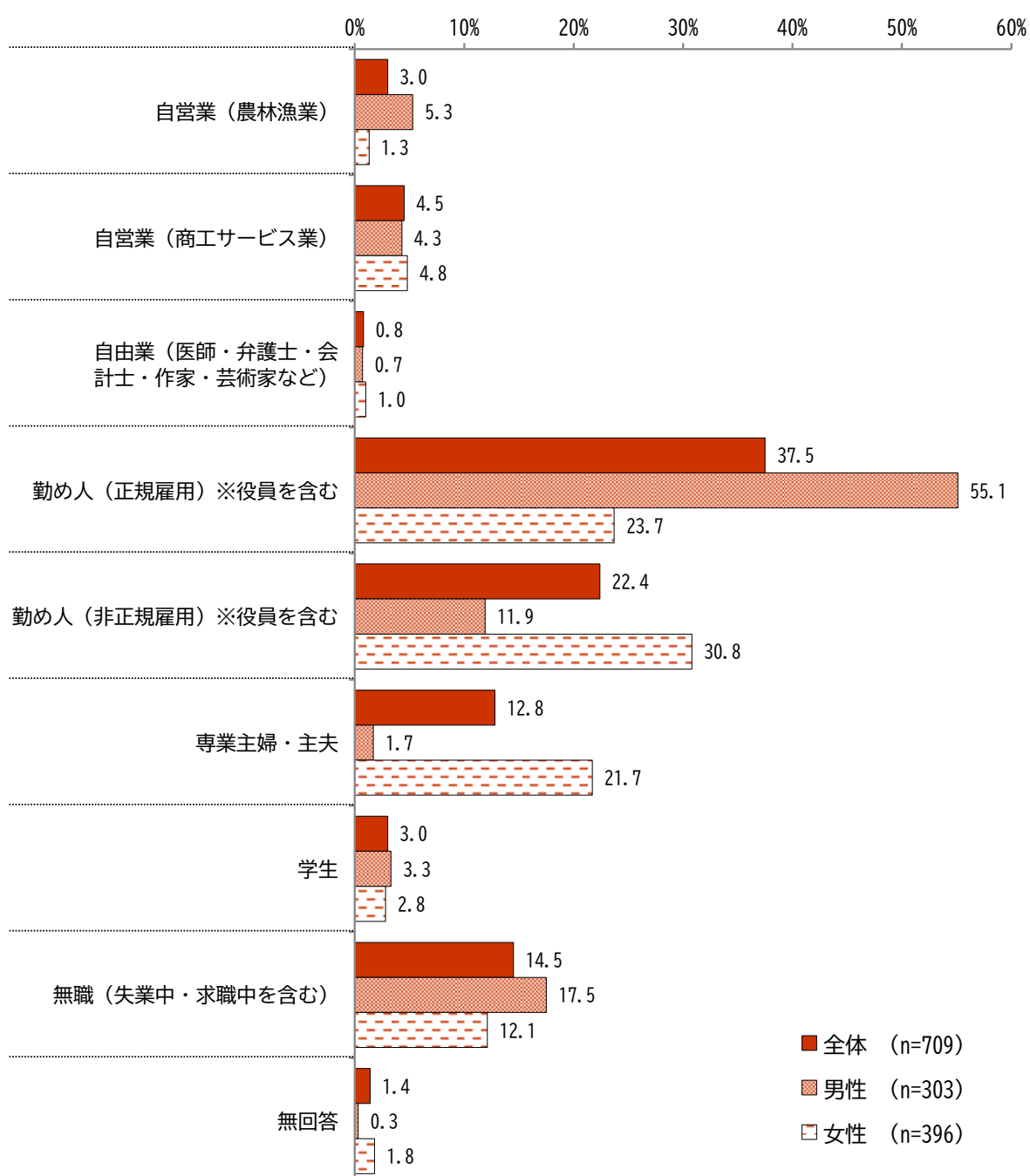
図表 8 子どもの有無



問8 就労状況【〇は1つ】

- 回答者の就労状況は、「勤め人（正規雇用）※役員を含む」が37.5%と最も多く、次いで「勤め人（非正規雇用）※役員を含む」が22.4%、「無職（失業中・求職中を含む）」が14.5%となっている。
- 性別でみると、男性では「勤め人（正規雇用）※役員を含む」が55.1%と半数を超えている一方で、女性では「勤め人（非正規雇用）※役員を含む」が30.8%と最も多くなっている。また、「専業主婦・主夫」では、男性が1.7%、女性が21.7%と女性が男性より20.0ポイント多く、専業主婦・主夫の割合は男女で大きな差がある。

図表9 就労状況（性別）



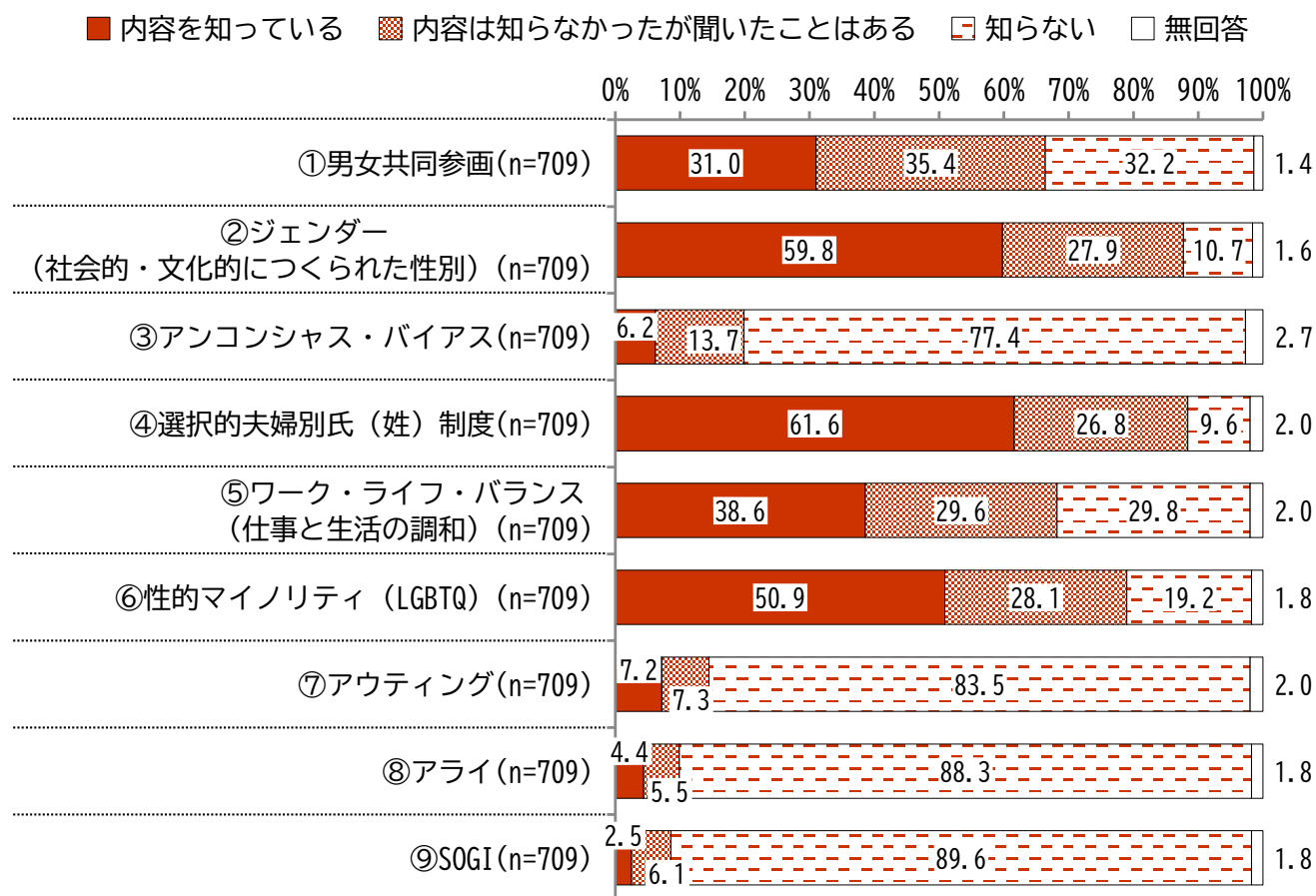
2. 男女平等に関する意識について

問9 次にあげる①から⑨までの言葉について、それぞれ該当する番号を選んでください。

【①～⑨のそれぞれについて〇は1つ】

- 男女共同参画に関わる言葉の認知について、「②ジェンダー」「④選択的夫婦別氏（姓）制度」では『知っている』（「内容を知っている」＋「内容は知らなかったが聞いたことはある」）が9割弱と特に多くなっている。
- 「①男女共同参画」「⑤ワーク・ライフ・バランス」「⑥性的マイノリティ」では『知っている』が6割以上となっている。
- 「③アンコンシャス・バイアス」「⑦アウティング」では『知っている』が2割未満、「⑧アライ」「⑨SOGI」では1割未満と認知度が低い。

図表 10 男女共同参画に関わる言葉の認知

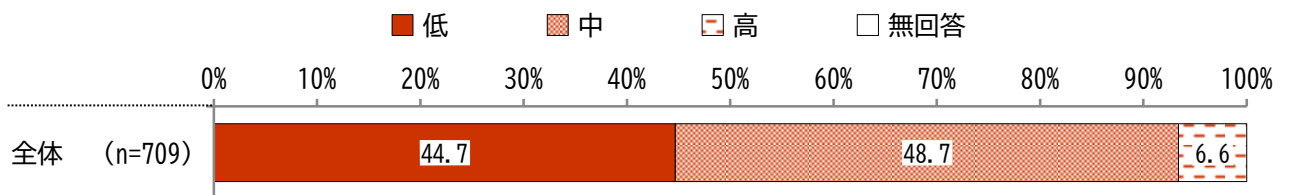


問 9 言葉の理解度

- 問 9 の各言葉に対して、「内容を知っている」と回答した場合 2 点、「内容は知らなかったが聞いたことはある」と回答した場合 1 点、「知らない」と回答した場合 0 点とする。
- ①～⑨の各得点の合計得点について、0～6 点を「低」、7～12 点を「中」、13～18 点を「高」とし、理解度に応じてクラス分けを行った。

➤ 男女共同参画に関する言葉の理解度に応じてクラス分けを行うと、「低」が 44.7%、「中」が 48.7%、「高」が 6.6%となっている。

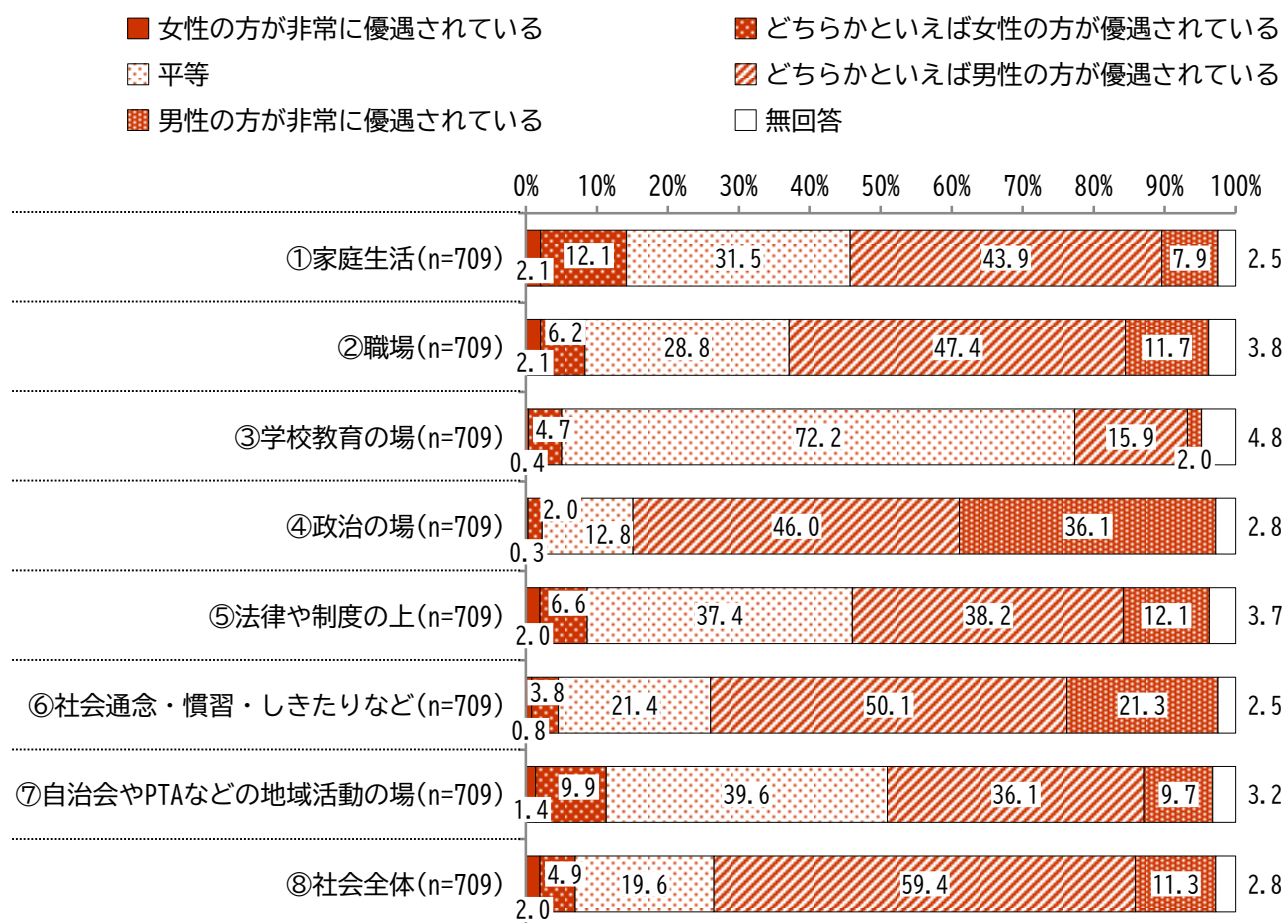
図表 11 言葉の理解度（問 9）



問 10 次にあげる分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについてお答えください。【①～⑧のそれぞれについて○は1つ】

- 「③学校教育の場」と「⑦自治会や PTA などの地域活動の場」以外のすべての項目で、『男性優遇』（「どちらかといえば男性の方が優遇されている」＋「男性の方が非常に優遇されている」）が半数以上を占めている。特に、「④政治の場」では『男性優遇』が8割強、「⑥社会通念・慣習・しきたりなど」「⑧社会全体」では約7割と非常に多い。
- 「③学校教育の場」では、「平等」が72.2%と最も多い。

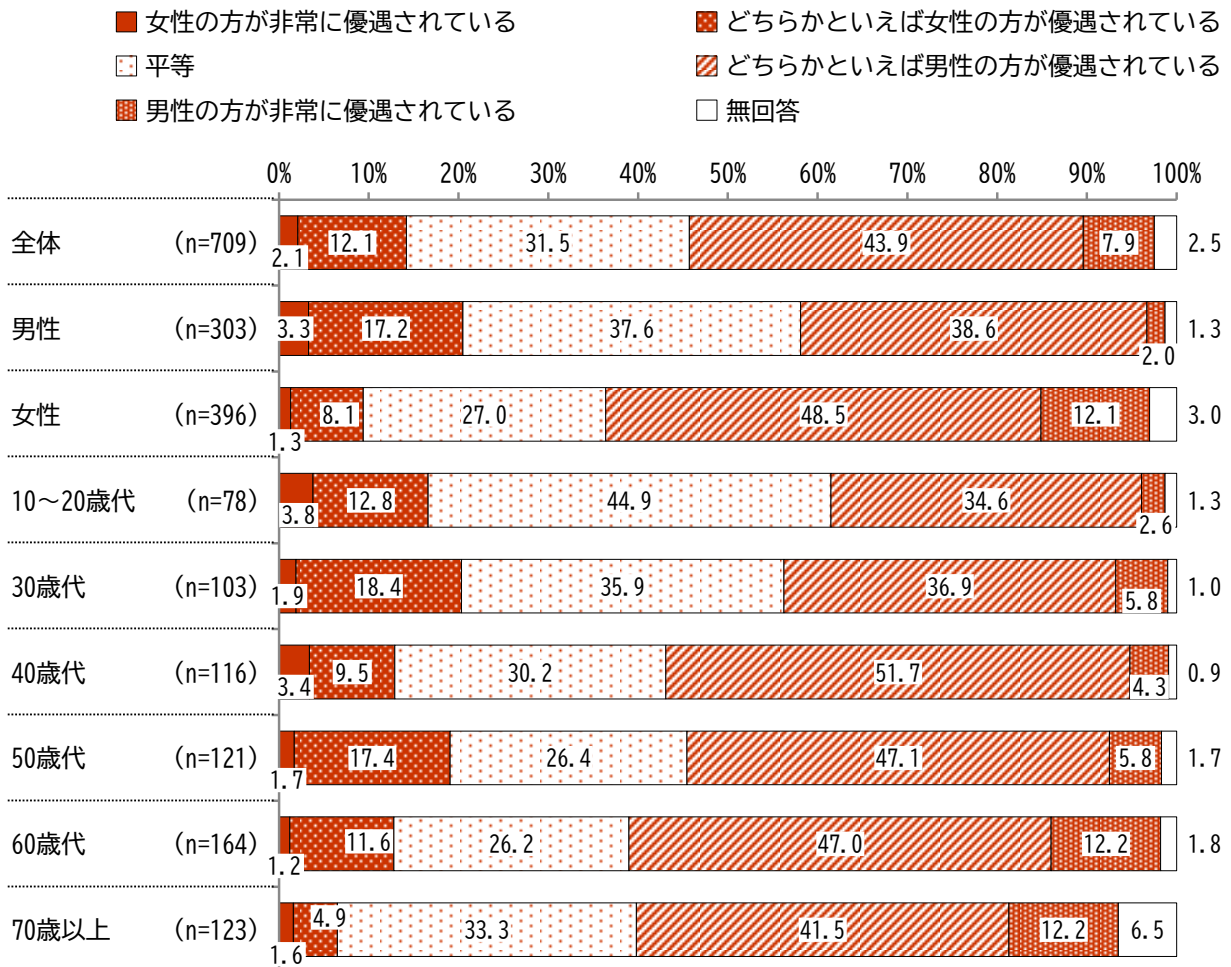
図表 12 男女の地位



①家庭生活

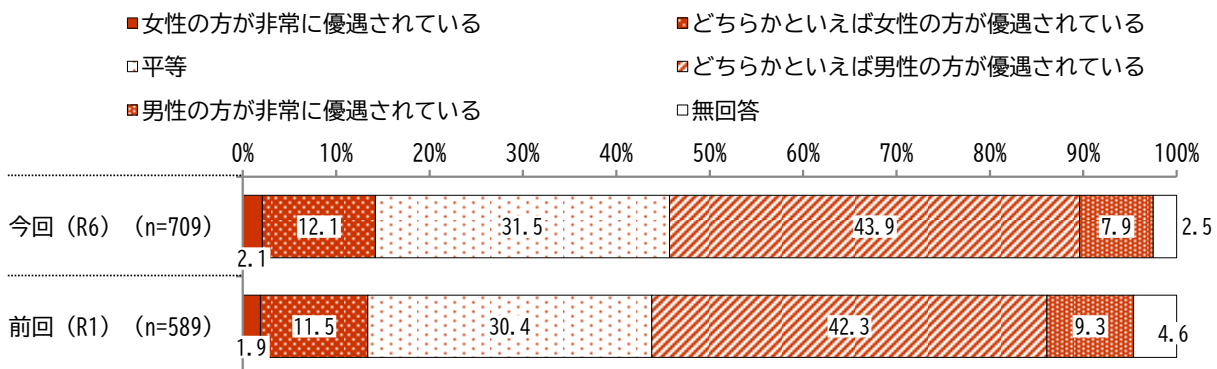
- 性別でみると、『男性優遇』については男性で 40.6%、女性で 60.6%と、女性が男性より 20.0 ポイント多い。一方で、「平等」については男性が 37.6%、女性が 27.0%と、男性が女性より 10.6 ポイント多く、男女で家庭生活における地位について感じ方に大きな差がみられる。
- 年代別でみると、年齢が高いほど『男性優遇』と感じている人が多い傾向にある。また、10～20 歳代では「平等」が 44.9%と最も多い。

図表 13 男女の地位①家庭生活（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

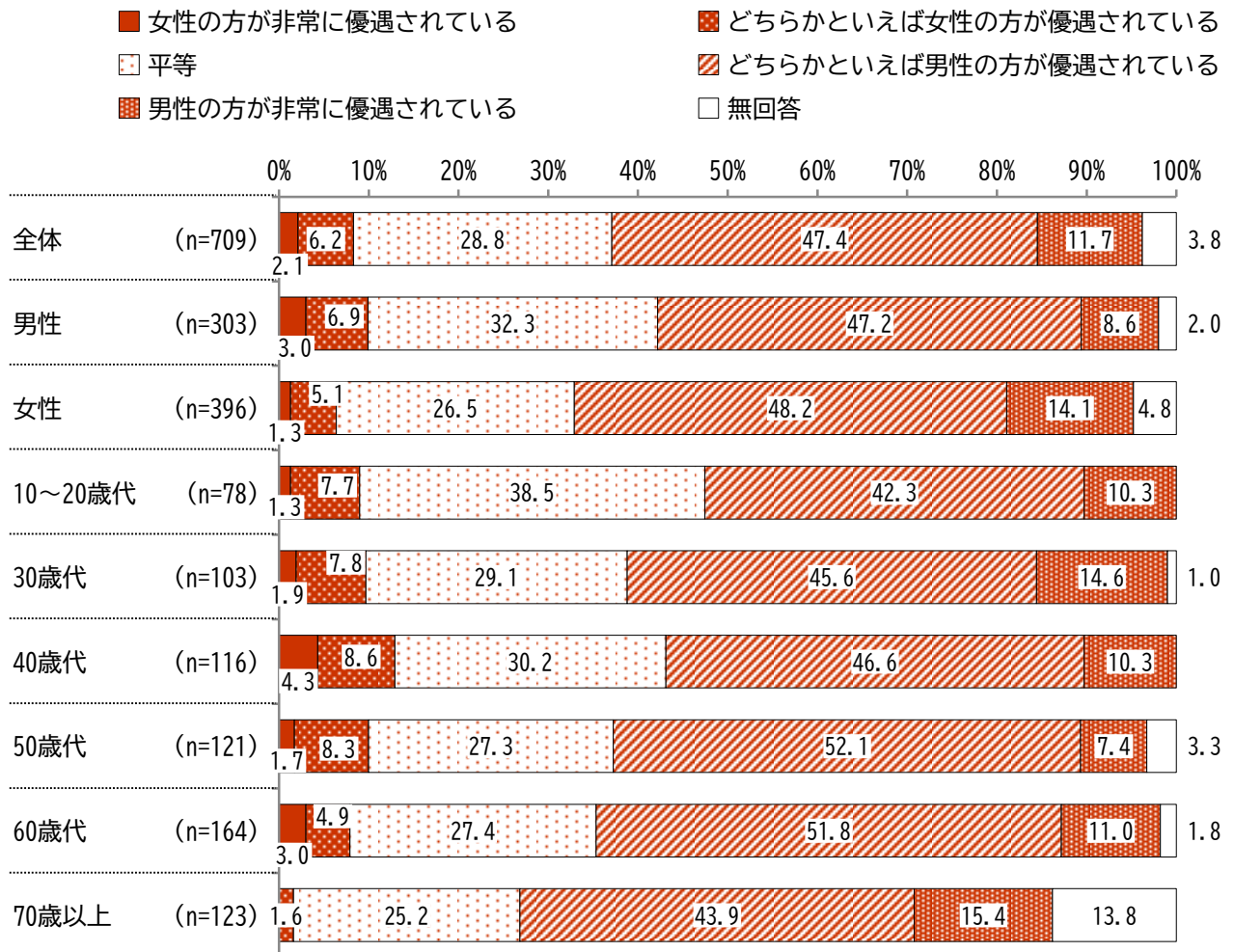
図表 14 男女の地位①家庭生活（経年比較）



②職場

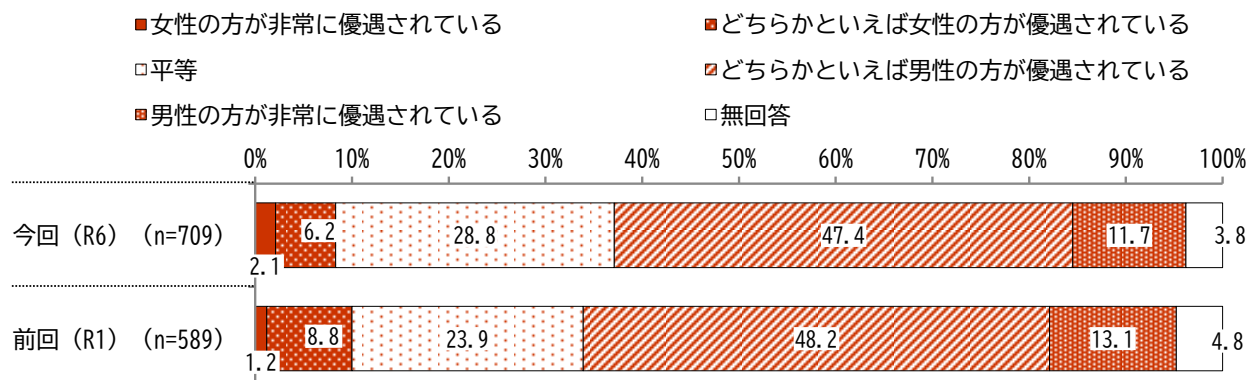
- 性別でみると、男女共に『男性優遇』が最も多く、男性で 55.8%、女性で 62.3%となっている。
- 年代別でみると、すべての年代で『男性優遇』が半数以上を占め、年齢が高いほど『男性優遇』の割合が多い傾向にある。

図表 15 男女の地位②職場（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

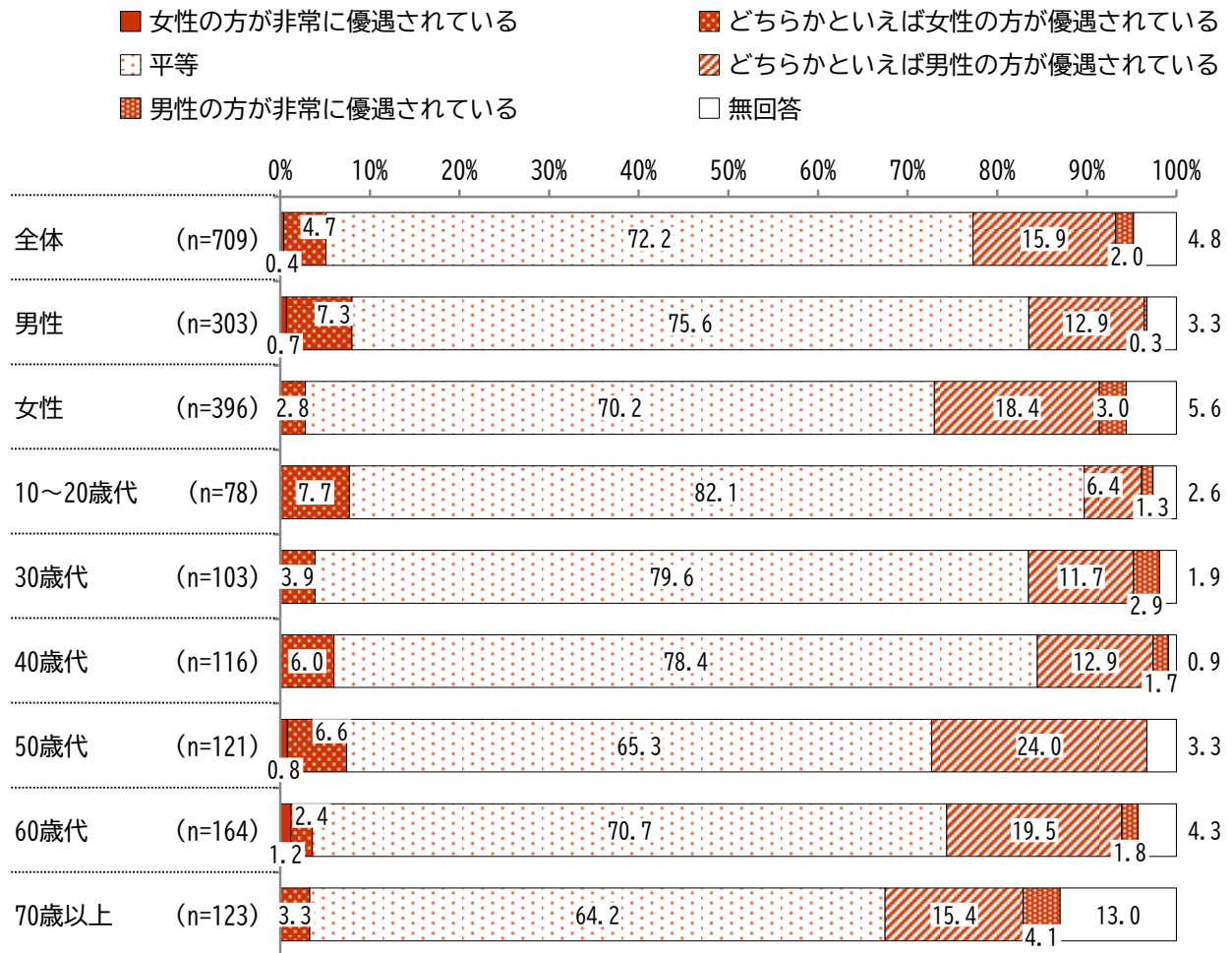
図表 16 男女の地位②職場（経年比較）



③学校教育の場

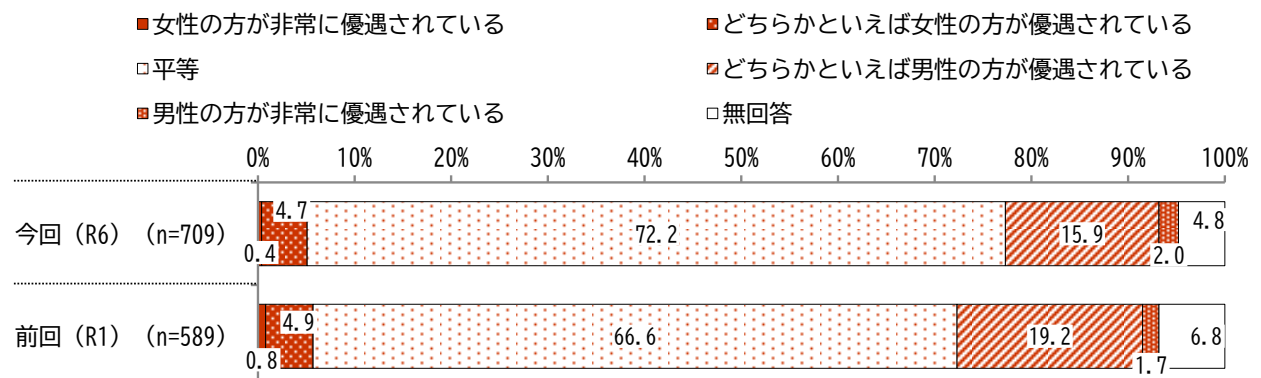
- 性別でみると、男女共に「平等」が7割以上と最も多い一方で、『男性優遇』については男性で13.2%、女性で21.4%と、女性が男性より8.2ポイント多い。
- 年代別でみると、全年齢で「平等」が最も多いが、年齢が高いほど『男性優遇』の割合が多い傾向にある。

図表 17 男女の地位③学校教育の場（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

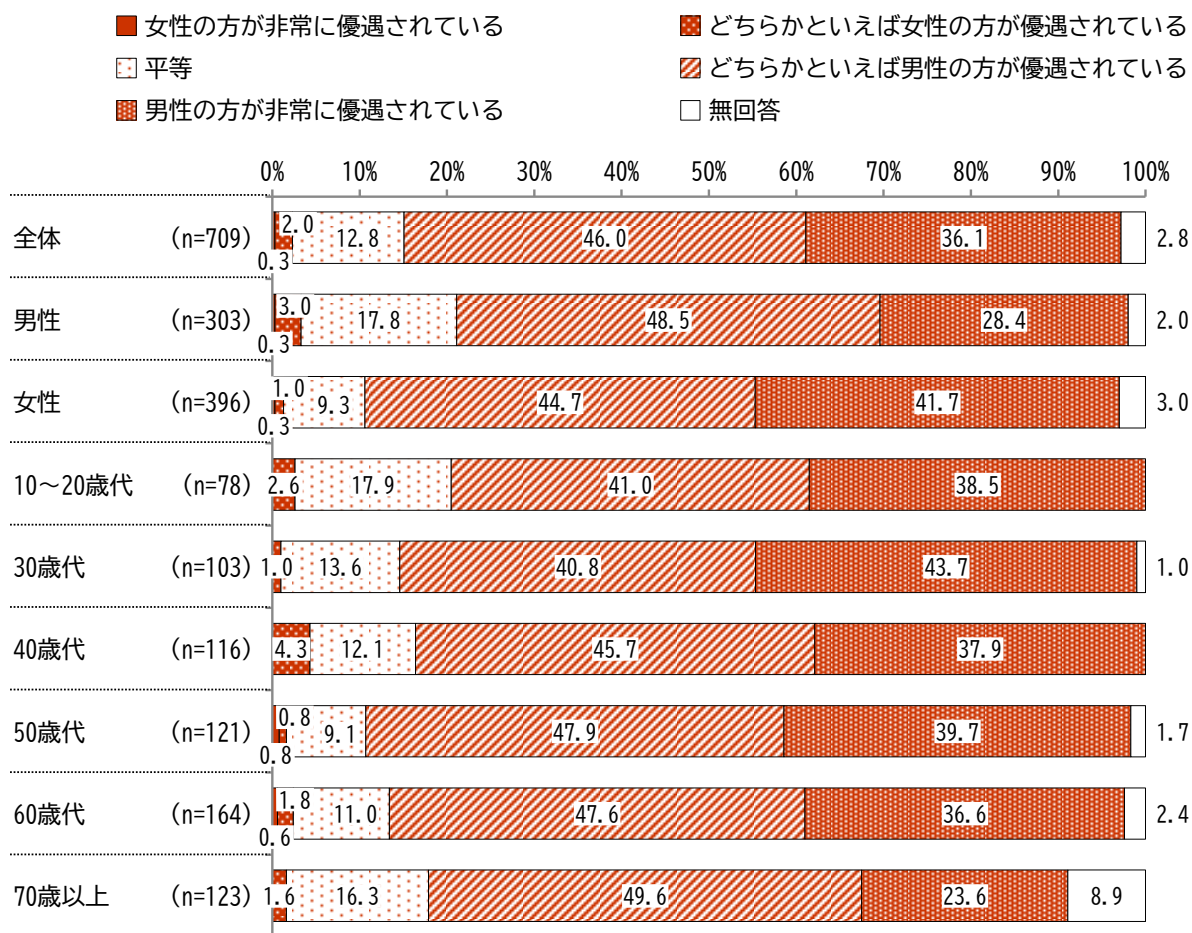
図表 18 男女の地位③学校教育の場（経年比較）



④政治の場

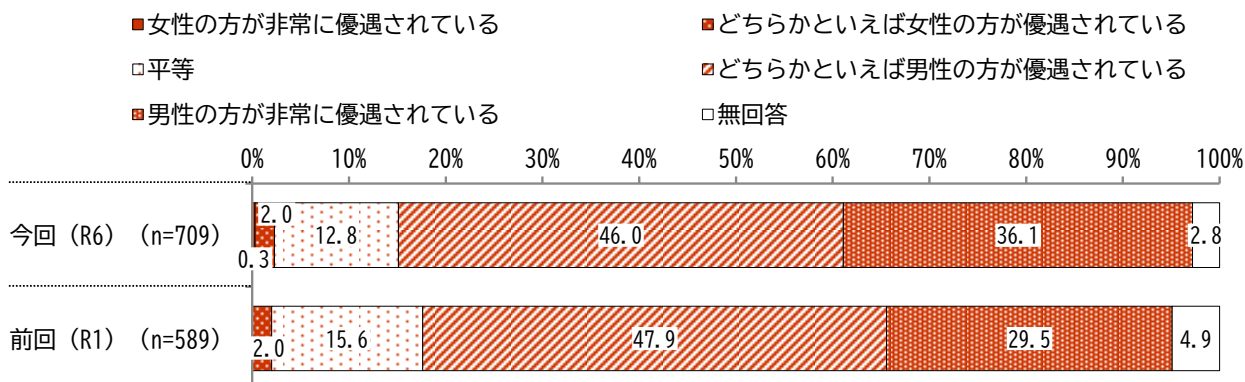
- 性別でみると、男女共に『男性優遇』が最も多く、女性は86.4%、男性は76.9%と、女性が男性より9.5ポイント多い。
- 年代別でみると、30～60歳代で『男性優遇』が8割を超えている。

図表 19 男女の地位④政治の場（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられないが、『男性優遇』で前回は77.4%、今回は82.1%と、今回は前回に比べて4.7ポイント多くなっている。

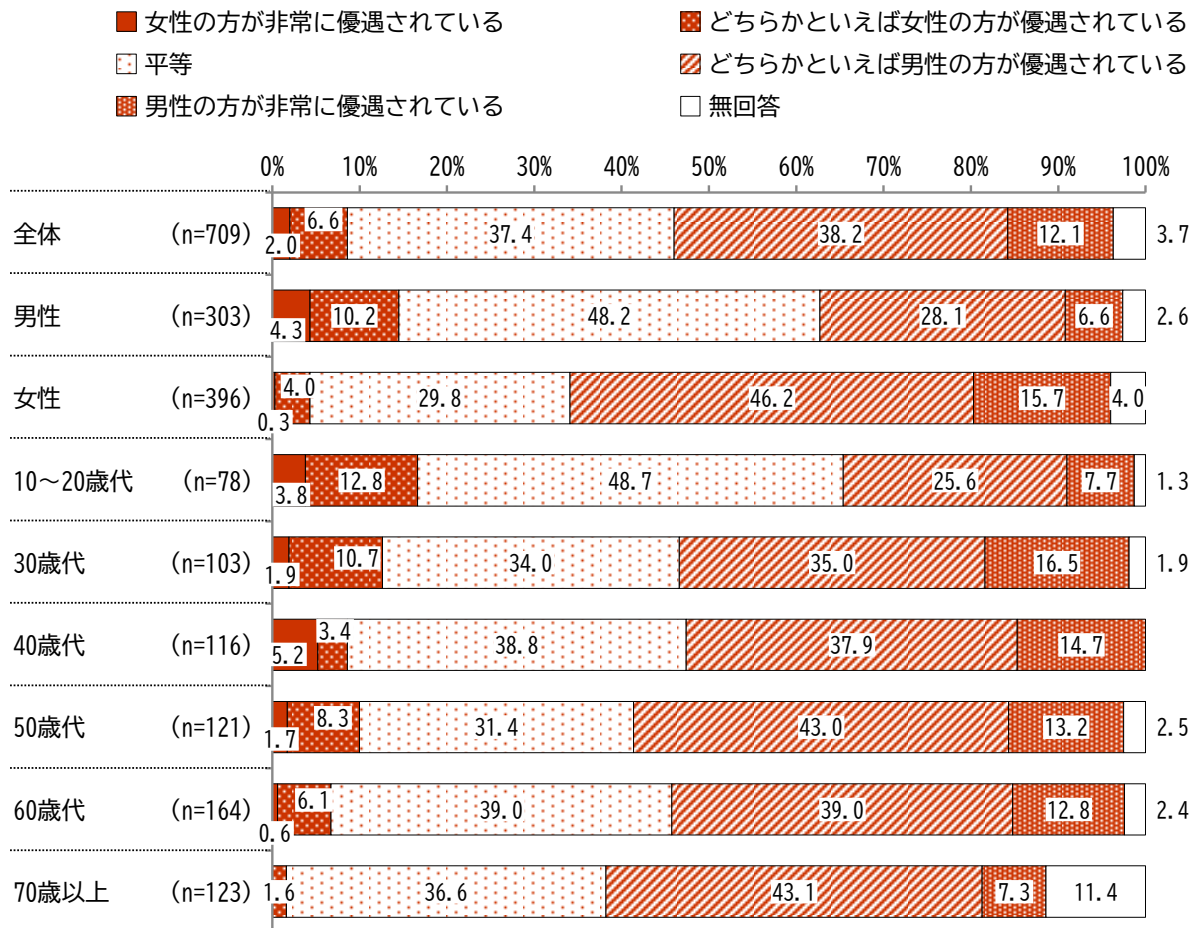
図表 20 男女の地位④政治の場（経年比較）



⑤法律や制度の上

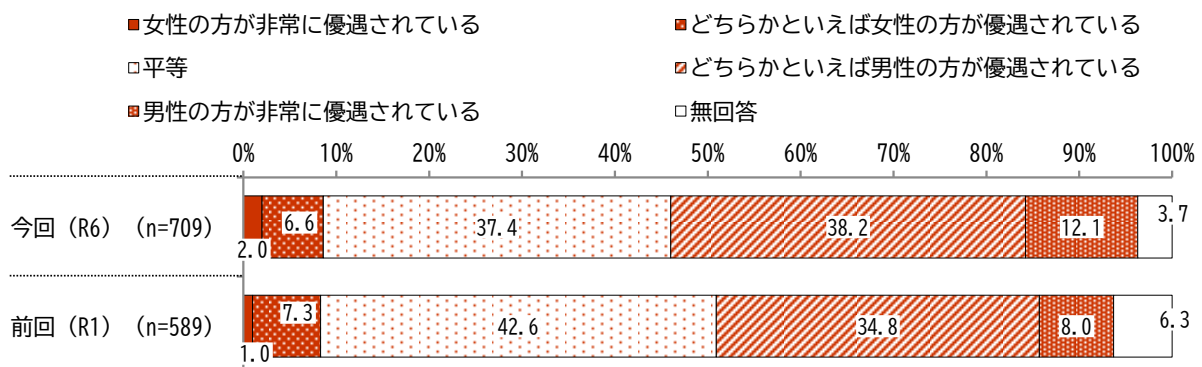
- 性別でみると、『男性優遇』が男性は 34.7%、女性は 61.9%と、女性が男性より 27.2 ポイント多く、男女で法律や制度の上での地位について感じ方に大きな差がみられる。
- 年代別でみると、10～20 歳代以外のすべての年代で『男性優遇』が最も多く、年齢が高いほど割合が多くなる傾向にある。10～20 歳代では、「平等」が 48.7%と最も多くなっている。

図表 21 男女の地位⑤法律や制度の上（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられないが、『男性優遇』で前回は 42.8%、今回は 50.3%と、今回は前回に比べて 7.5 ポイント多くなっている。

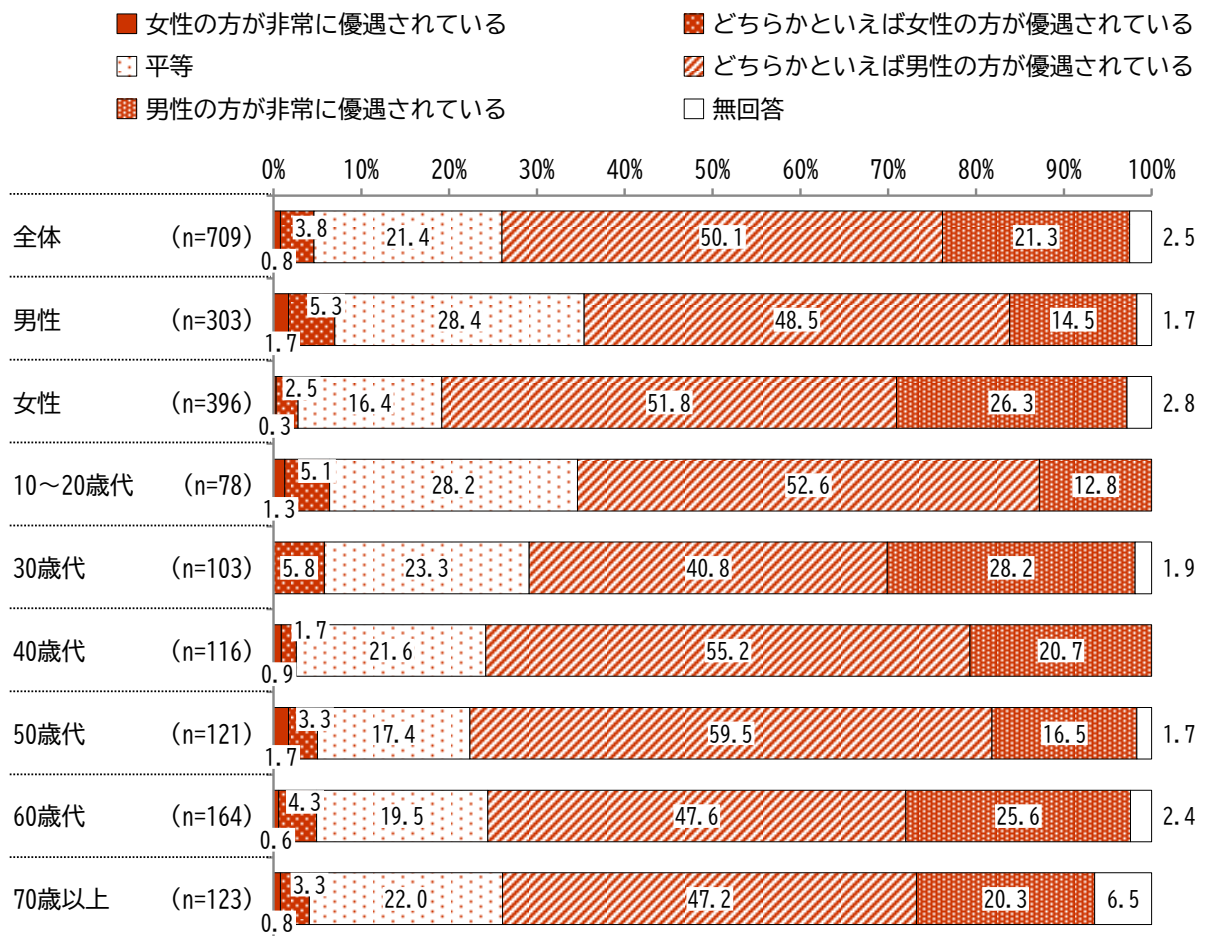
図表 22 男女の地位⑤法律や制度の上（経年比較）



⑥社会通念・慣習・しきたりなど

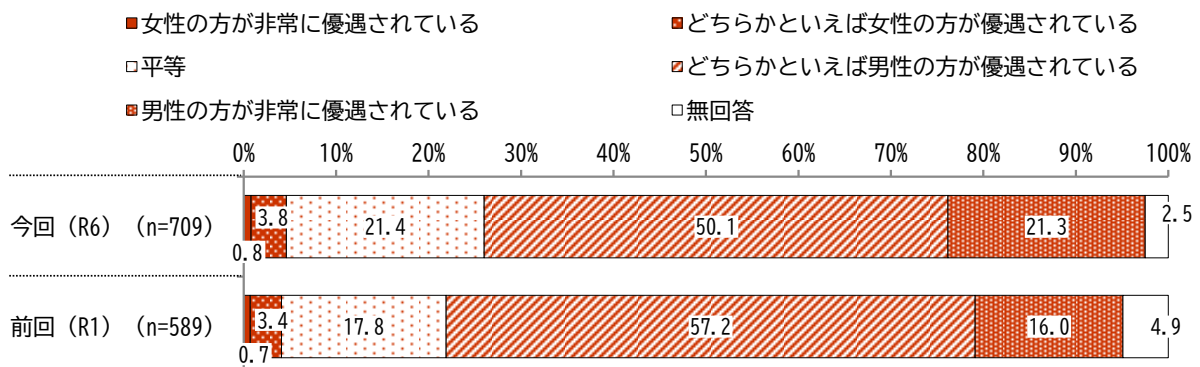
- 性別でみると、男女共に『男性優遇』が最も多く、男性は 63.0%、女性は 78.1%と、女性が男性より 15.1 ポイント多い。
- 年代別でみると、すべての年代で『男性優遇』が最も多く、特に 40～60 歳代では 7 割以上となっている。

図表 23 男女の地位⑥社会通念・慣習・しきたりなど（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

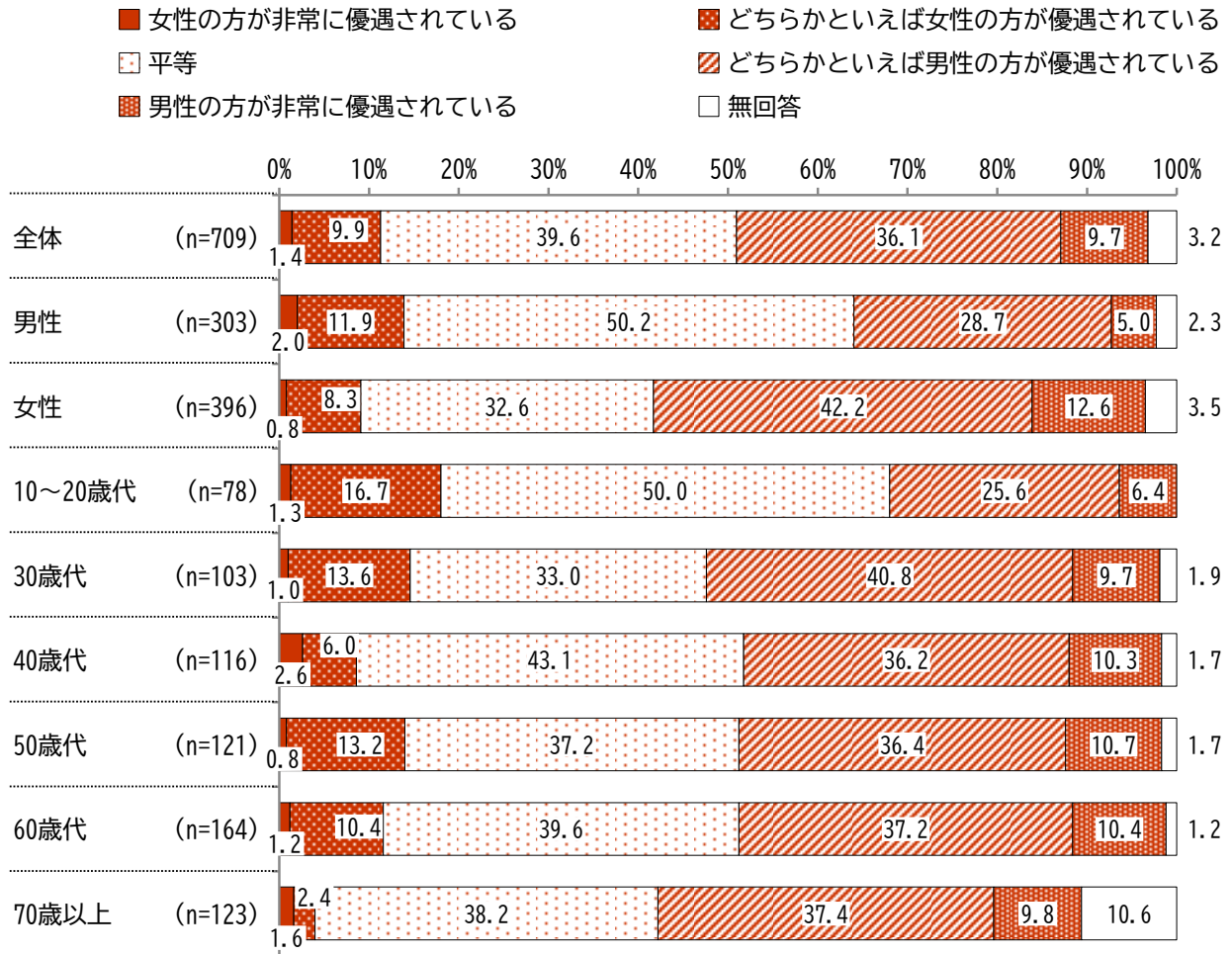
図表 24 男女の地位⑥社会通念・慣習・しきたりなど（経年比較）



⑦自治会や PTA などの地域活動の場

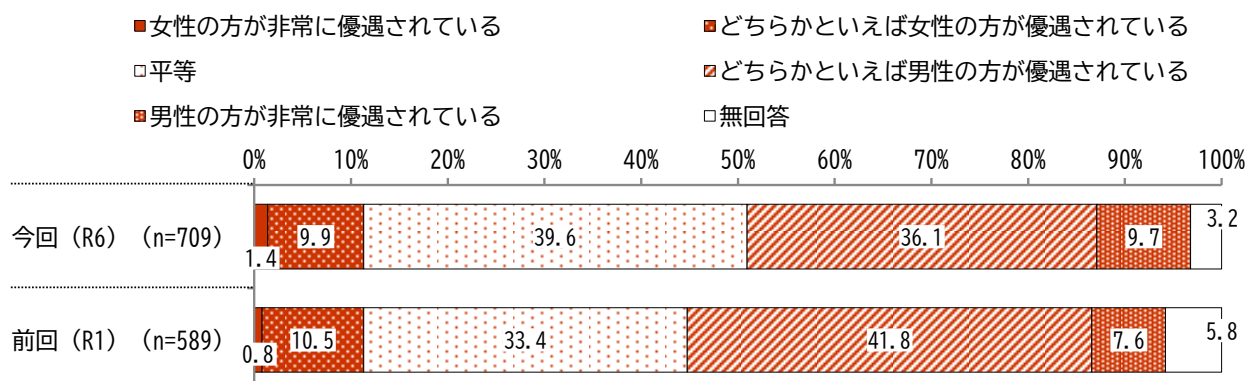
- 性別でみると、『男性優遇』が男性は 33.7%、女性は 54.8%と、女性が男性より 21.1 ポイント多く、男女で自治会や PTA などの地域活動の場での地位について感じ方に大きな差がみられる。
- 年代別でみると、10～20 歳代では「平等」が 50.0%と最も多く、30～70 歳以上では『男性優遇』が最も多い。

図表 25 男女の地位⑦自治会や PTA などの地域活動の場（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

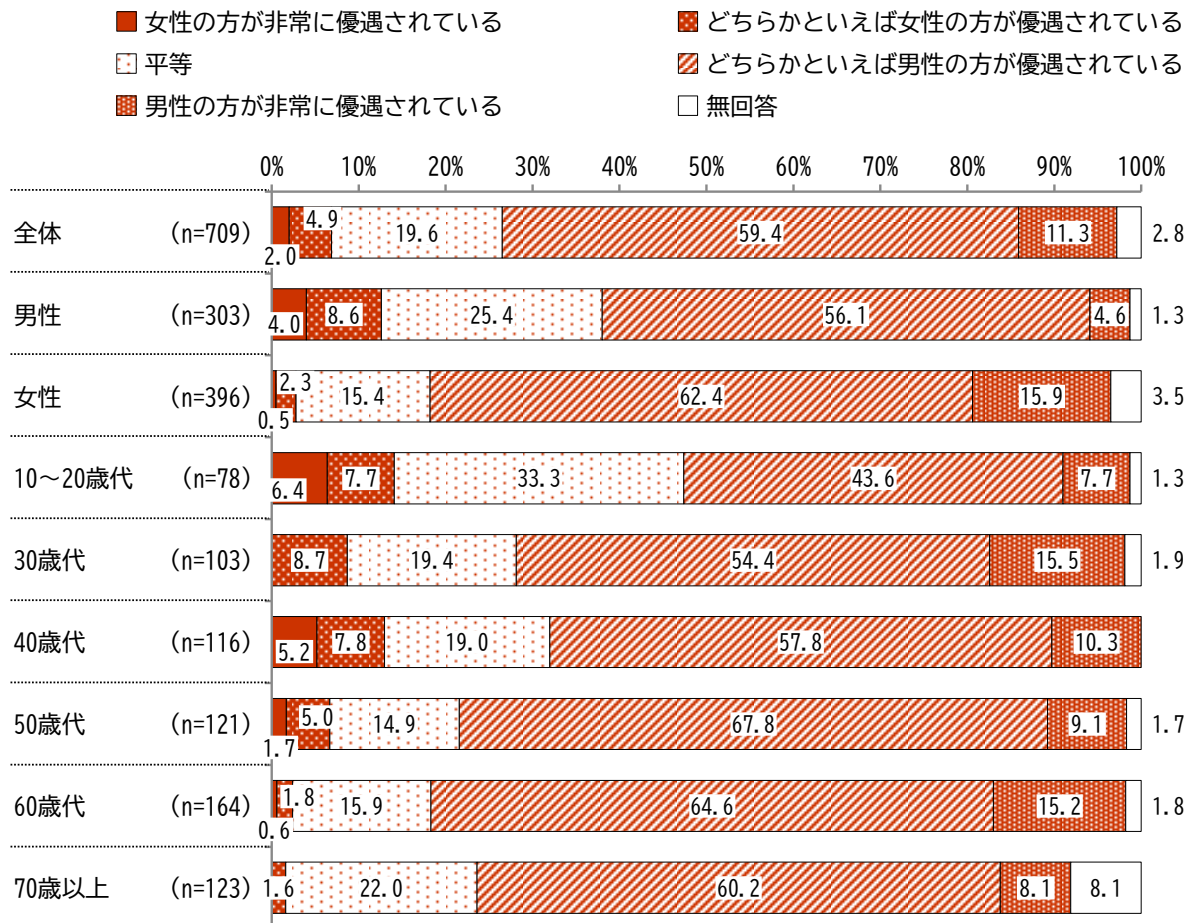
図表 26 男女の地位⑦自治会や PTA などの地域活動の場（経年比較）



⑧社会全体

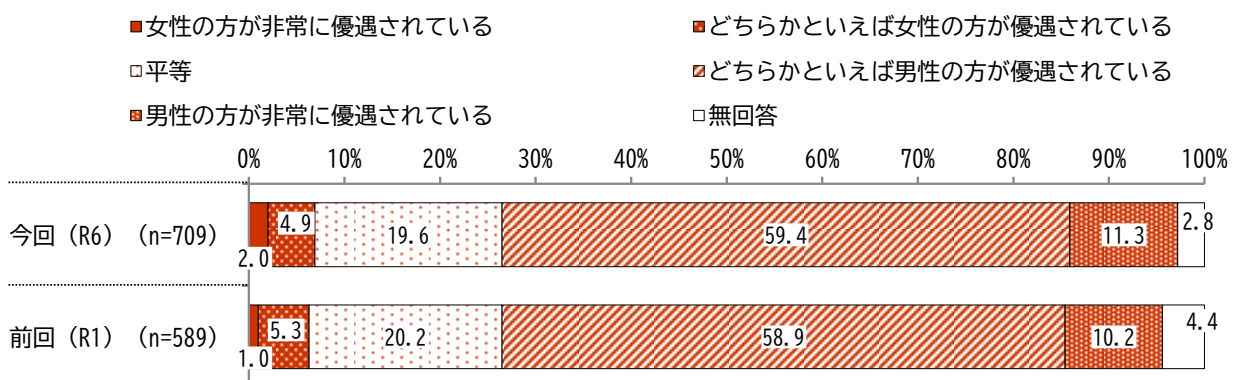
- 性別でみると、『男性優遇』が男性は 60.7%、女性は 78.3%と、女性が男性より 17.6 ポイント多い。
- 年代別でみると、すべての年代で『男性優遇』が最も多い。その一方で、『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）は、年齢が低いほど多い傾向にある。また、10～20 歳代では「平等」が 33.3%とほかの年代に比べて多い。

図表 27 男女の地位⑧社会全体（性・年代別）



- 前回調査と比較してみると、ほとんど差はみられない。

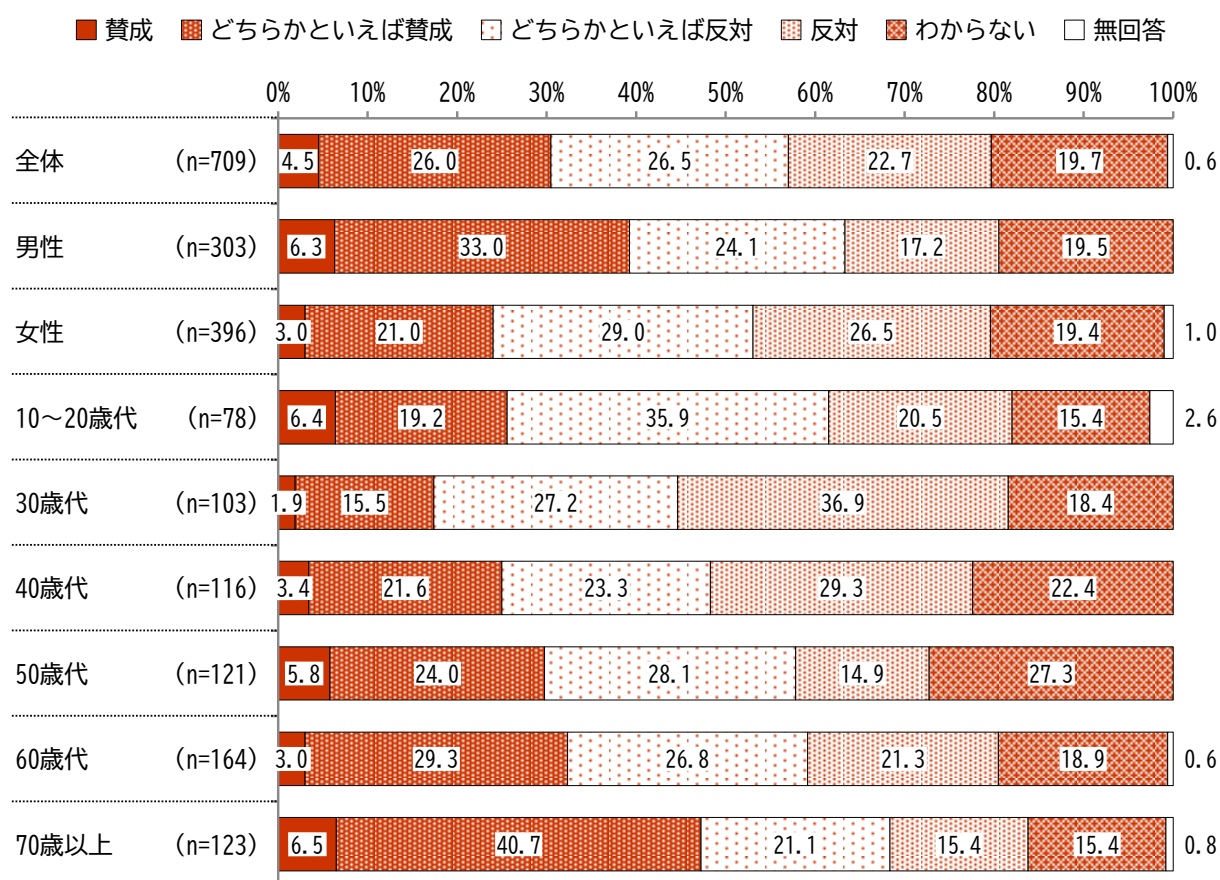
図表 28 男女の地位⑧社会全体（経年比較）



問 11 「夫は家計を支え（働いて収入を得る）、妻は家庭を支える（家事・子育て・介護等を行う）べきである」という考え方について、どう思いますか。【○は1つ】

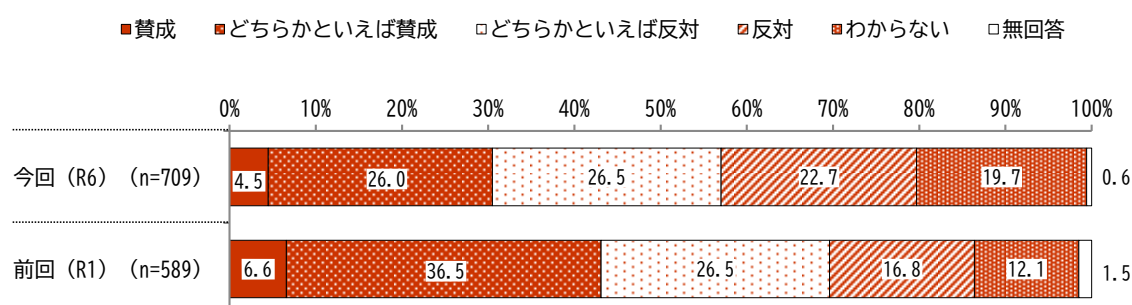
- 全体でみると、『賛成派』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が 30.5%、『反対派』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が 49.2%と『反対派』が『賛成派』より 18.7 ポイント多い。
- 性別でみると、『反対派』が男性で 41.3%、女性で 55.5%と、女性が男性より 14.2 ポイント多い。
- 年代別でみると、70 歳以上を除くすべての年代では『反対派』が最も多く、特に 30 歳代では 64.1%となっている。一方で、70 歳以上では『賛成派』が 47.2%と半数を占めている。

図表 29 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべき」という考え方について（性・年代別）



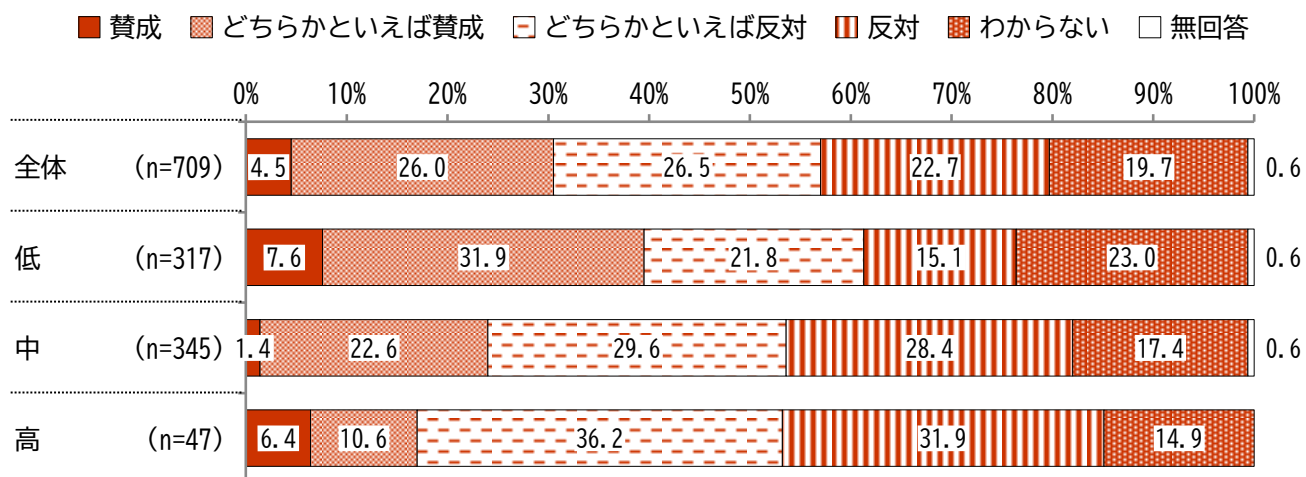
- 前回調査と比較してみると、『反対派』について、前회가 43.3%、今回は 49.2%と、今回は前回より 5.9 ポイント多くなっている。

図表 30 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべき」という考え方について（経年比較）



- 「夫は家計を支え（働いて収入を得る）、妻は家庭を支える（家事・子育て・介護等を行う）べきである」という考え方について、言葉の理解度（問9）別でみると、「低」では『賛成派』が39.5%となっており、理解度が高い層よりも多くなっている。

図表 31 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべき」（言葉の理解度（問9）別）

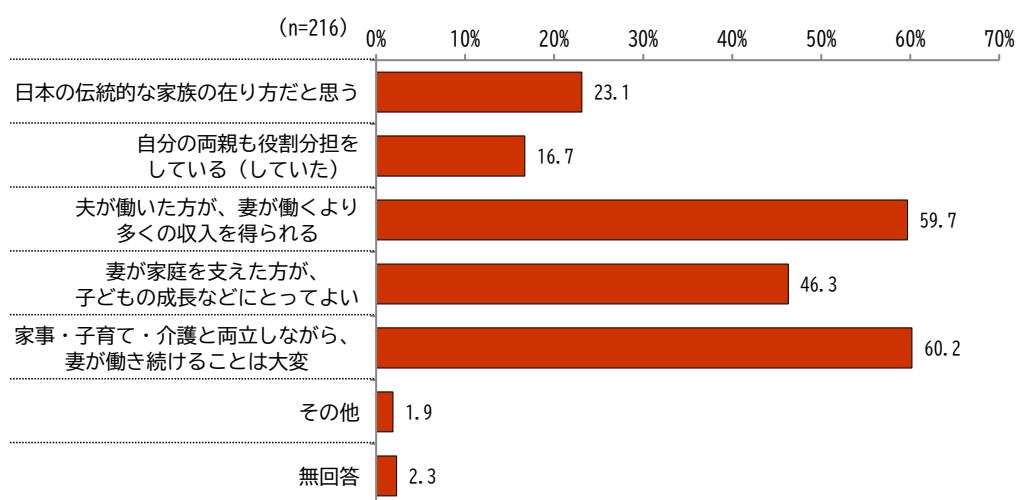


問 11 で「賛成」「どちらかといえば賛成」に○をつけた人にお聞きします。

問 11-1 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきである」という考え方に賛成の理由は何ですか。
【○はいくつでも】

- 『賛成派』の理由として、「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変」が 60.2%と最も多く、次いで「夫が働いた方が、妻が働くより多くの収入を得られる」が 59.7%、「妻が家庭を支えた方が、子どもの成長などにとってよい」が 46.3%となっている。

図表 32 賛成派の理由（問 11 で『賛成派』の人）

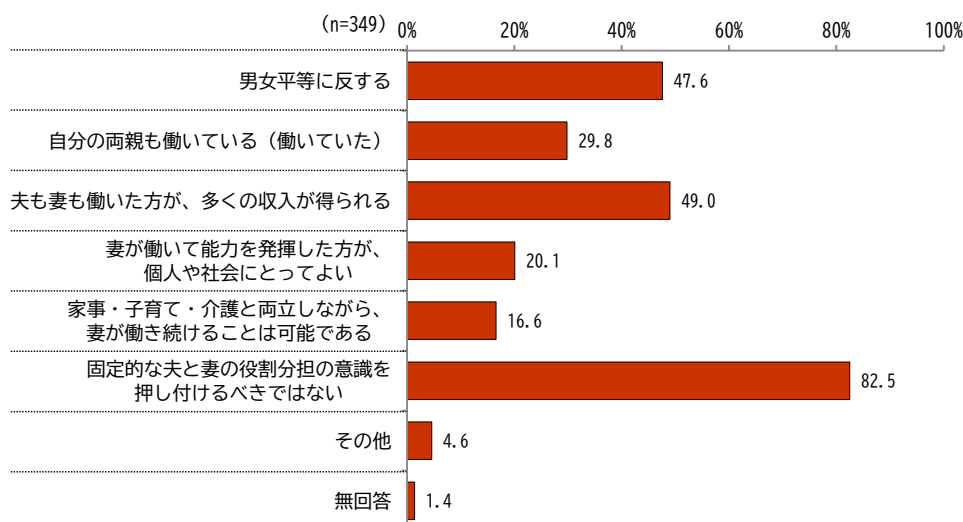


問 11 で「どちらかといえば反対」「反対」に○をつけた人にお聞きします。

問 11-1 「夫は家計を支え、妻は家庭を支えるべきである」という考え方に反対の理由は何ですか。
【○はいくつでも】

- 『反対派』の理由では、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではない」が 82.5%と最も多く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られる」が 49.0%、「男女平等に反する」が 47.6%となっている。

図表 33 反対の理由（問 11 で『反対派』の人）

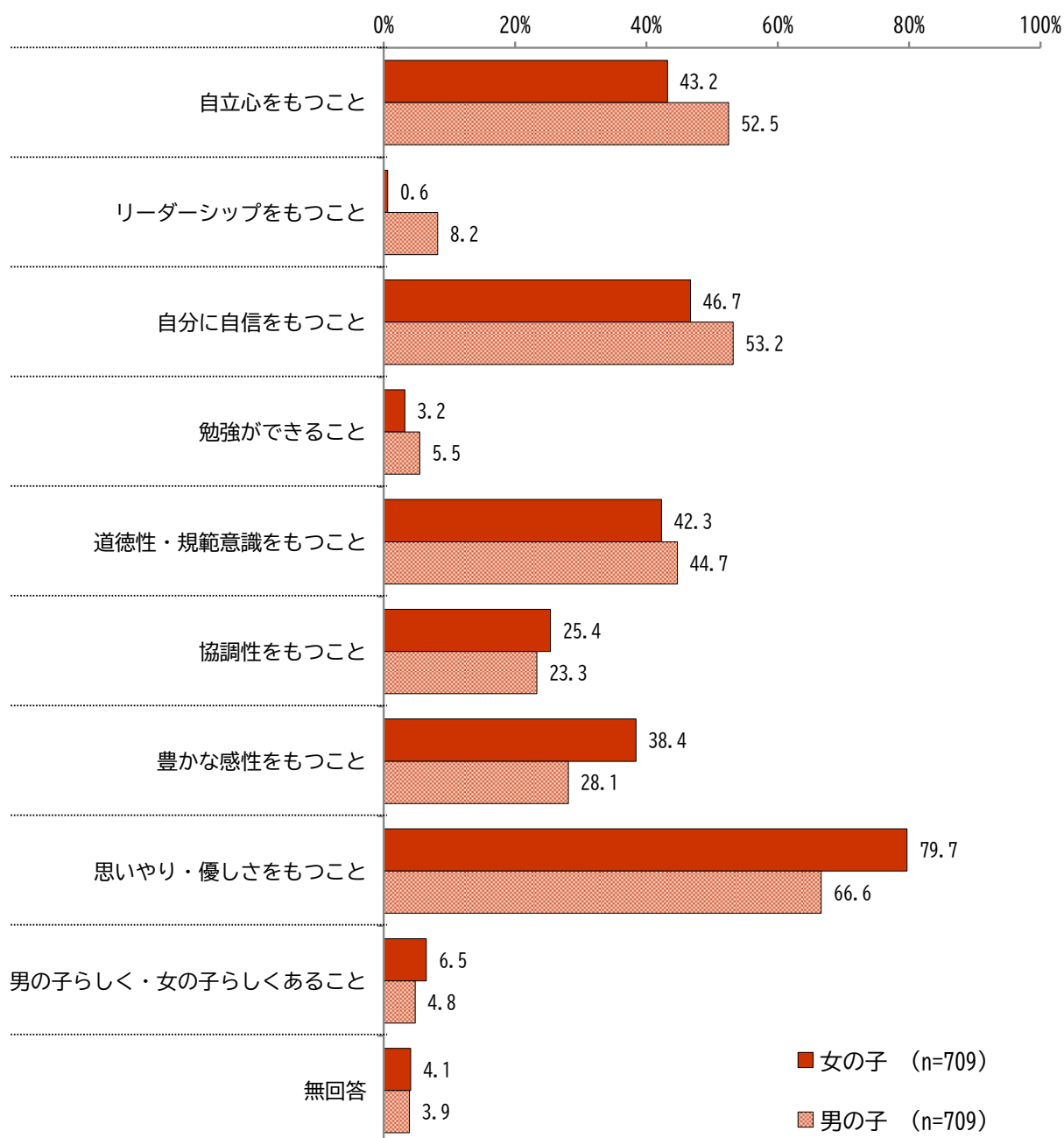


問 12 あなたが子どもに望むことは何ですか。太枠の中から該当する番号を選び、上位 3 つまでをそれぞれお答えください。(子どもがいない場合も、子どもがいると想定してお答えください)
【男の子、女の子についてそれぞれ上位 3 つを選択】

女の子に望むこと、男の子に望むこと【〇は 3 つまで】

- 女の子に望むことと男の子に望むことを比較すると、男女ともに「思いやり・優しさをもつこと」「自分に自信をもつこと」「自立心をもつこと」が望まれている。
- 「協調性をもつこと」「豊かな感性をもつこと」「思いやり・優しさをもつこと」は女の子が、「自立心をもつこと」「リーダーシップをもつこと」「自分に自信をもつこと」は男の子が、より望まれている傾向にある。

図表 34 子どもに望むこと

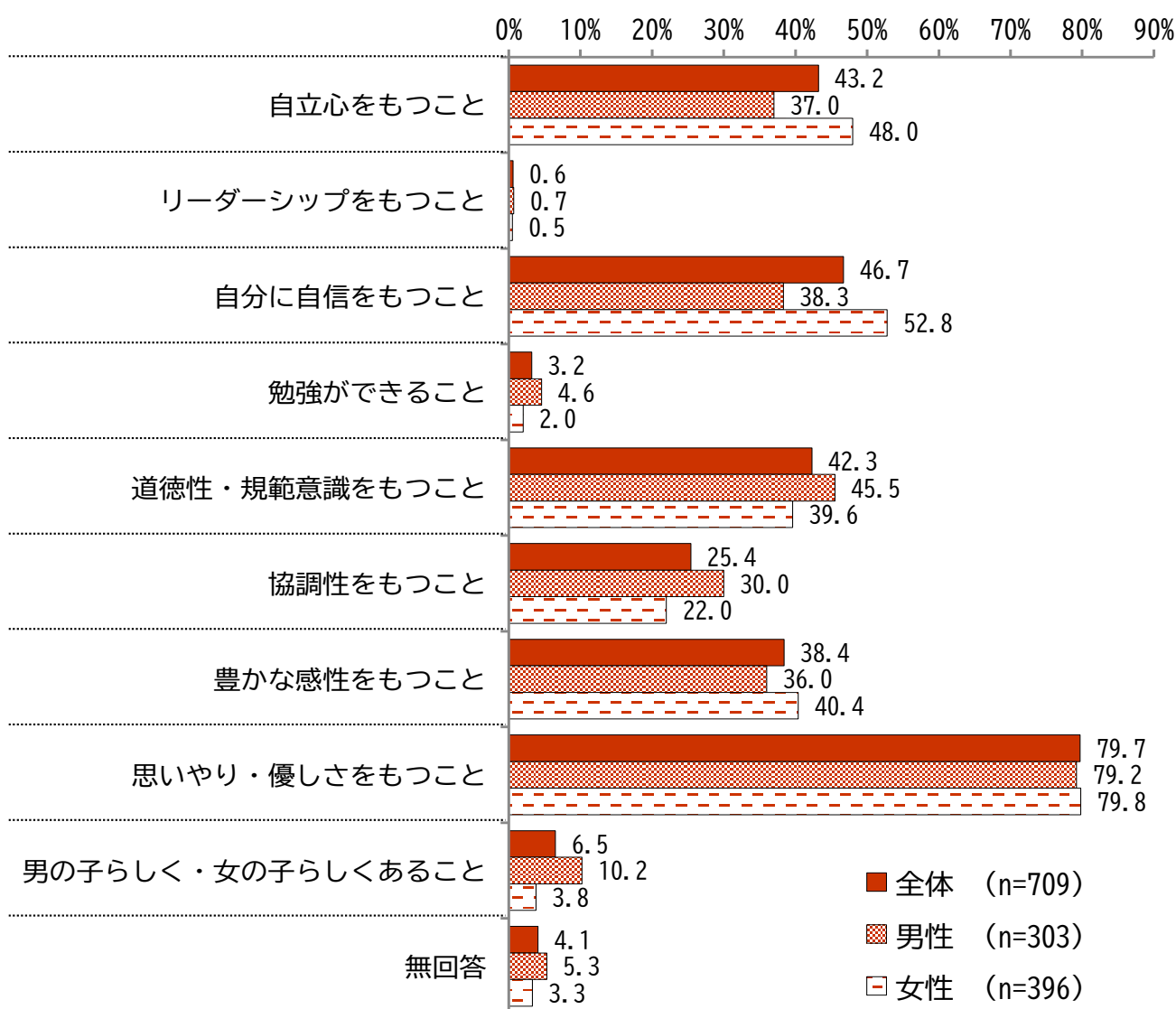


問 12 あなたが子どもに望むことは何ですか。太枠の中から該当する番号を選び、上位 3 つまでをそれぞれお答えください。（子どもがいない場合も、子どもがいると想定してお答えください）

女の子に望むこと【〇は3つまで】

- 女の子に望むことでは、全体で見ると、「思いやり・優しさをもつこと」が 79.7%と最も多く、次いで「自分に自信をもつこと」が 46.7%、「自立心をもつこと」が 43.2%となっている。
- 性別で見ると、女性では「自分に自信をもつこと」「自立心をもつこと」を女の子に望む割合が、男性より 10.0 ポイント以上多くなっている。

図表 35 女の子に望むこと（性別）



- 女の子に望むことを年代別でみると、すべての年代で「思いやり・優しさをもつこと」が最も多い。
次いで、10～50 歳代では「自分に自信をもつこと」、60～70 歳以上では「自立心をもつこと」が多い。

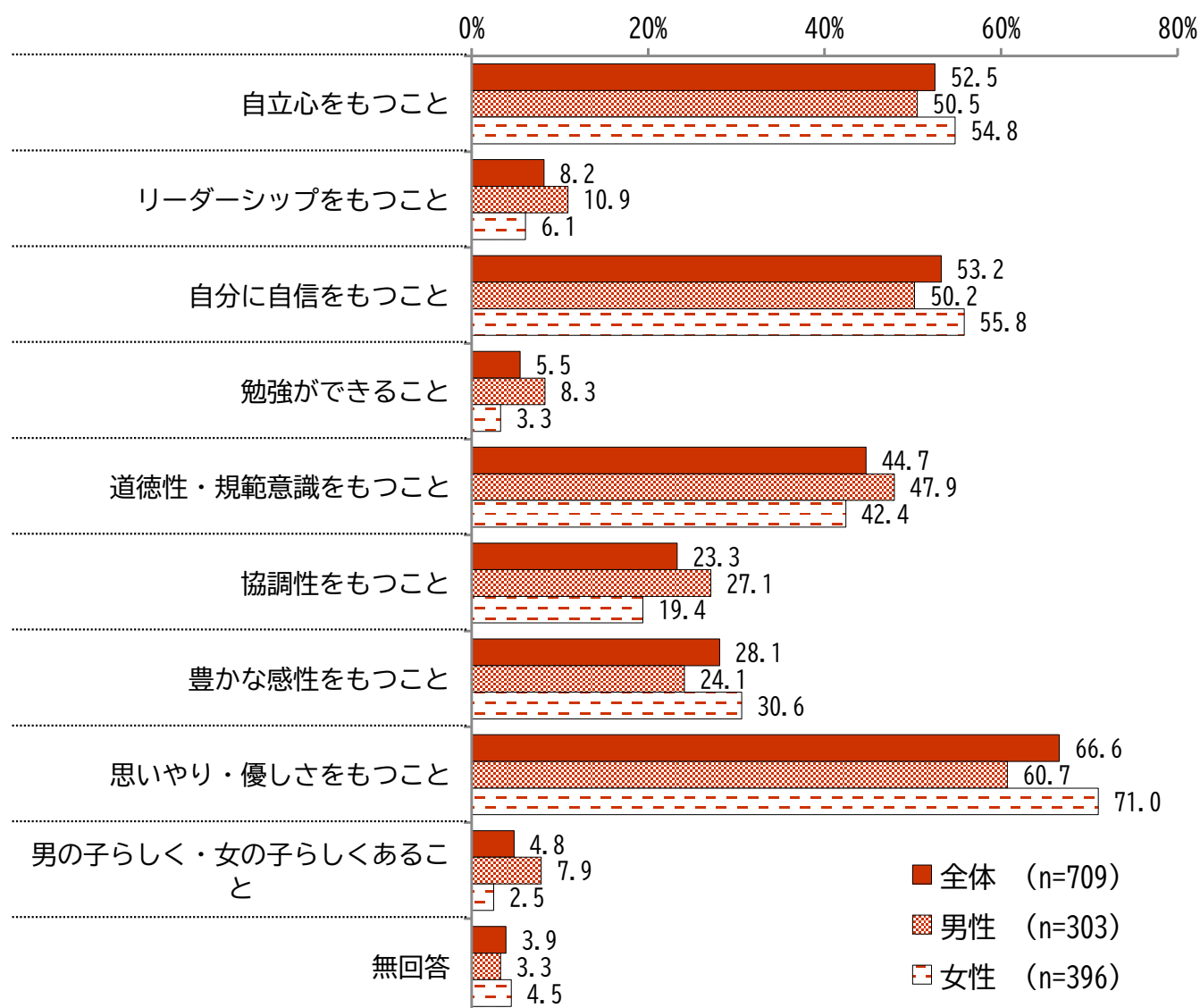
図表 36 女の子に望むこと（年代別）

		全 体	自 立 心 を も つ こ と	プ リ ー ダ ー シ ッ を も つ こ と	自 分 に 自 信 を も つ こ と	勉 強 が で き る こ と	意 道 識 を も つ こ と 徳 性 ・ 規 範	協 調 性 を も つ こ と	豊 か な 感 性 を も つ こ と	思 い や り ・ 優 し さ を も つ こ と	男 の 子 ら し く ・ 女 の 子 ら し く あ る こ と	無 回 答
全体		709	306	4	331	23	300	180	272	565	46	29
		100.0	43.2	0.6	46.7	3.2	42.3	25.4	38.4	79.7	6.5	4.1
年 代 別	10～20歳代	78	22	2	41	1	35	20	31	63	5	3
		100.0	28.2	2.6	52.6	1.3	44.9	25.6	39.7	80.8	6.4	3.8
	30歳代	103	37	-	62	5	40	25	44	88	5	1
		100.0	35.9	-	60.2	4.9	38.8	24.3	42.7	85.4	4.9	1.0
	40歳代	116	52	-	59	1	55	29	43	99	4	2
		100.0	44.8	-	50.9	0.9	47.4	25.0	37.1	85.3	3.4	1.7
	50歳代	121	59	-	63	5	41	33	46	101	4	2
		100.0	48.8	-	52.1	4.1	33.9	27.3	38.0	83.5	3.3	1.7
	60歳代	164	72	1	67	7	72	46	61	123	12	10
		100.0	43.9	0.6	40.9	4.3	43.9	28.0	37.2	75.0	7.3	6.1
	70歳以上	123	61	1	37	4	54	26	47	88	16	11
		100.0	49.6	0.8	30.1	3.3	43.9	21.1	38.2	71.5	13.0	8.9

男の子に望むこと【〇は3つまで】

- 男の子に望むことでは、全体でみると、「思いやり・優しさをもつこと」が66.6%と最も多く、次いで「自分に自信をもつこと」が53.2%、「自立心を持つこと」が52.5%となっている。
- 性別でみると、「思いやり・優しさをもつこと」は男性で60.7%、女性で71.0%と、男性より女性が10.3ポイント多い。また、「協調性をもつこと」は男性で27.1%、女性で19.4%と、女性より男性が7.7ポイント多い。

図表 37 男の子に望むこと（性別）



- 男の子に望むことを年代別でみると、70歳以上以外のすべての年代で「思いやり・優しさをもつこと」が最も多く、年齢が低いほどその割合が多い傾向にある。

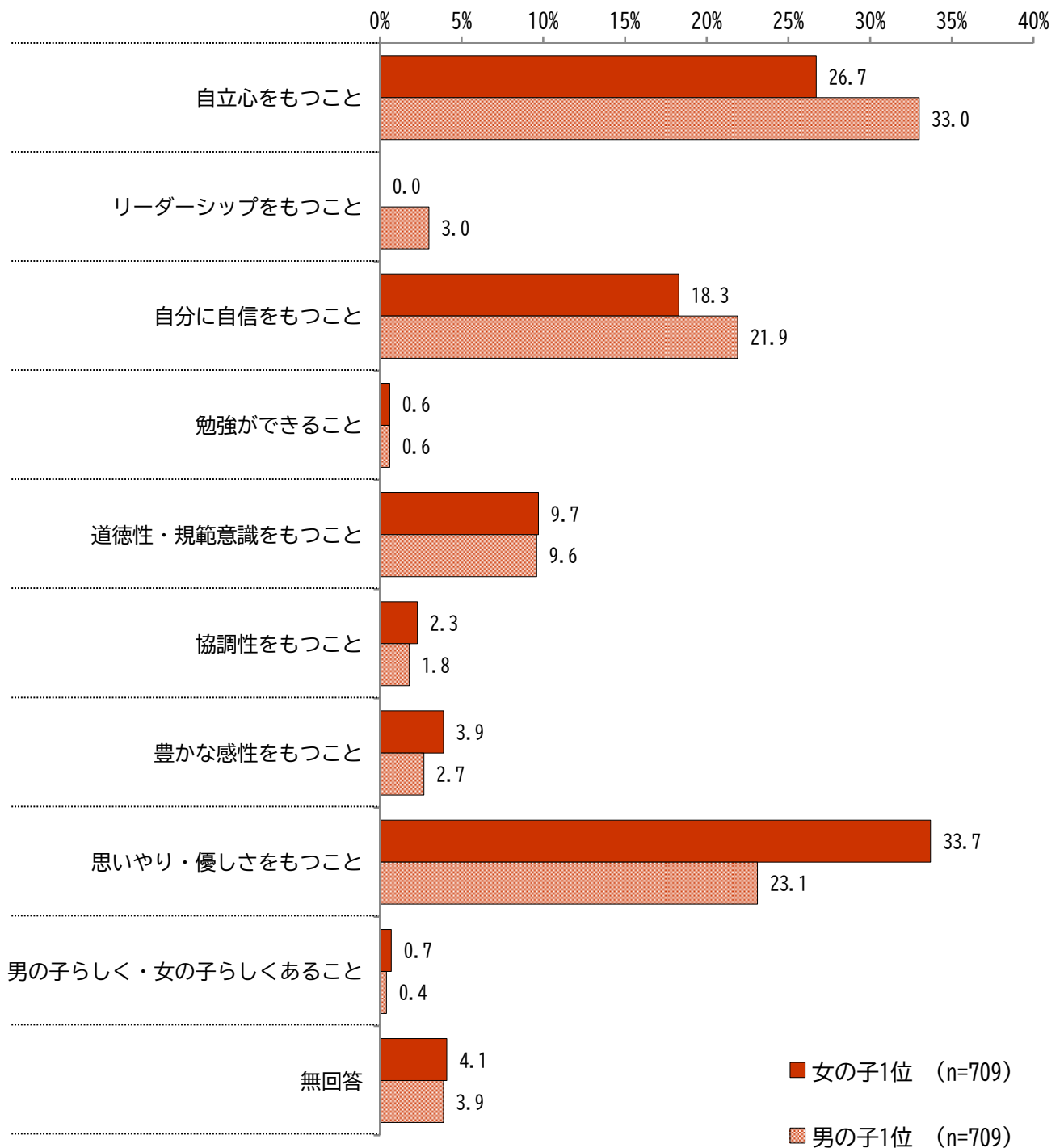
図表 38 男の子に望むこと（年代別）

		全体	自立 心をも つこと	プ リ ー ダ ー シ ッ と	自 分 に 自 信 を も つ こ と	勉 強 が で き る こ と	意 道 徳 性 ・ 規 範 こ と	協 調 性 を も つ こ と	豊 か な 感 性 を も つ こ と	思 い や り ・ 優 し さ を も つ こ と	少 く ・ 女 の 子 ら し く あ る こ と	男 の 子 ら し く あ る こ と	無 回 答
全体		709	372	58	377	39	317	165	199	472	34	28	
		100.0	52.5	8.2	53.2	5.5	44.7	23.3	28.1	66.6	4.8	3.9	
年代 別	10～20歳代	78	27	5	38	2	39	18	32	61	2	2	
		100.0	34.6	6.4	48.7	2.6	50.0	23.1	41.0	78.2	2.6	2.6	
	30歳代	103	50	7	63	9	37	19	34	82	2	2	
		100.0	48.5	6.8	61.2	8.7	35.9	18.4	33.0	79.6	1.9	1.9	
	40歳代	116	53	9	58	2	60	34	35	85	3	3	
		100.0	45.7	7.8	50.0	1.7	51.7	29.3	30.2	73.3	2.6	2.6	
	50歳代	121	67	12	67	7	44	25	28	87	3	6	
		100.0	55.4	9.9	55.4	5.8	36.4	20.7	23.1	71.9	2.5	5.0	
	60歳代	164	93	13	82	12	76	34	46	103	11	7	
		100.0	56.7	7.9	50.0	7.3	46.3	20.7	28.0	62.8	6.7	4.3	
	70歳以上	123	81	12	68	7	59	33	23	52	13	7	
		100.0	65.9	9.8	55.3	5.7	48.0	26.8	18.7	42.3	10.6	5.7	

女の子に最も望むこと、男の子に最も望むこと【〇はそれぞれ1つだけ】

- 女の子に最も望むことと男の子に最も望むことを比較すると、女の子は「思いやり・優しさをもつこと」が 33.7%と最も多い一方で、男の子は「自立心をもつこと」の 33.0%が最も多い。このことから、子どもに最も望むことは子どもの性別によって異なることがわかる。

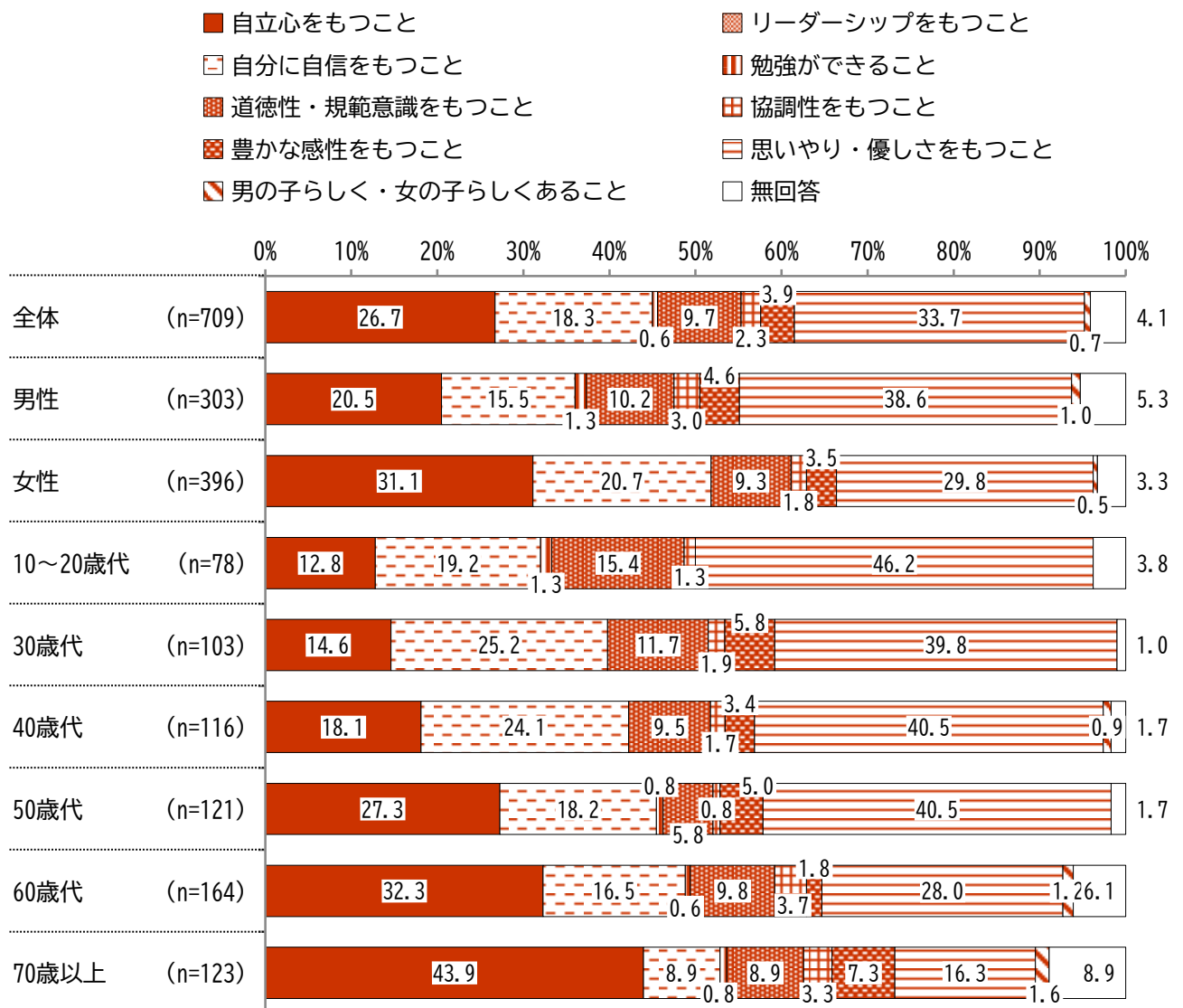
図表 39 子どもに最も望むこと



女の子に最も望むこと【〇は1つだけ】

- 女の子に最も望むことは、全体でみると、「思いやり・優しさをもつこと」が 33.7%と最も多く、次いで「自立心をもつこと」が 26.7%、「自分に自信をもつこと」が 18.3%となっている。
- 性別でみると、男性は「思いやり・優しさをもつこと」が 38.6%、女性は「自立心をもつこと」が 31.1%と最も多く、男女で女の子に最も望むことに違いがある。
- 年代別でみると、10～50 歳代までは「思いやり・優しさをもつこと」が最も多いが、年齢が高いほど「自立心をもつこと」の割合が多くなる傾向にあり、60～70 歳以上では最も多くなっている。

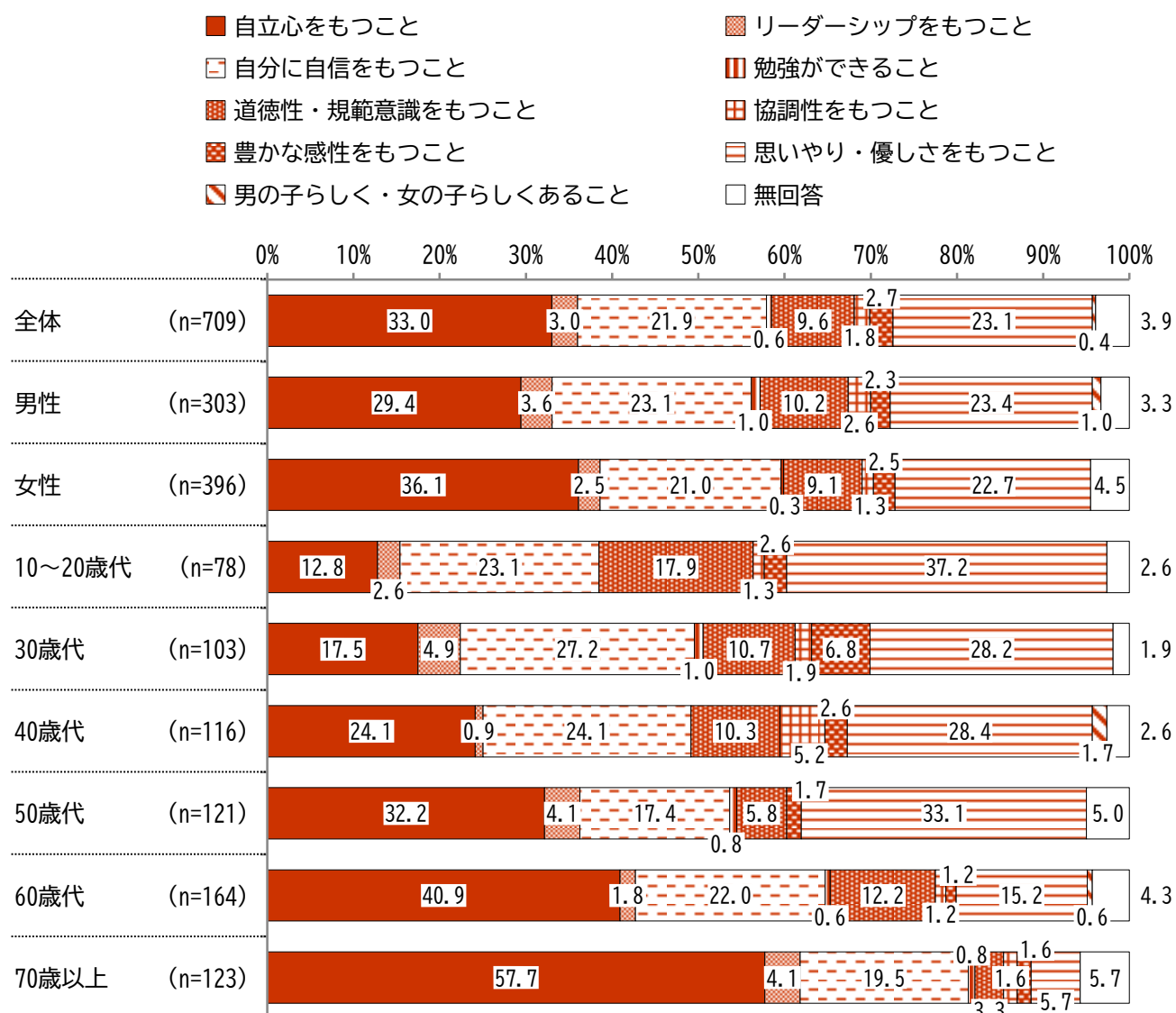
図表 40 女の子に最も望むこと（性・年代別）



男の子に最も望むこと【〇は1つだけ】

- 男の子に最も望むことは、全体でみると、「自立心をもつこと」が 33.0%と最も多く、次いで「思いやり・優しさをもつこと」が 23.1%、「自分に自信をもつこと」が 21.9%となっている。
- 性別でみると、男女共に「自立心をもつこと」が女性は 36.1%、男性は 29.4%と最も多くなっており、男女で男の子に最も望むことに大きな差は見られない。
- 年代別でみると 10～50 歳代までは「思いやり・優しさをもつこと」が最も多いが、年齢が高いほど「自立心をもつこと」の割合が多くなる傾向にあり、60～70 歳以上では最も多くなっている。

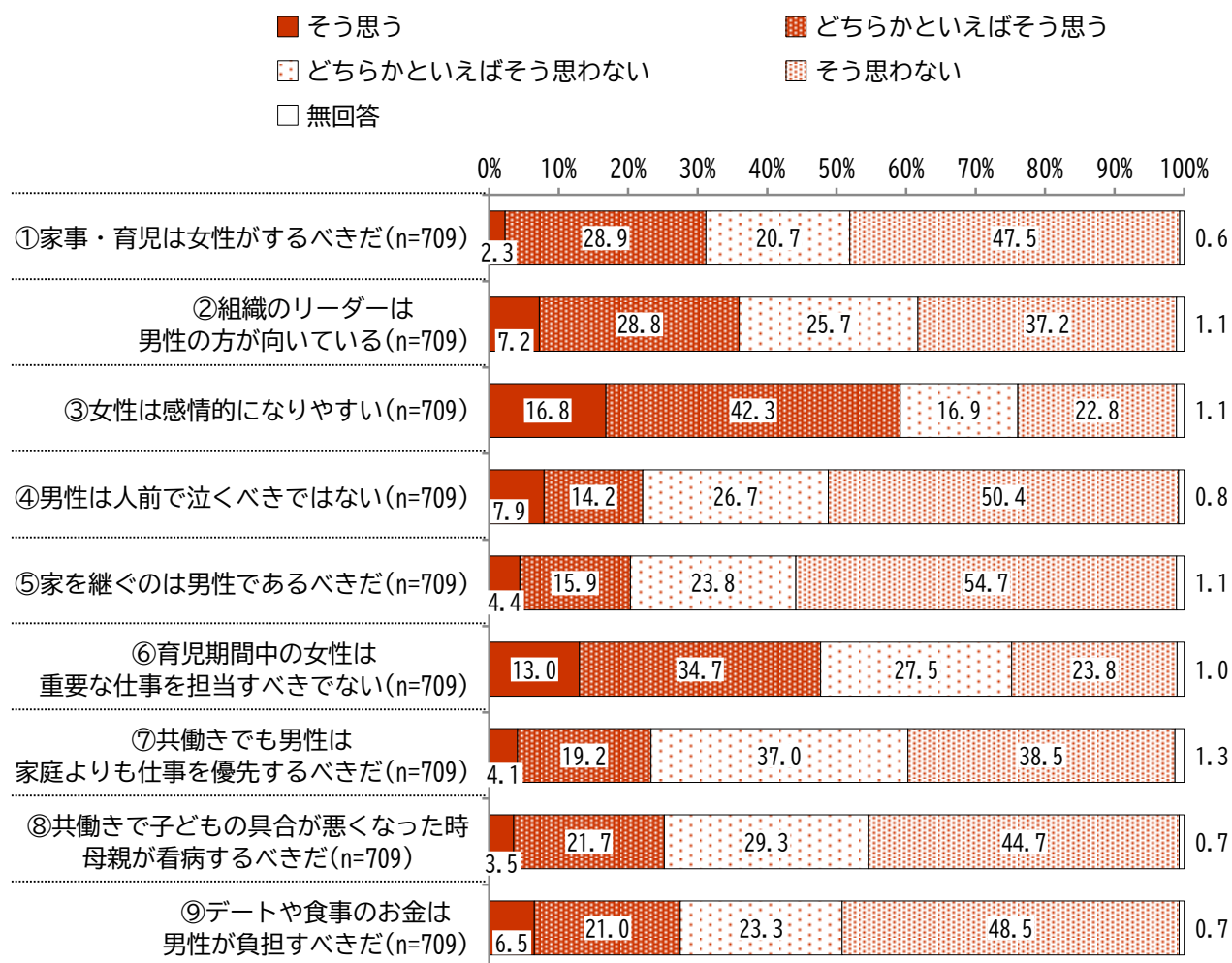
図表 41 男の子に最も望むこと（性・年代別）



問 13 次のそれぞれについて、どのように思いますか。【①～⑨それぞれについて1つに○】

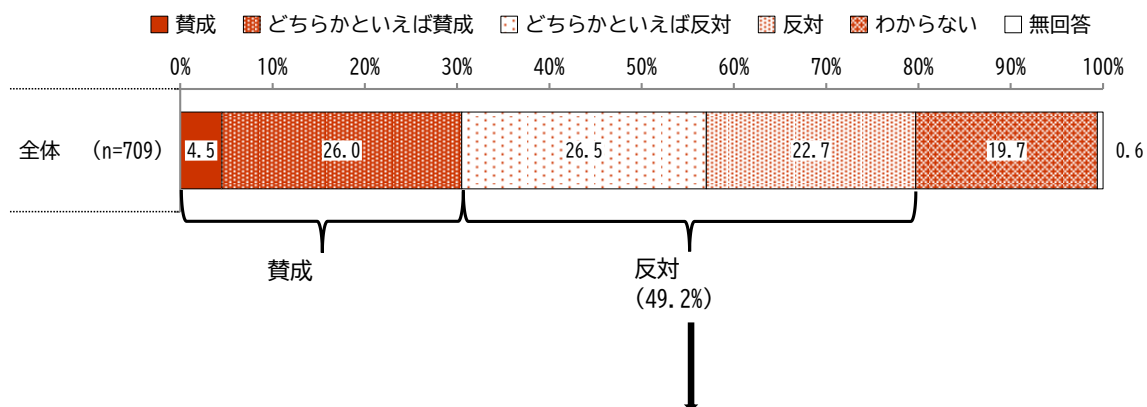
- 「③女性は感情的になりやすい」以外のすべての項目で、『思わない』（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が『思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）より多くなっている。
- 「③女性は感情的になりやすい」では『思う』が 59.1%、「⑥育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」では 47.7%と、他の項目に比べて『思う』の割合が多くなっている。

図表 42 男女のイメージについて

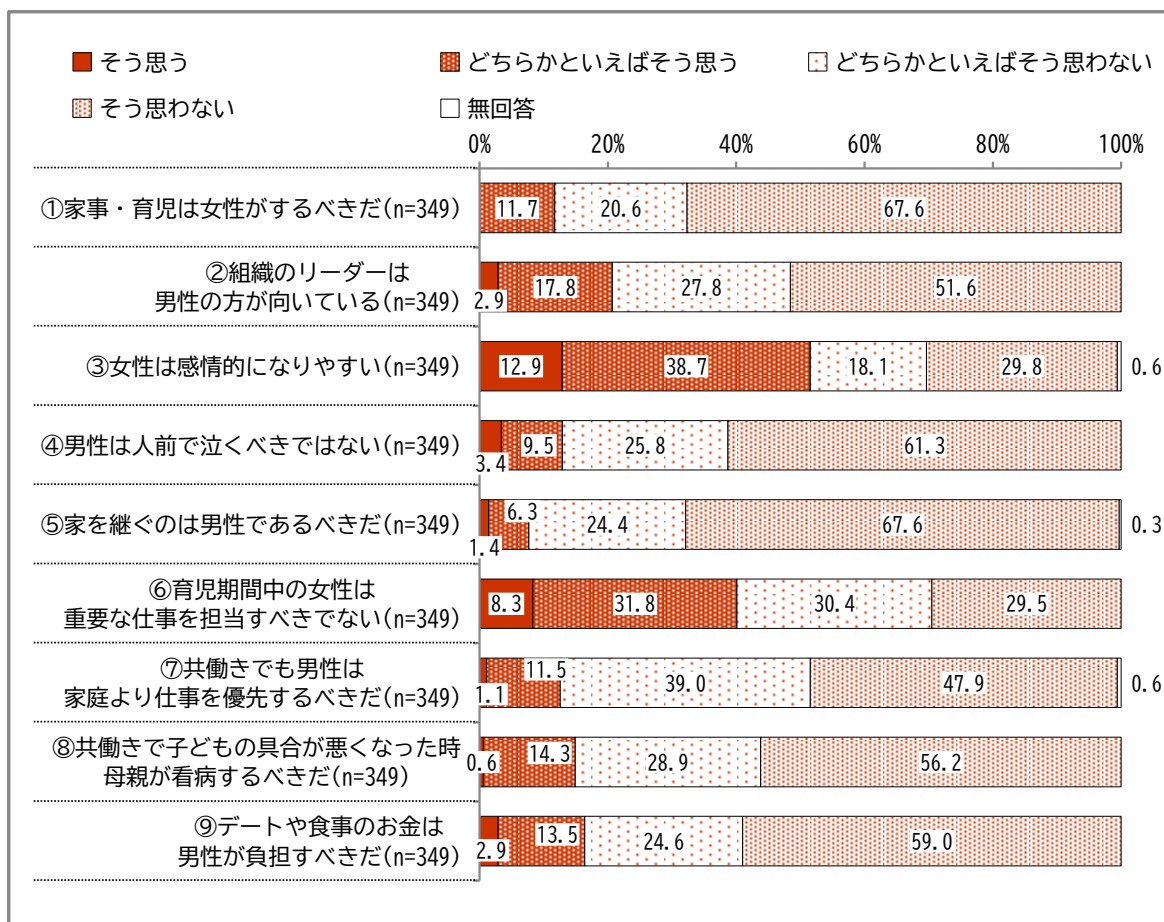


- 問 11 において、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方に『反対』と回答した人に限定して問 13 の回答を見てみると、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方に反対な人であっても、問 11 のすべての項目において『思う』と回答している人が一定数いることがわかる。
- 特に、「③女性は感情的になりやすい」について『思う』が 51.6%と多くなっている。

図表 43 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について（問 11）



図表 44 男女のイメージについて（問 11 で『反対派』の人のみ）

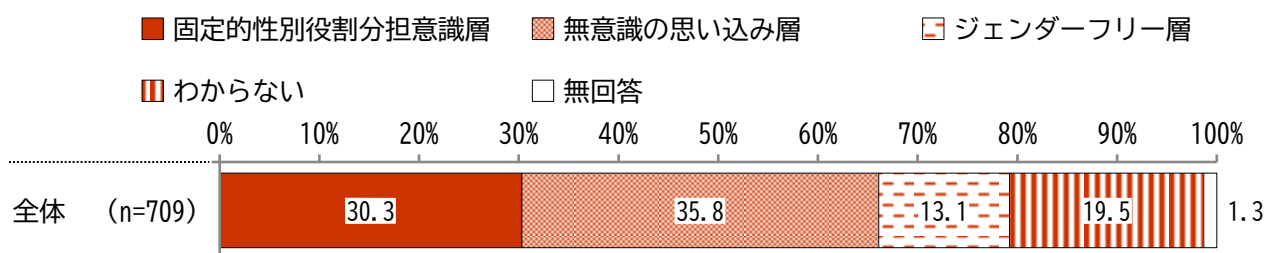


固定的性別役割分担意識についての分析

- 問 11 で「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方に『賛成』と回答した人は、「固定的な性別役割分担意識が強い人」といえる。（＝固定的性別役割分担意識層）
- 問 11 で『反対』と回答しているが、問 13 の項目について 1 つでも『思う』と回答した人は、「無意識に性別役割分担意識を持っている人」といえる。（＝無意識の思い込み層）
- 問 11 で『反対』と回答したかつ問 13 ですべての項目に『思わない』と回答した人は、「性別による思い込みを持たない人」といえる。（＝ジェンダーフリー層）
- 問 11 で「わからない」と回答した人は、「性別役割分担意識について関心が低い人」といえる。（＝わからない）

➤ 「固定的性別役割分担意識層」が 30.3%、「無意識の思い込み層」が 35.8%となり、無意識を含めると 66.1%の人が性別による思い込みを持っている。一方で、性別による思い込みを持たない「ジェンダーフリー層」が 13.1%となっている。

図表 45 性別による思い込みについて



3. 家庭生活について

問 14 は 既婚者（事実婚含む）にお聞きします。

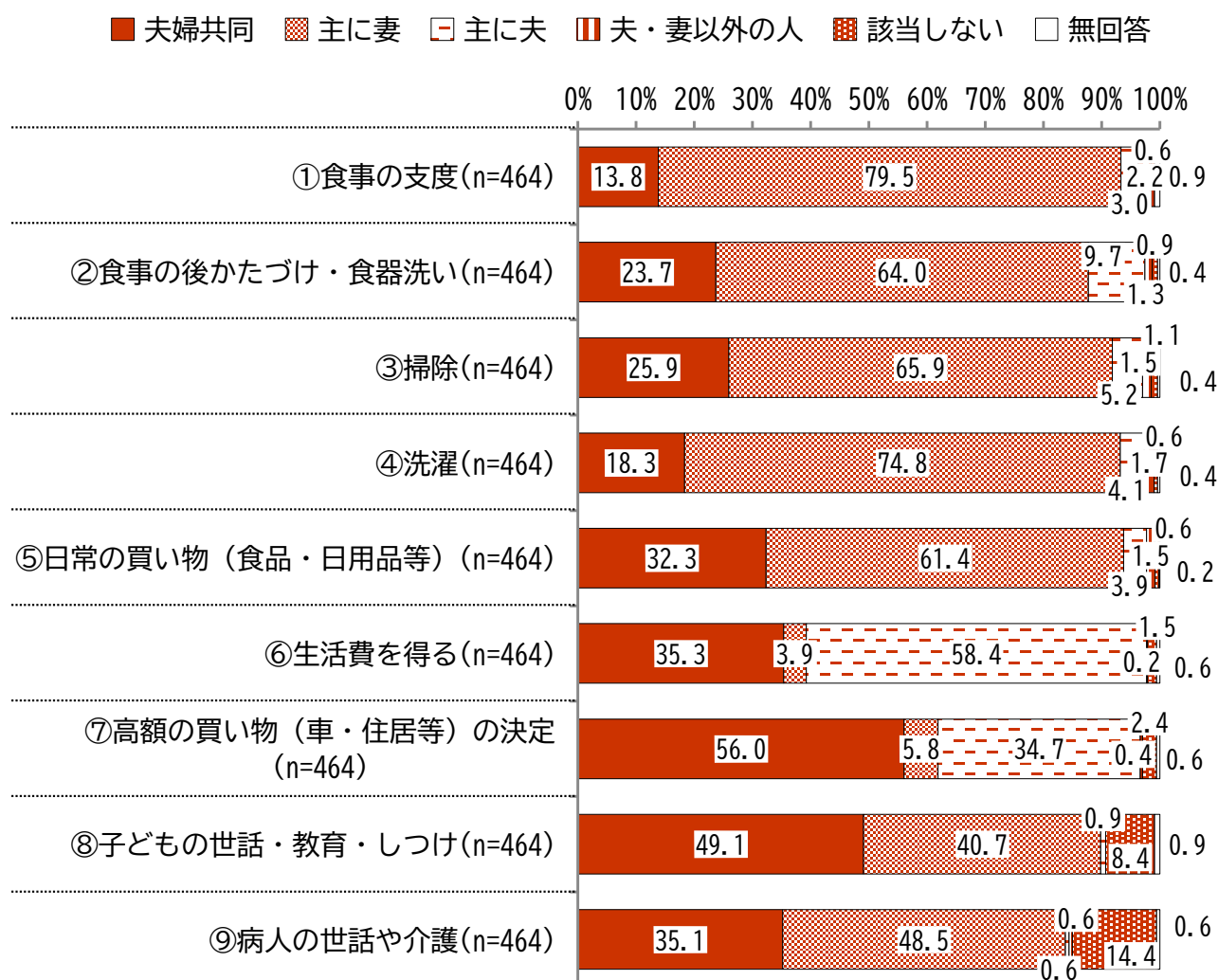
問 14 あなたのご家庭では、次にあげることを主にどなたが行っていますか。

①～⑨のそれぞれについてお答えください。【①～⑨のそれぞれについて○は1つ】

（全体・共働きの人）

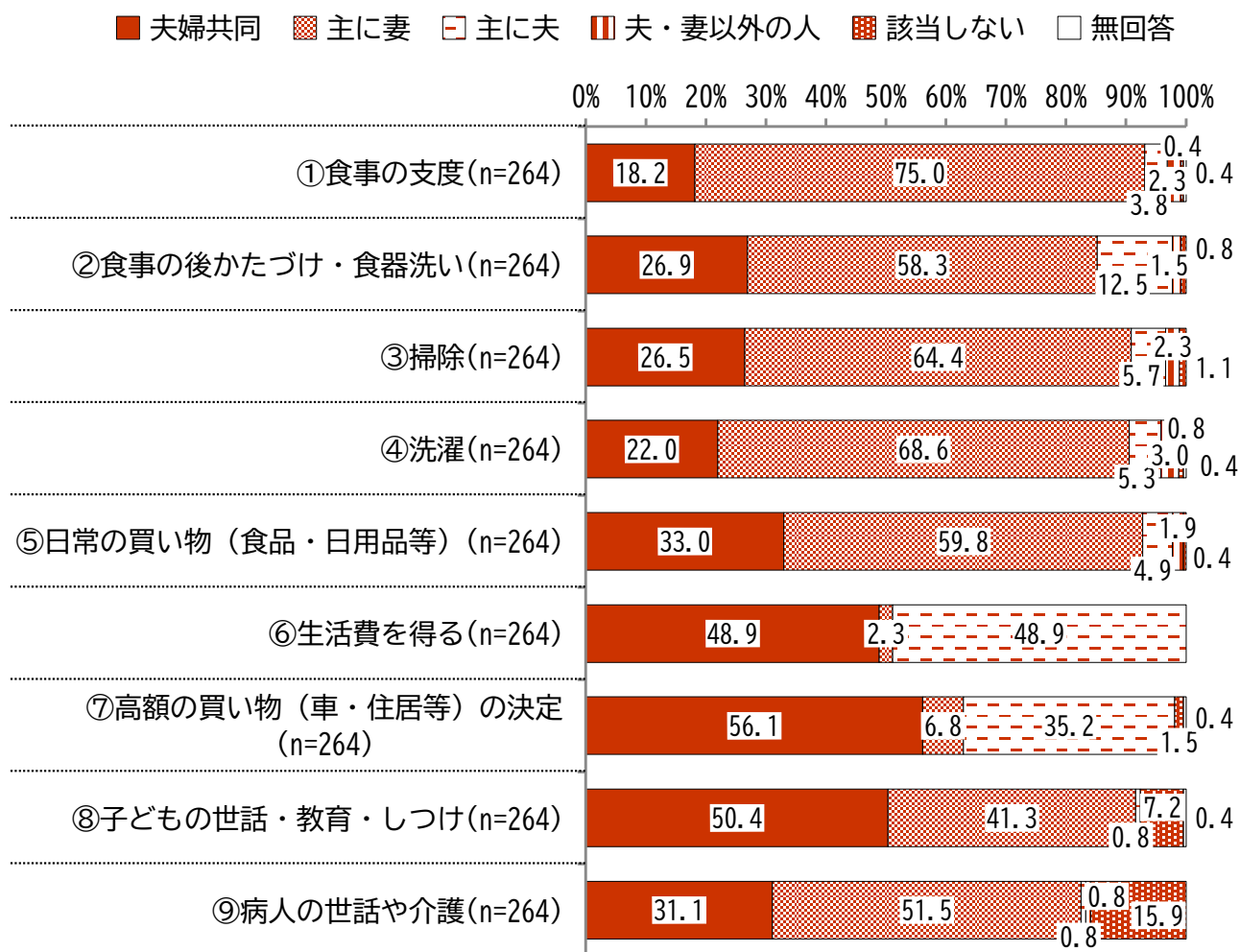
- 家庭での役割分担では、全体でみると、「①食事の支度」「②食事の後かたづけ・食器洗い」「③掃除」「④洗濯」「⑤日常の買い物（食品・日用品等）」といった、家事に関する項目は「主に妻」が6割以上を占めており、特に「①食事の支度」では79.5%と非常に多くなっている。
- 「⑥生活費を得る」は「主に夫」が58.4%と多くなっている。

図表 46 家庭での役割分担（既婚者の人）



- 共働きの人でみると、「①食事の支度」「②食事の後かたづけ・食器洗い」「③掃除」「④洗濯」「⑤日常の買い物（食品・日用品等）」といった、家事に関する項目は「主に妻」が6割弱～7割半ばを占めている一方で、「⑥生活費を得る」については「主に夫」が48.9%と、「夫婦共同」に並んで多くなっている。
- 「⑦高額な買い物（車・住居等）の決定」「⑧子供の世話・教育・しつけについて」は「夫婦共同」が5割以上となっている。

図表 47 家庭での役割分担（共働きの人）



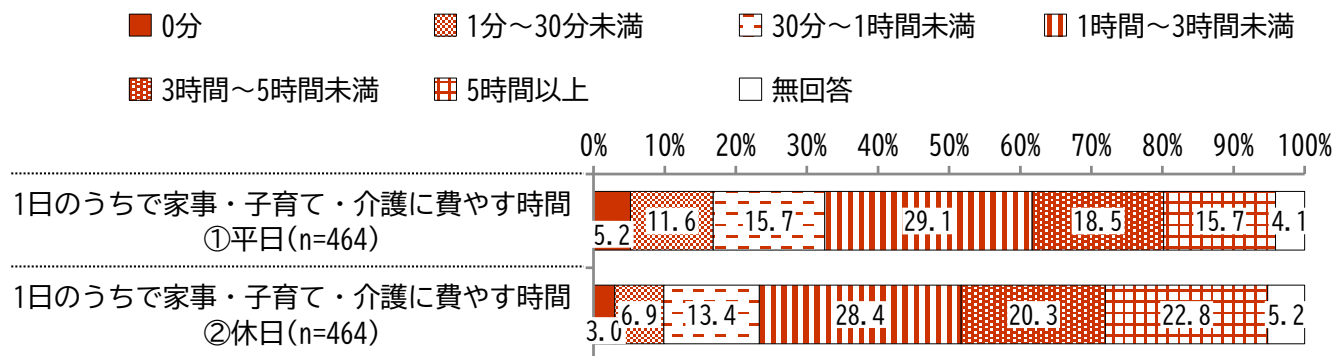
問 15 は 既婚者（事実婚含む）にお聞きします。

問 15 あなたが 1 日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間はどのくらいですか。

①平日、②休日のそれぞれについてお答えください。【①②のそれぞれについて○は 1 つ】

- 1 日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間を平日と休日と比較すると、平日に比べて休日の方が家事・子育て・介護に費やす時間が長いということがわかる。

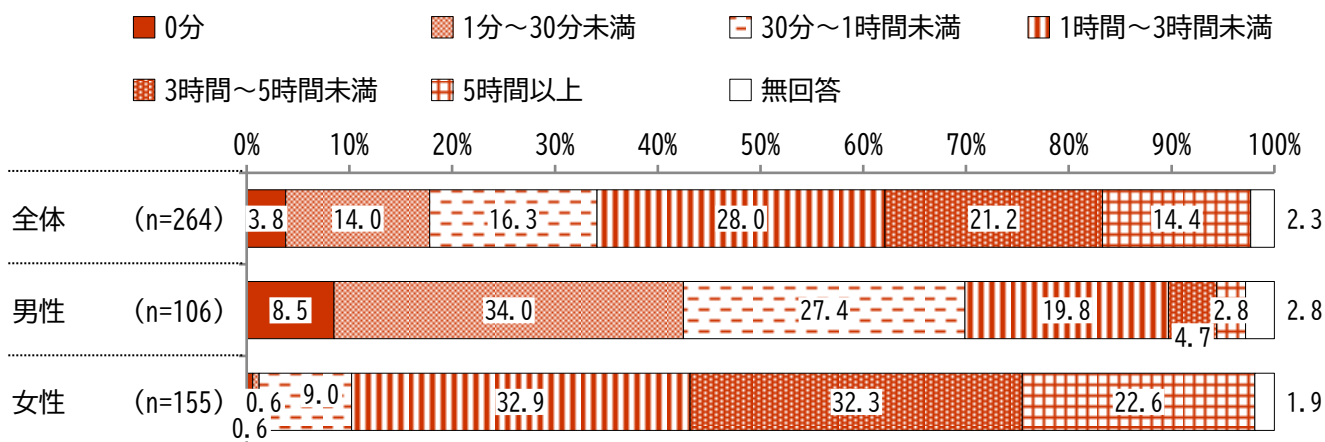
図表 48 1 日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間（既婚者の人）



共働きの人 1 日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間 ①平日

- 共働きの人 1 日のうちで家事等に費やす時間について、全体でみると、平日に『1 時間以上』（「1 時間～3 時間未満」＋「3 時間～5 時間未満」＋「5 時間以上」）費やしている割合は 63.6%となっている。
- 性別でみると、平日に『1 時間以上』費やしている割合は、男性で 27.3%、女性で 87.8%と、女性が男性より 60.5 ポイント多く、共働きの人において、平日に家事等に費やす時間は女性の方が圧倒的に多いことがわかる。

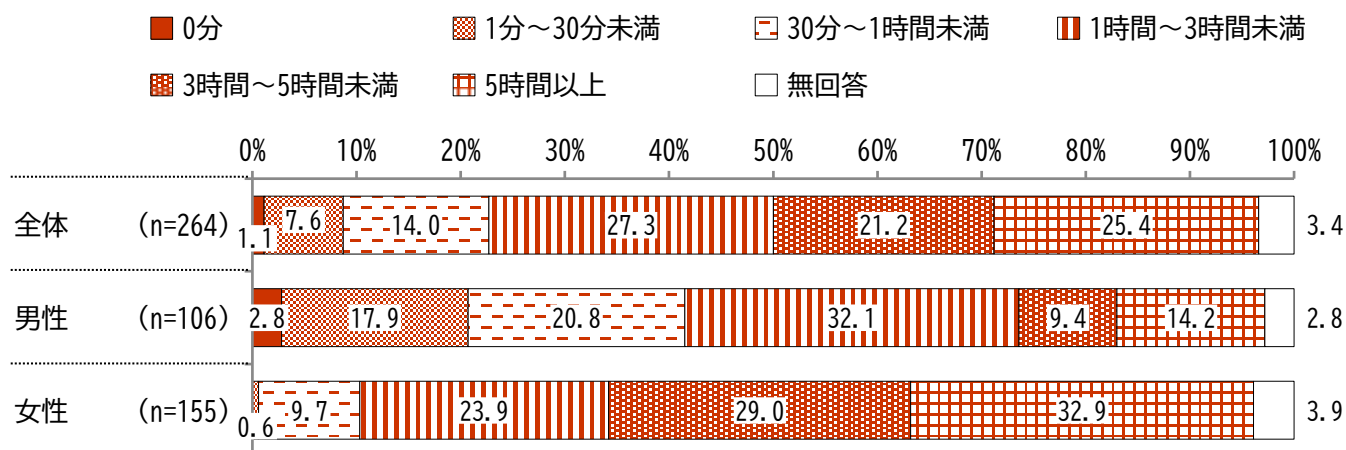
図表 49 1 日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間①平日（共働きの人/性別）



共働きの人が1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間 ②休日

- 共働きの人が家事等に費やす時間について、全体でみると、休日に『1 時間以上』費やしている割合は 73.9%となっている。
- 性別でみると、休日に『1 時間以上』費やしている割合は、男性で 55.7%、女性が 85.8%と、女性が男性より 25.3 ポイント多く、共働きの人において、休日に家事等に費やす時間も女性の方が圧倒的に多いことがわかる。

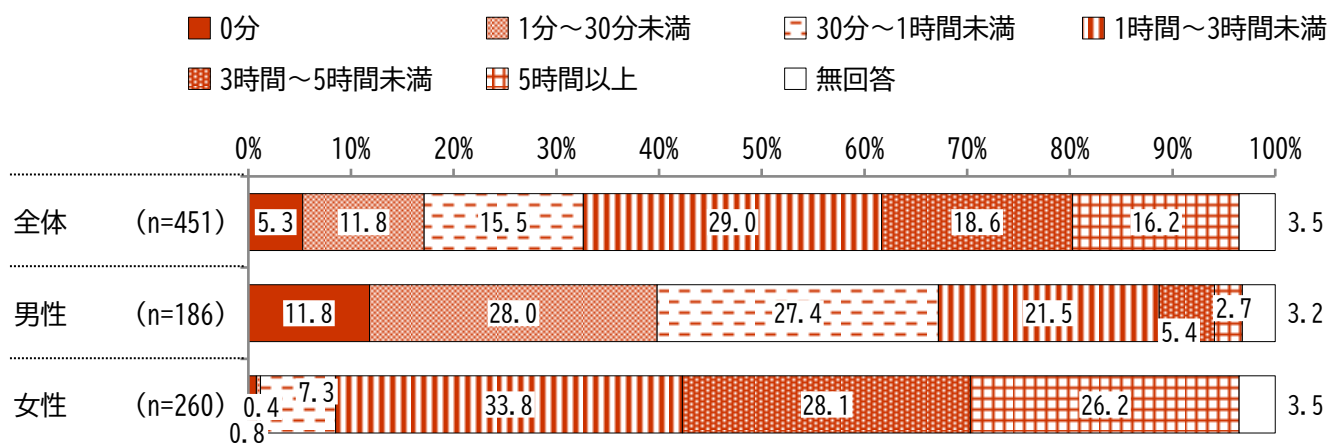
図表 50 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間①休日（共働きの人/性別）



子どもがいる人が1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間 ①平日

- 子どもがいる人が家事等に費やす時間について、全体でみると、平日に『1 時間以上』費やしている割合は 63.8%となっている。
- 性別でみると、平日に『1 時間以上』費やしている割合は男性で 29.6%、女性で 88.1%と、女性が男性より 58.5 ポイント多く、子どもがいる人において、平日に家事等に費やす時間は女性の方が圧倒的に多いことがわかる。

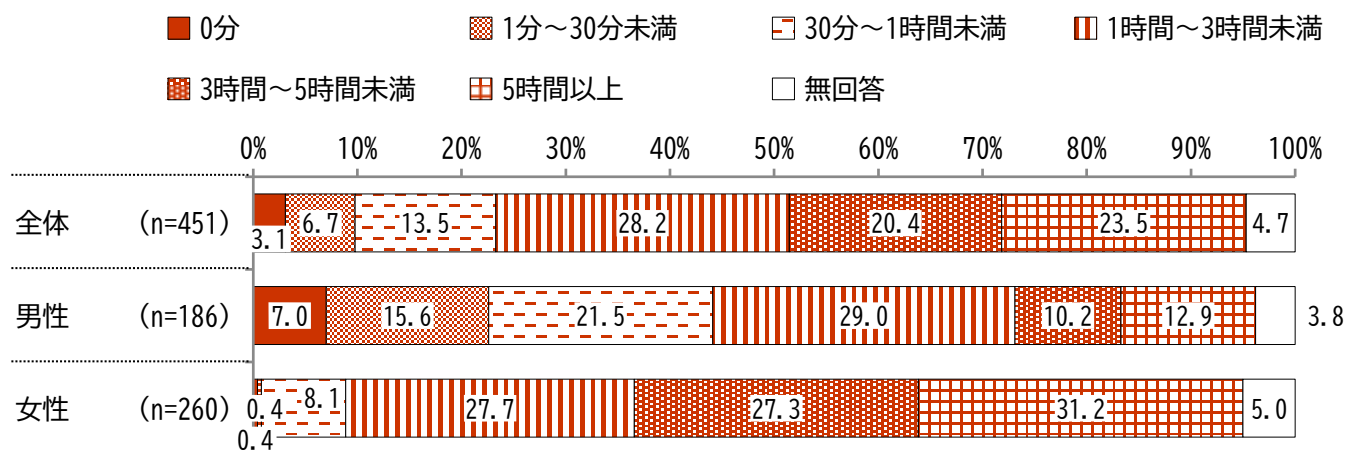
図表 51 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間①平日（子どもがいる人/性別）



子どもがいる人が1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間 ②休日

- 子どもがいる人が家事・子育て・介護に費やす時間について、全体でみると、休日に『1時間以上』費やしている割合は72.1%となっている。
- 性別でみると、休日に『1時間以上』費やしている割合は、男性で52.1%、女性で86.2%と、女性が男性より34.1ポイント多く、子どもがいる人において、休日に家事等に費やす時間も女性の方が圧倒的に多いことがわかる。

図表 52 1日のうちで家事・子育て・介護に費やす時間①休日（子どもがいる人/性別）

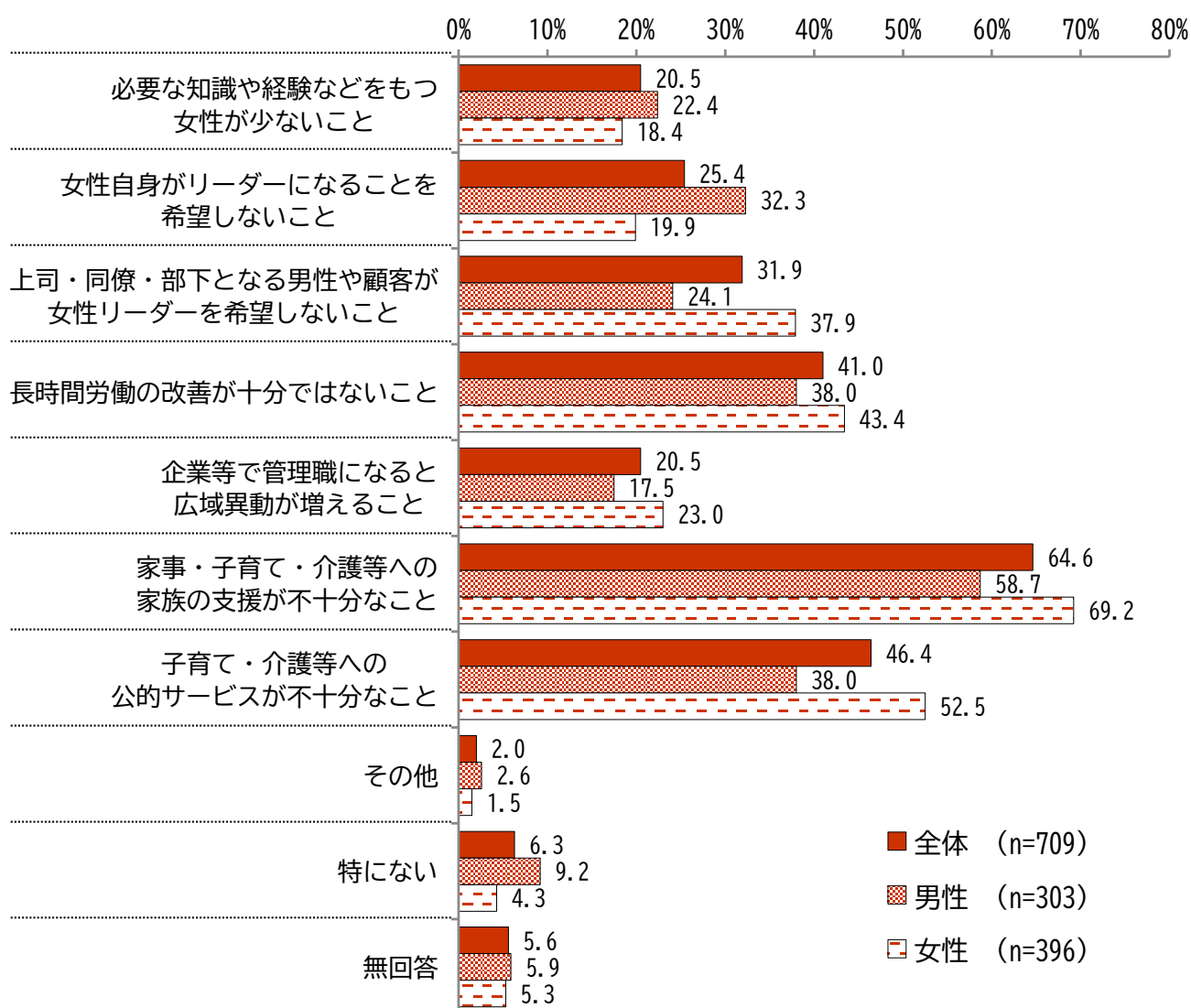


4. あなたの仕事の状況や女性の活躍に関することについて

問 16 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。【〇はいくつでも】（性・年代別）

- 女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて、全体でみると、「家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと」が 64.6%と最も多く、次いで「子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと」が 46.4%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が 41.0%となっている。
- 性別でみると、男女共に「家事・子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと」が一番多いが、男性は 58.7%、女性は 69.2%と、女性が男性より 10.5 ポイント多くなっている。

図表 53 女性リーダーを増やすとき障害となるもの（性別）



- 年代別でみると、すべての年代で「家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと」が最も多く、特に 30 歳代と 40 歳代では 7 割以上と多くなっている。また、「子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと」が 30 歳代で 66.0%と特に多くなっている。

図表 54 女性リーダーを増やすとき障害となるもの（年代別）

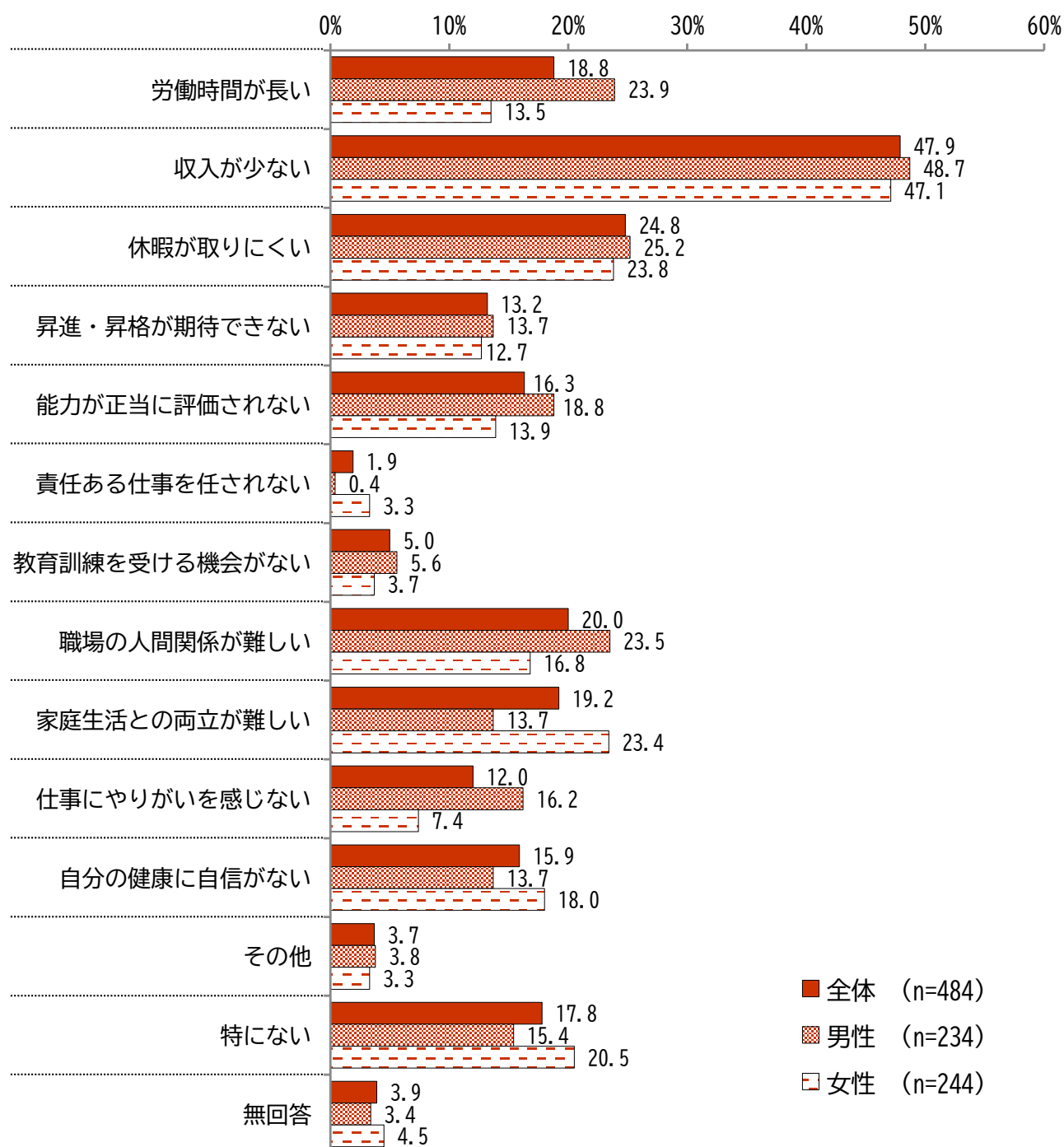
		全体	必要な知識や経験がないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業等で管理職になることと広域異動が増えること	家事・子育て・介護等への家族の支援が不十分なこと	子育て・介護等への公的サービスが不十分なこと	その他	特にない	無回答
全体		709	145	180	226	291	145	458	329	14	45	40
		100.0	20.5	25.4	31.9	41.0	20.5	64.6	46.4	2.0	6.3	5.6
年代別	10～20歳代	78	14	20	34	28	13	50	36	2	3	2
		100.0	17.9	25.6	43.6	35.9	16.7	64.1	46.2	2.6	3.8	2.6
	30歳代	103	20	24	37	50	21	82	68	4	1	3
		100.0	19.4	23.3	35.9	48.5	20.4	79.6	66.0	3.9	1.0	2.9
	40歳代	116	18	30	33	46	25	83	55	3	13	2
		100.0	15.5	25.9	28.4	39.7	21.6	71.6	47.4	2.6	11.2	1.7
	50歳代	121	25	36	42	43	25	73	47	4	11	2
		100.0	20.7	29.8	34.7	35.5	20.7	60.3	38.8	3.3	9.1	1.7
	60歳代	164	33	39	50	69	33	101	79	-	8	13
		100.0	20.1	23.8	30.5	42.1	20.1	61.6	48.2	-	4.9	7.9
	70歳以上	123	33	29	27	53	27	68	43	1	9	17
		100.0	26.8	23.6	22.0	43.1	22.0	55.3	35.0	0.8	7.3	13.8

現在働いている人にお聞きします。

問 17 仕事をするうえでの悩みは何ですか。【〇はいくつでも】

- 仕事をするうえでの悩みでは、全体でみると、「収入が少ない」が 47.9%と最も多く、次いで「休暇が取りにくい」が 24.8%、「職場の人間関係が難しい」が 20.0%となっている。
- 性別でみると、男女共に「収入が少ない」が最も多い。「労働時間が長い」は男性が女性より 10.4 ポイント、「家庭生活との両立が難しい」は女性が男性より 9.7 ポイント多くなっており、男女で仕事上での悩みに違いがあることがわかる。

図表 55 仕事をするうえでの悩み（現在就業中の人/性別）



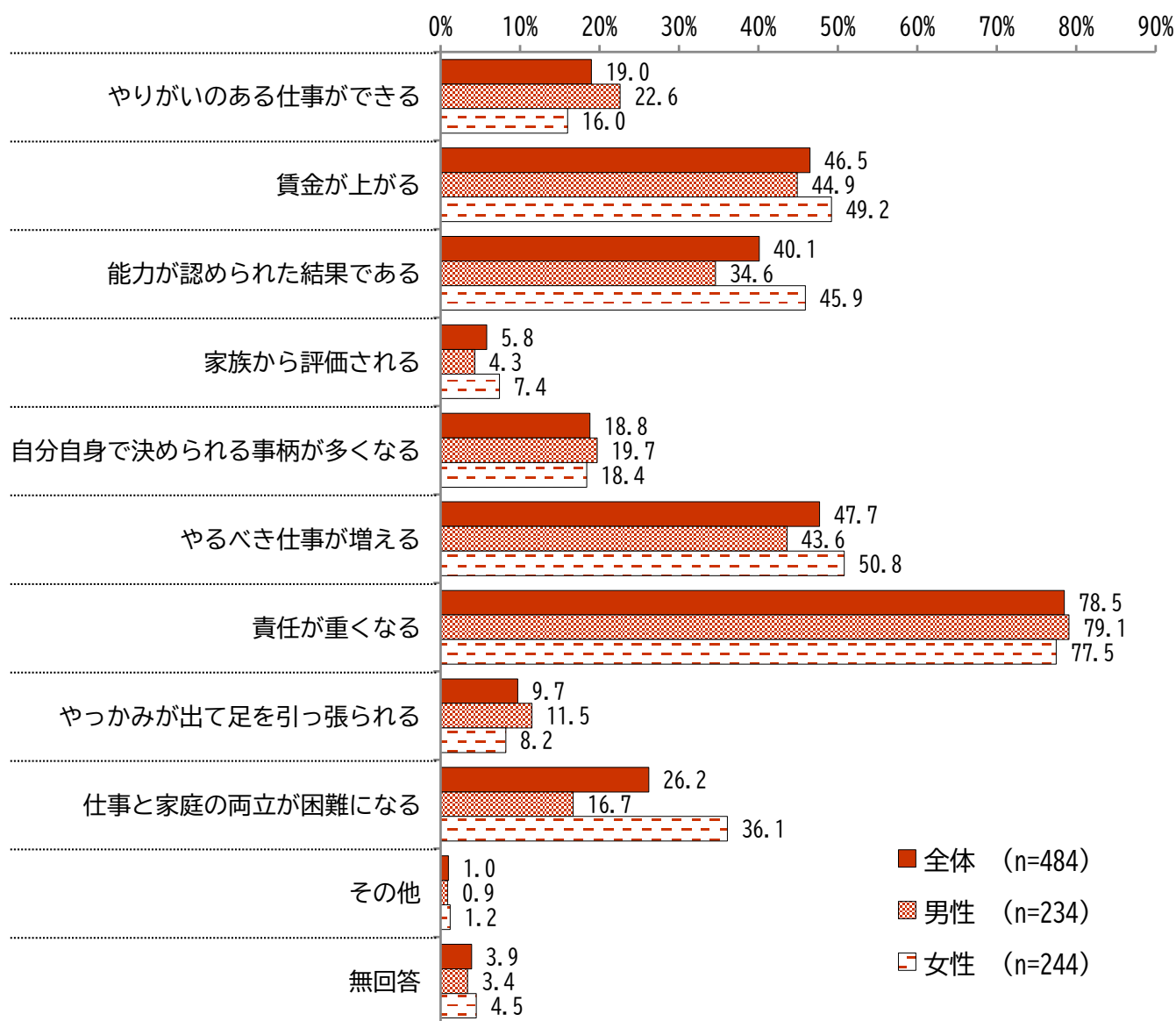
現在働いている人にお聞きします。

問 18 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージをもっていますか。

【〇はいくつでも】

- 管理職以上に昇進することについて、全体でみると、「責任が重くなる」が 78.5%と最も多く、次いで「やるべき仕事が増える」が 47.7%、「賃金が上がる」が 46.5%となっている。
- 性別でみると、男女共に「責任が重くなる」が最も多い。「仕事と家庭の両立が困難になる」について女性が男性より 19.4 ポイント多く、女性管理職になることで家庭との両立への懸念を持つ傾向が強い。一方で、「能力が認められた結果である」が女性は 45.9%と男性より 11.3 ポイント多く、女性の中で管理職に対するポジティブなイメージも見られる。

図表 56 管理職以上に昇進することについてのイメージ（現在就業中の人/性別）



➤ 年代別でみると、すべての年代で「責任が重くなる」が最も多い。

図表 57 管理職以上に昇進することについてのイメージ（現在就業中の人/年代別）

		全体	やりがいのある 仕事ができる	賃金 が上がる	能力が認められ た結果である	家族から評価さ れる	自分自身で決ま る事柄が多め くなる	やるべき仕事 が増える	責任が重くなる	足を引っ張られ る	仕事と家庭の両 方が難しい	その他	無 回 答
全体		484 100.0	92 19.0	225 46.5	194 40.1	28 5.8	91 18.8	231 47.7	380 78.5	47 9.7	127 26.2	5 1.0	19 3.9
年代別	10～20歳代	49 100.0	7 14.3	26 53.1	24 49.0	8 16.3	16 32.7	26 53.1	48 98.0	8 16.3	11 22.4	1 2.0	-
	30歳代	88 100.0	10 11.4	53 60.2	29 33.0	2 2.3	9 10.2	48 54.5	69 78.4	11 12.5	33 37.5	2 2.3	2
	40歳代	108 100.0	20 18.5	50 46.3	46 42.6	5 4.6	17 15.7	65 60.2	90 83.3	10 9.3	35 32.4	1 0.9	-
	50歳代	98 100.0	15 15.3	42 42.9	44 44.9	9 9.2	21 21.4	41 41.8	73 74.5	8 8.2	18 18.4	1 1.0	2
	60歳代	104 100.0	34 32.7	41 39.4	41 39.4	2 1.9	26 25.0	43 41.3	81 77.9	7 6.7	21 20.2	-	6
	70歳以上	36 100.0	6 16.7	13 36.1	10 27.8	2 5.6	2 5.6	8 22.2	19 52.8	3 8.3	9 25.0	-	8
													22.2

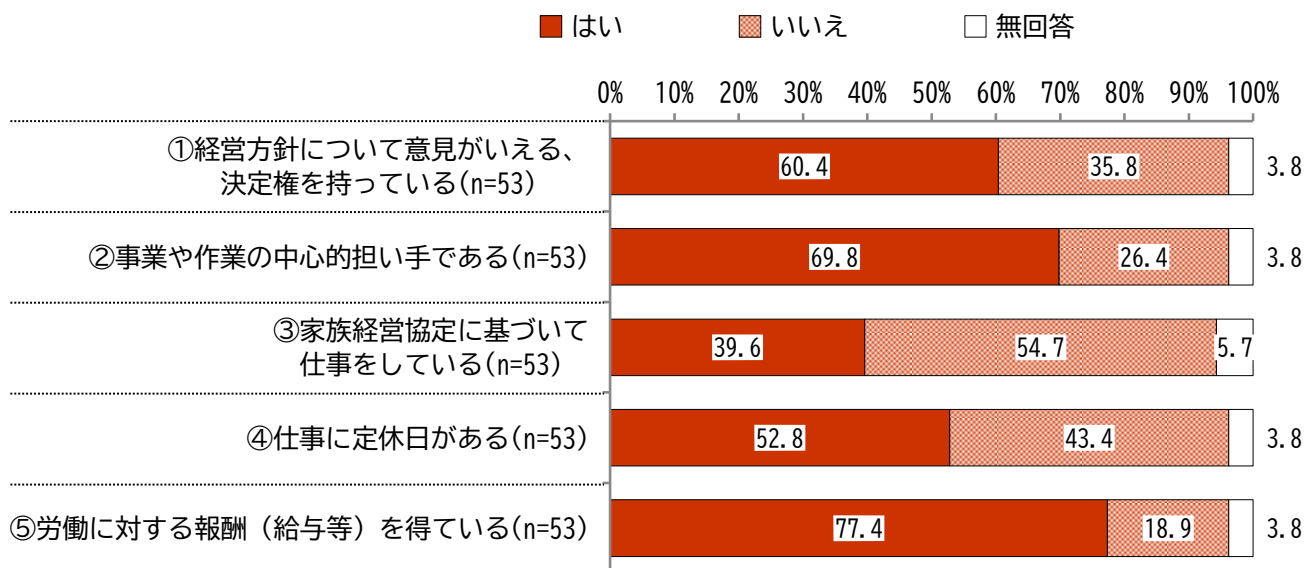
自営業の人にお聞きします。

問 19 あなたの立場、雇用の状況はどのようになっていますか。

①～⑤のそれぞれについてお答えください。【①～⑤のそれぞれについて○は1つ】

➤ 自営業の回答者の立場、雇用の状況では、「③家族経営協定に基づいて仕事をしている」のみ、「いいえ」が 54.7%と半数を超えている。

図表 58 立場・雇用の状況（自営業の人）

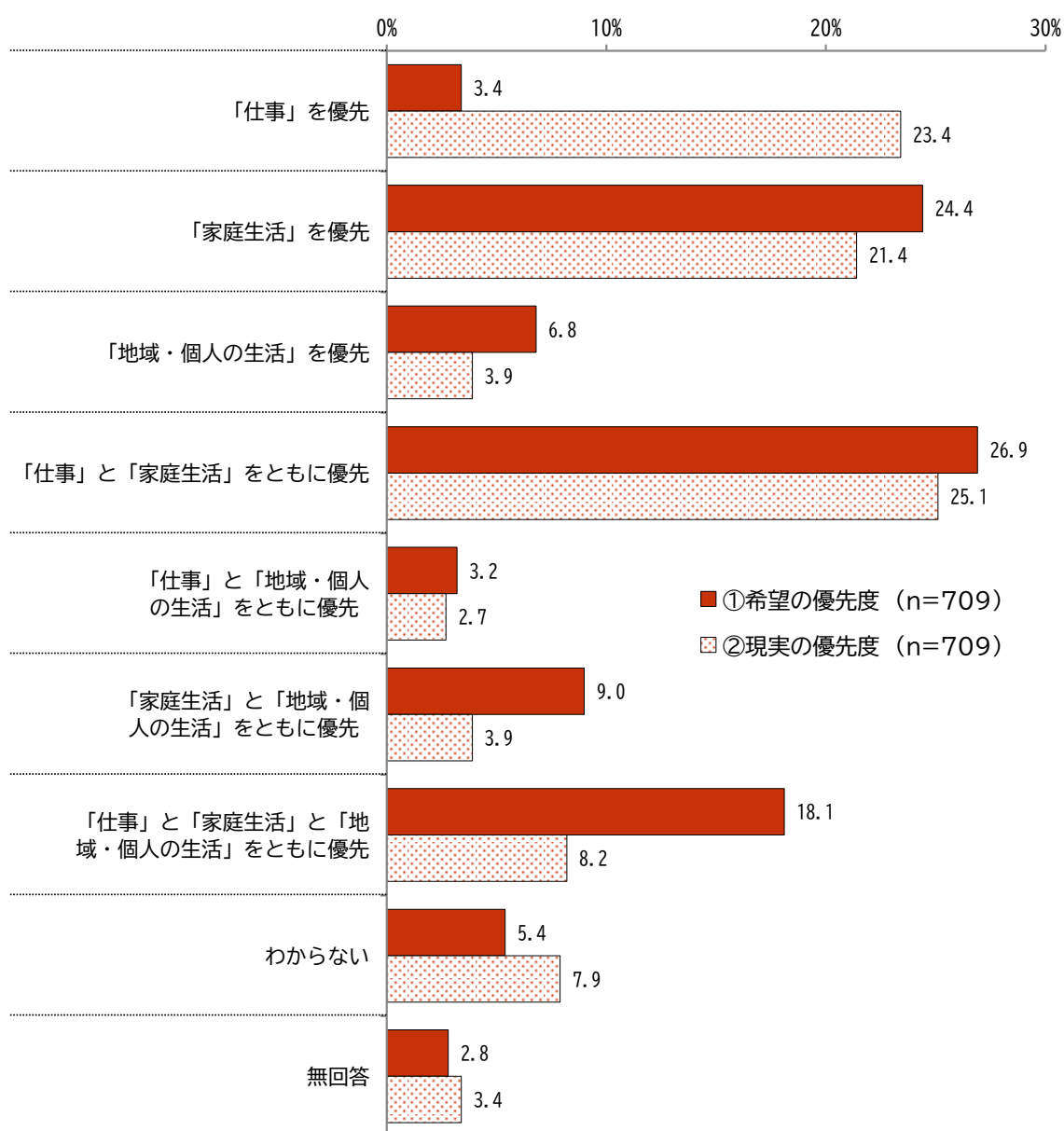


5. 仕事と家庭生活（ワーク・ライフ・バランス）について

問 20 生活の中で、「仕事」、「家庭生活（家事・子育て・介護等）」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」のうち、どれを優先しますか。【①②のそれぞれについて〇は1つ】

- 全体でみると、希望の優先度、現実の優先度の両方で「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が最も多く、仕事と家庭生活を両立できている人が2割半ばとなっている。
- 「仕事」を優先」では、希望としては3.4%、現実では23.4%が優先していることから、現実では仕事を優先せざるを得ない状況にあると考えられる。

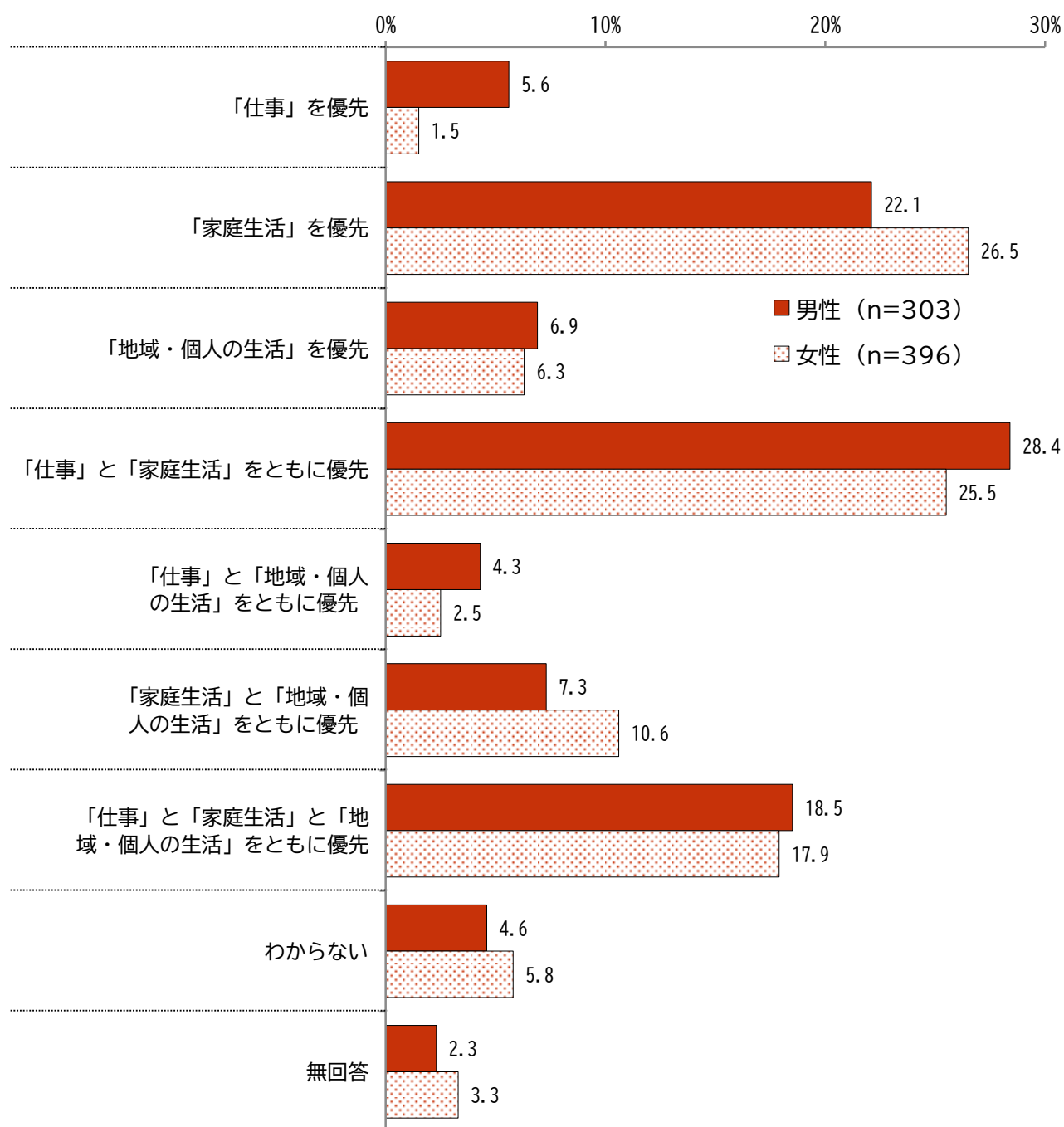
図表 59 生活の中での優先度（希望・現実）



①希望の優先度

- 希望の優先度について性別でみると、男性では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 28.4%と最も多いが、女性では「家庭生活」を優先」が 26.5%と最も多くなっている。

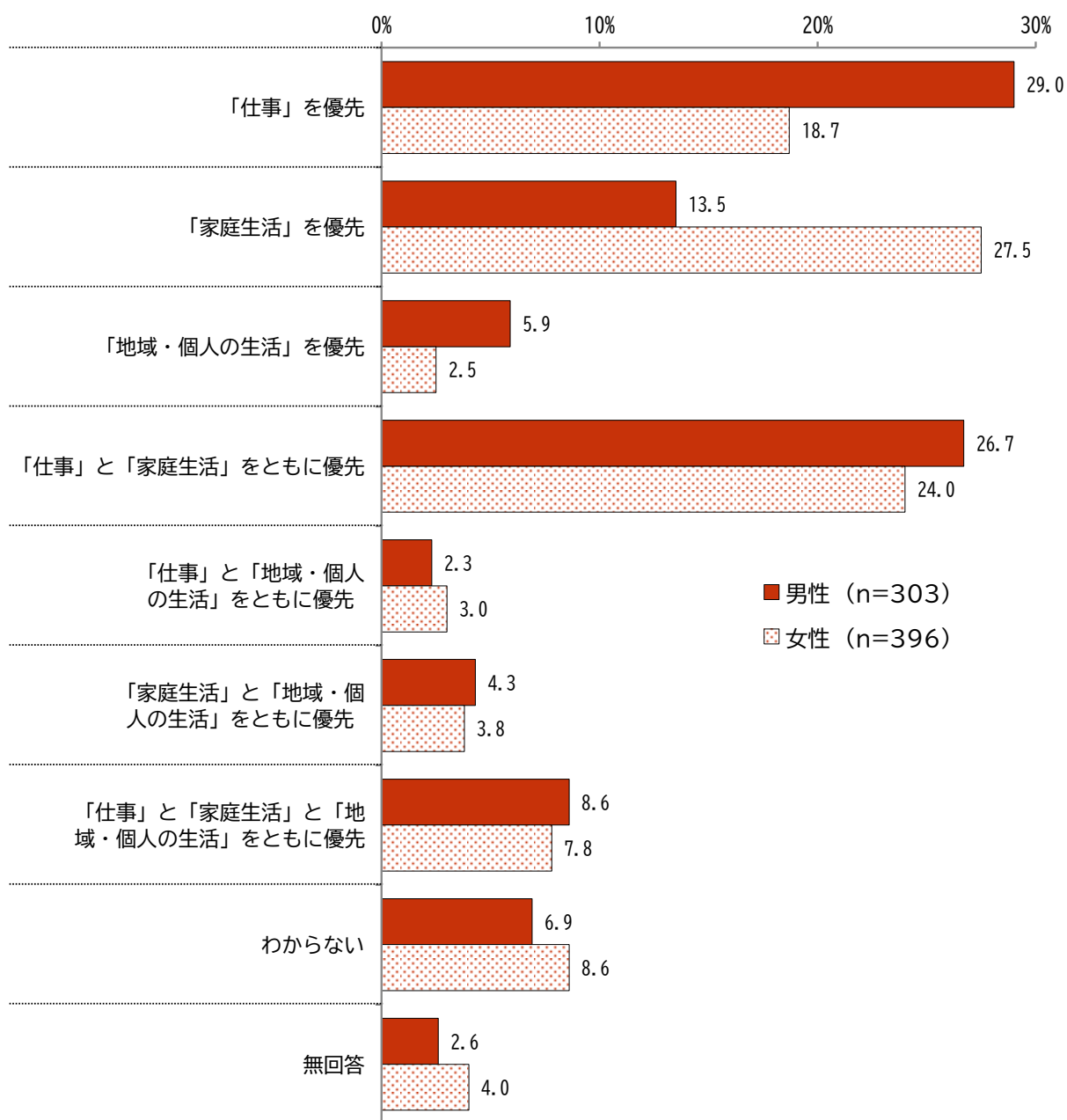
図表 60 希望の優先度（性別）



②現実の優先度

- 現実の優先度について性別でみると、男性では「仕事」を優先」が29.0%と最も多く、女性では「家庭生活」を優先」が27.5%と最も多くなっている。
- ①希望の優先度と比較すると、男性は希望としては仕事と家庭生活を両立させたくとも、現実では仕事を優先せざるを得ない状況にあると考えられる。

図表 61 現実の優先度（性別）

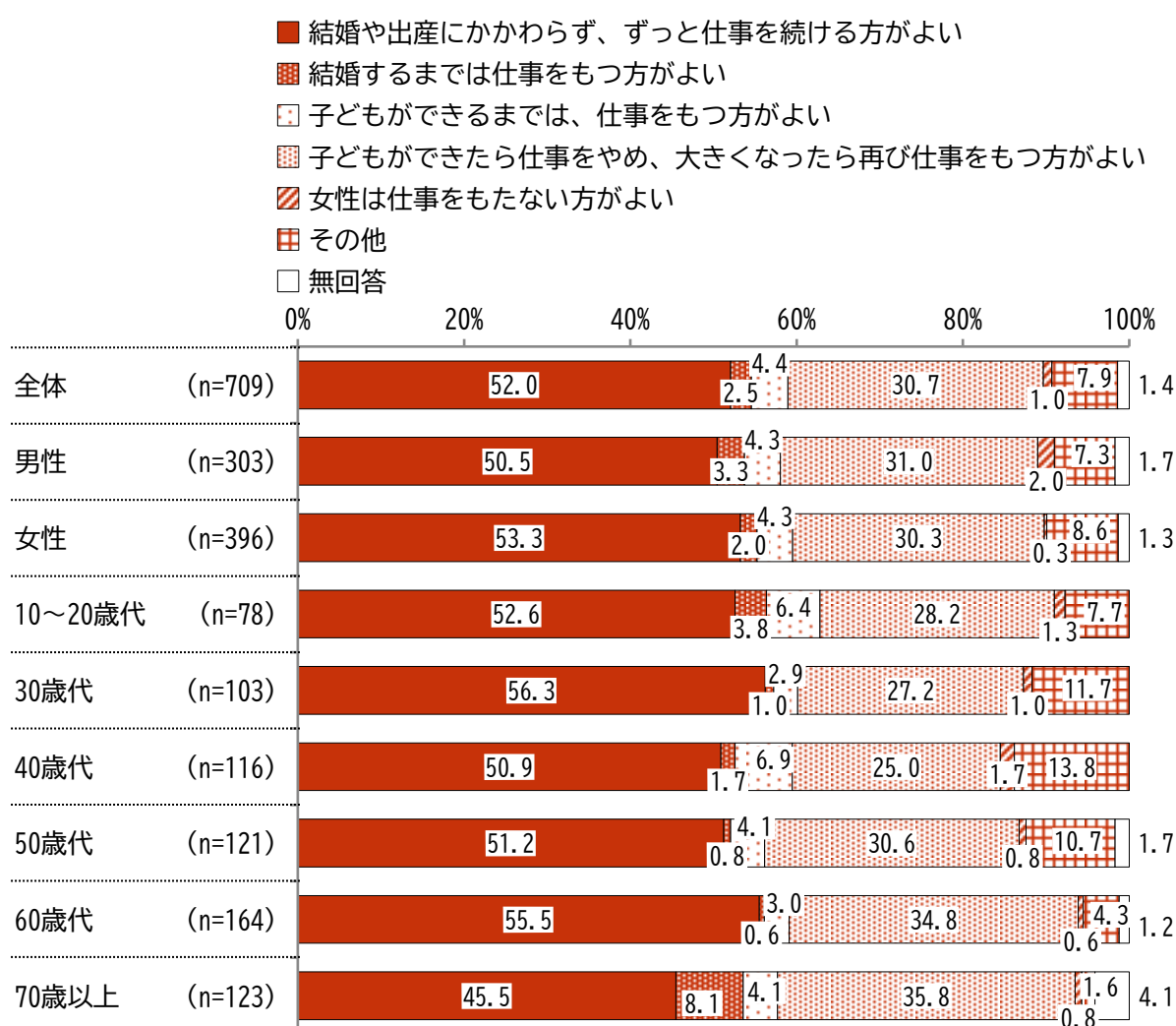


問 21 女性・男性が仕事をもつことについて、どのように考えていますか。

①女性が仕事をもつことについての考え【〇は1つ】

- ①女性が仕事をもつことについての考えでは、全体でみると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が 52.0%と最も多く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 30.7%となっている。
- 性別でみると、男女で大きな差はみられない。
- 年代別でみると、70 歳以上で「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が 45.5%と、ほかの年代より少なくなっている。

図表 62 ①女性が仕事をもつことについて（性・年代別）

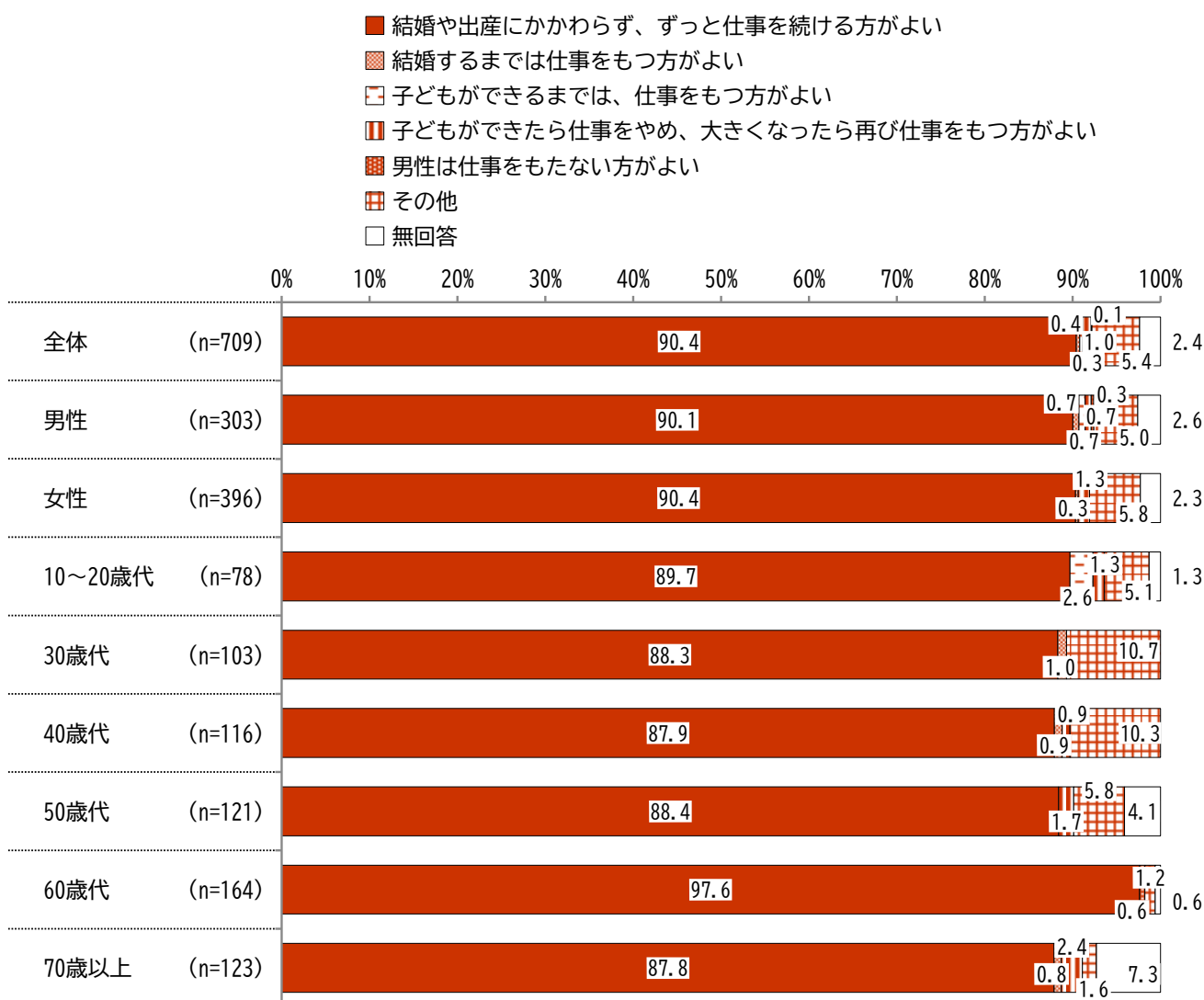


問 21 女性・男性が仕事をもつことについて、どのように考えていますか。

②男性が仕事をもつことについての考え【〇は1つ】

- ②男性が仕事をもつことについての考えでは、全体でみると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が 90.4%とほとんどを占めている。
- 性別でみると、男女で大きな差はみられない。
- 年代別でみると、すべての年代で「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が約 9割を占め、特に 60 歳代では 97.6%と多くなっている。

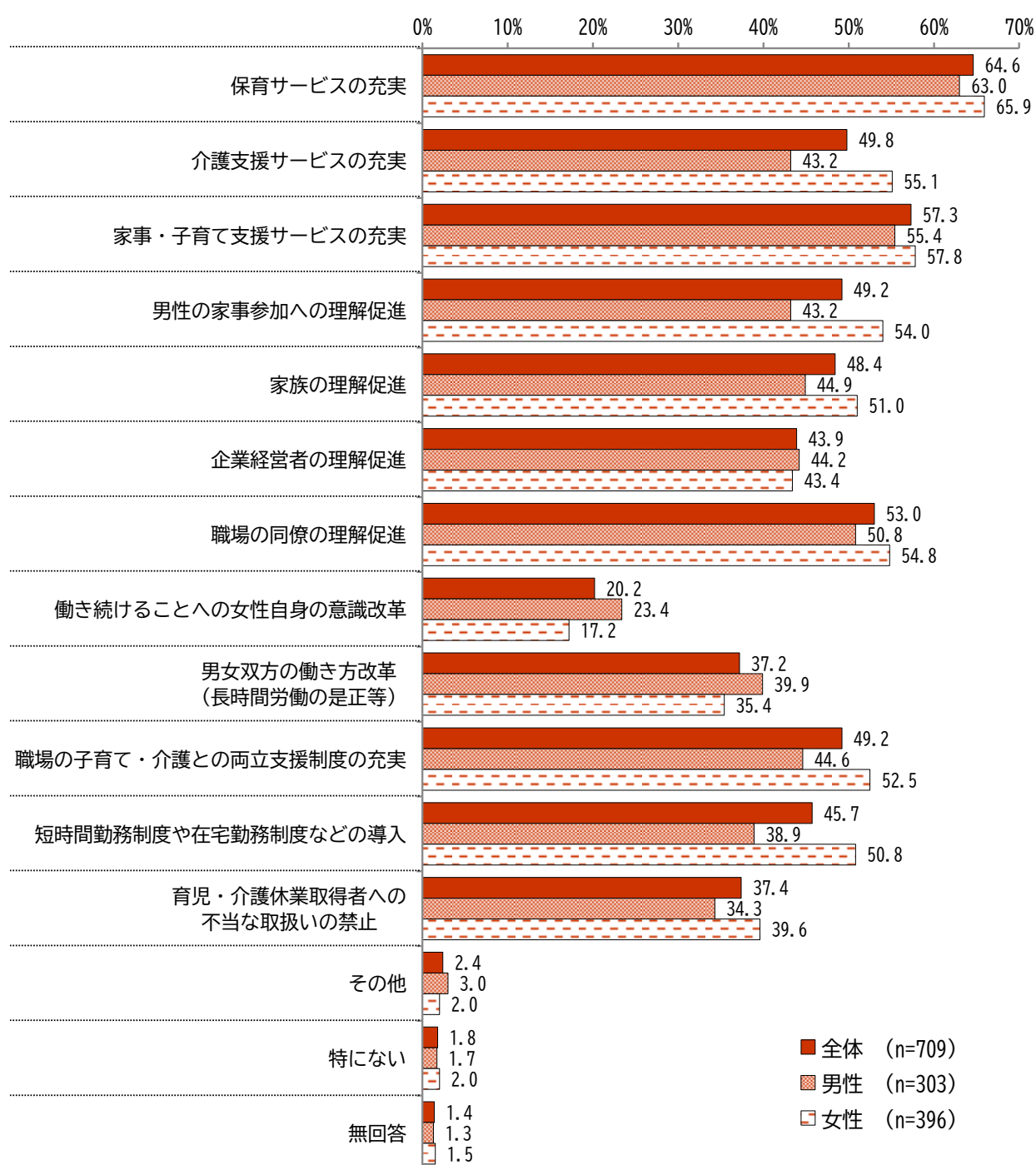
図表 63 ②男性が仕事をもつことについて（性・年代別）



問 22 女性が出産や介護などを機に離職せず、同じ職場で働き続けるために必要なことは何だと思いますか。【〇はいくつでも】（性・年代別）

- 女性が同じ職場で働き続けるために必要なことでは、全体でみると、「保育サービスの充実」が 64.6%と最も多く、次いで「家事・子育て支援サービスの充実」が 57.3%、「職場の同僚の理解促進」が 53.0%となっている。
- 性別でみると、男女共に「保育サービスの充実」が 6 割強と最も多いが、「介護支援サービスの充実」「男性の家事参加への理解促進」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」で、女性が男性より 10.0 ポイント以上多く、男女で感じ方に差があることがわかる。

図表 64 女性が同じ職場で働き続けるために必要なこと（性別）



- ▶ 年代別では、すべての年代で「保育サービスの充実」が最も多く、特に 30 歳代で 77.7%と多くなっている。また、10～50 歳代では次いで「家事・子育てサービスの充実」が多いが、こちらも特に 30 歳代で 73.8%と多くなっている。

図表 65 女性が同じ職場で働き続けるために必要なこと（年代別）

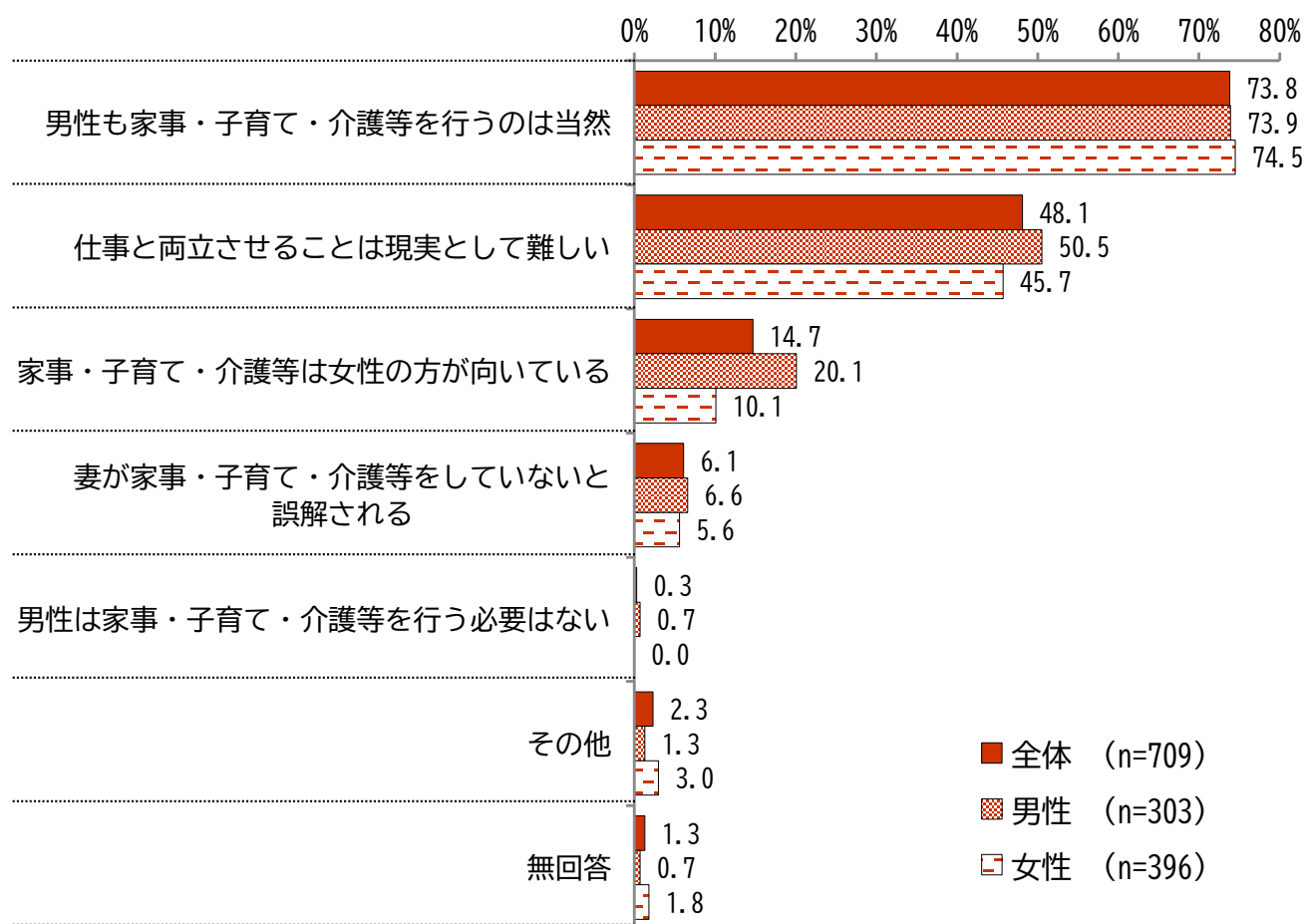
		全体	保育サービスの充実	介護支援サービスの充実	家事・子育て支援サービスの充実	男性の家事参加への理解促進	家族の理解促進	企業経営者の理解促進	職場の同僚の理解促進	働き続けることへの女性の意識改革	男女双方の働き方改革（長時間労働の是正等）	職場の子育て・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児・介護休業取得者への不当な取扱いの禁止	その他	特にない	無回答
全体		709	458	353	406	349	343	311	376	143	264	349	324	265	17	13	10
		100.0	64.6	49.8	57.3	49.2	48.4	43.9	53.0	20.2	37.2	49.2	45.7	37.4	2.4	1.8	1.4
年代別	10～20歳代	78	56	42	54	48	38	37	44	19	43	45	44	35	3	3	-
		100.0	71.8	53.8	69.2	61.5	48.7	47.4	56.4	24.4	55.1	57.7	56.4	44.9	3.8	3.8	-
	30歳代	103	80	51	76	69	52	53	70	24	51	59	63	48	4	-	-
		100.0	77.7	49.5	73.8	67.0	50.5	51.5	68.0	23.3	49.5	57.3	61.2	46.6	3.9	-	-
	40歳代	116	80	59	69	59	59	47	62	28	44	58	65	45	1	-	-
		100.0	69.0	50.9	59.5	50.9	50.9	40.5	53.4	24.1	37.9	50.0	56.0	38.8	0.9	-	-
	50歳代	121	81	57	61	56	49	55	60	23	37	57	42	39	6	3	3
		100.0	66.9	47.1	50.4	46.3	40.5	45.5	49.6	19.0	30.6	47.1	34.7	32.2	5.0	2.5	2.5
	60歳代	164	95	93	92	69	85	64	82	29	54	82	70	57	3	2	1
		100.0	57.9	56.7	56.1	42.1	51.8	39.0	50.0	17.7	32.9	50.0	42.7	34.8	1.8	1.2	0.6
	70歳以上	123	63	48	51	46	58	52	56	19	34	45	38	38	-	5	5
		100.0	51.2	39.0	41.5	37.4	47.2	42.3	45.5	15.4	27.6	36.6	30.9	30.9	-	4.1	4.1

問 23 男性が家事・子育て・介護等を行うことについて、どのように考えていますか。

【〇はいくつでも】

- 男性が家事等を行うことについては、全体でみると、「男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然」が73.8%と最も多く、次いで「仕事と両立させることは現実として難しい」が48.1%となっている。
- 性別でみると、男女共に「男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然」が7割強と最も多い。一方で、「家事・子育て・介護等は女性の方が向いている」では、男性が20.1%、女性が10.1%と男性が女性より10.0ポイント多くなっている。

図表 66 男性が家事等を行うことについて（性別）



- 年代別では、すべての年代で「男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然」が最も多く、年代で差はほとんどみられない。

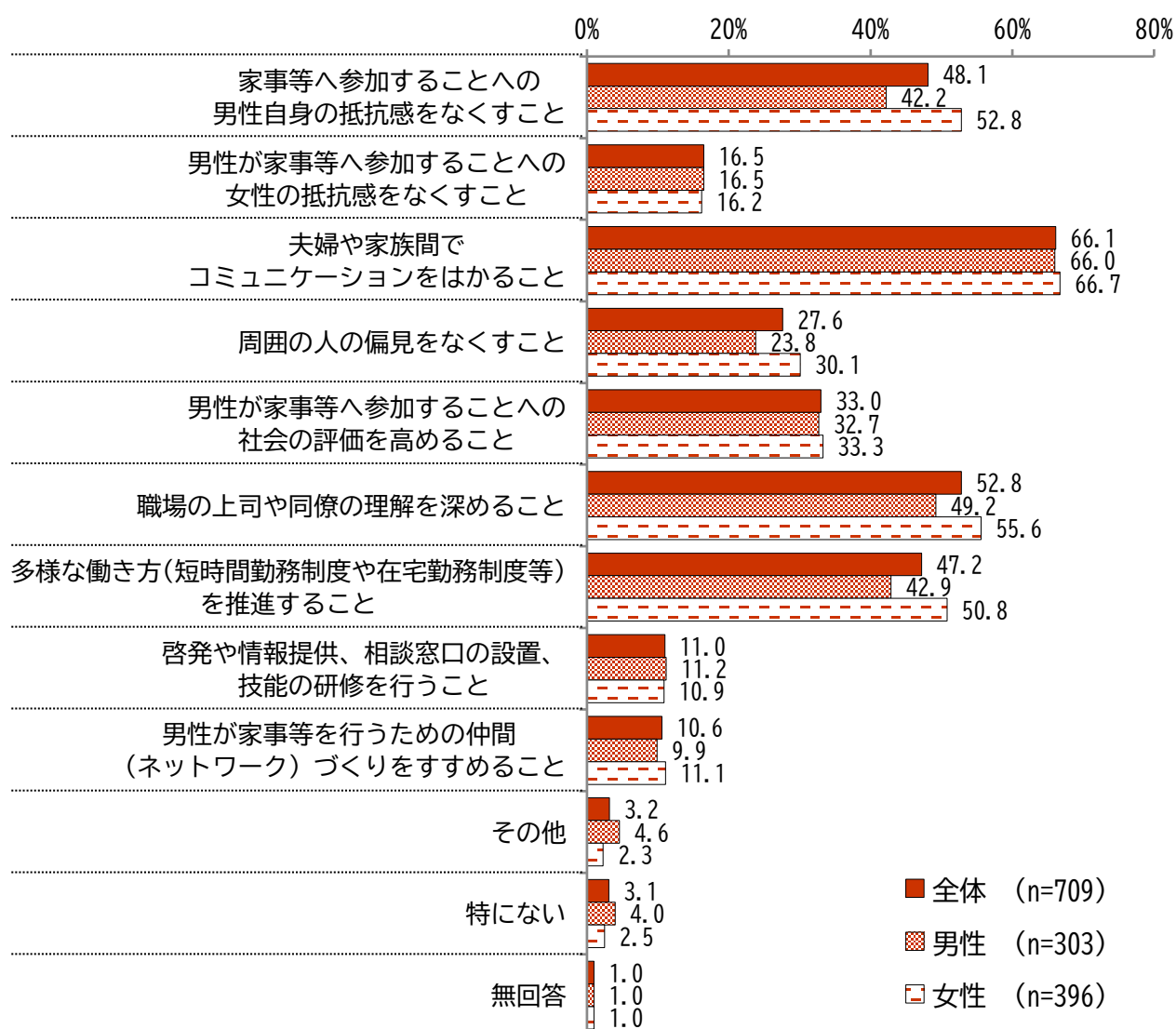
図表 67 男性が家事等を行うことについて（年代別）

		全体	男性も家事・子育て・介護等を行うのは当然	仕事と両立させることは現実として難しい	家事・子育て・介護等は女性の方が向いている	妻が家事・子育て・介護等をしていないと誤解される	男性は家事・子育て・介護等を行う必要はない	その他	無回答
全体		709	523	341	104	43	2	16	9
		100.0	73.8	48.1	14.7	6.1	0.3	2.3	1.3
年代別	10～20歳代	78	64	39	8	4	-	-	-
		100.0	82.1	50.0	10.3	5.1	-	-	-
	30歳代	103	79	53	9	10	-	4	-
		100.0	76.7	51.5	8.7	9.7	-	3.9	-
	40歳代	116	92	51	15	5	1	3	-
		100.0	79.3	44.0	12.9	4.3	0.9	2.6	-
	50歳代	121	81	59	13	7	-	6	2
		100.0	66.9	48.8	10.7	5.8	-	5.0	1.7
	60歳代	164	112	83	32	9	1	3	1
		100.0	68.3	50.6	19.5	5.5	0.6	1.8	0.6
	70歳以上	123	93	54	26	8	-	-	5
		100.0	75.6	43.9	21.1	6.5	-	-	4.1

問 24 男性が家事・子育て・介護等に積極的に参加していくために、必要なことは何だと思いますか。
【〇はいくつでも】

- 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なことでは、全体でみると、「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること」が 66.1%で最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解を深めること」が 52.8%、「家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」が 48.1%となっている。
- 性別でみると、男女共に「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること」が 7 割弱と最も多いが、「家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」では男性が 42.2%、女性が 52.8%と、女性が男性より 10.6 ポイント多くなっている。

図表 68 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこと（性別）



- ▶ 年代別では、すべての年代で「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること」が最も多い。
- ▶ 70 歳以上では、「家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」が、他の年代より多くなっている。

図表 69 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこと（年代別）

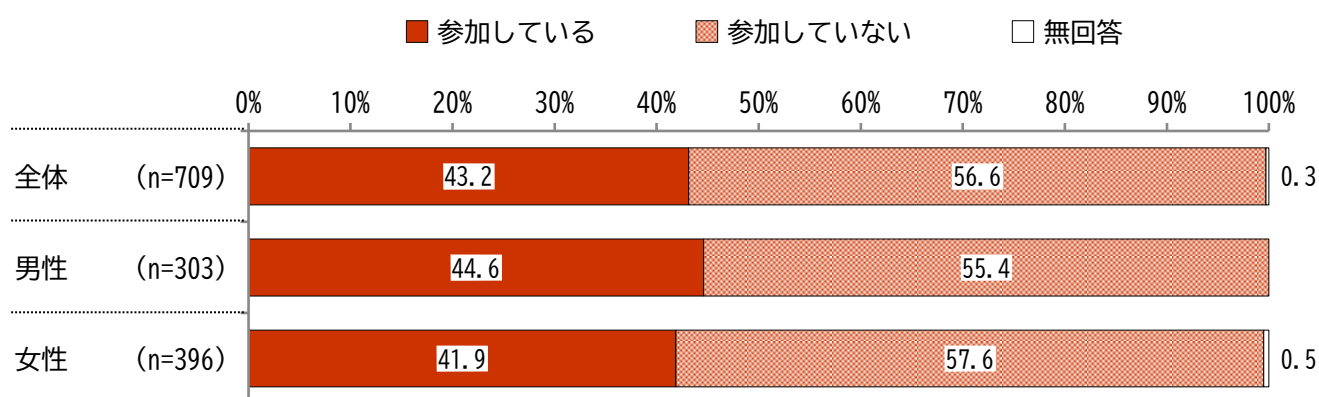
	全体	家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事等へ参加することへの女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でコミュニケーションをはかること	周囲の人の偏見をなくすること	男性が家事等へ参加することへの社会の評価を高めること	職場の上司や同僚の理解を深めること	勤務制度や在宅勤務制（多様な働き方）の推進すること	窓の設置、情報の提供、修繕を行うこと	男性が家事等を行うための仲間（ネットワー）づくりをすすめること	その他	特にな	無回答
全体	709 100.0	341 48.1	117 16.5	469 66.1	196 27.6	234 33.0	374 52.8	335 47.2	78 11.0	75 10.6	23 3.2	22 3.1	7 1.0
年代別	10～20歳代	78 100.0	35 44.9	14 17.9	60 76.9	27 34.6	46 59.0	43 55.1	9 11.5	14 17.9	2 2.6	3 3.8	-
	30歳代	103 100.0	52 50.5	22 21.4	82 79.6	41 39.8	59 57.3	62 60.2	10 9.7	12 11.7	3 2.9	1 1.0	-
	40歳代	116 100.0	57 49.1	16 13.8	75 64.7	30 25.9	63 54.3	59 50.9	15 12.9	14 12.1	2 1.7	6 5.2	-
	50歳代	121 100.0	53 43.8	24 19.8	66 54.5	37 30.6	66 54.5	58 47.9	10 8.3	13 10.7	8 6.6	3 2.5	2 1.7
	60歳代	164 100.0	75 45.7	21 12.8	115 70.1	43 26.2	84 51.2	76 46.3	22 13.4	16 9.8	2 1.2	3 1.8	1 0.6
	70歳以上	123 100.0	67 54.5	20 16.3	70 56.9	17 13.8	53 43.1	35 28.5	12 9.8	6 4.9	6 4.9	6 4.9	3 2.4

6. 地域活動・防災対策等について

問 25 あなたは、町内や地域の活動に参加していますか。【〇は1つ】

- 町内や地域の活動に参加しているかでは、全体でみると、「参加していない」が56.6%、「参加している」が43.2%となっている。
- 性別でみると、男女で大きな差はみられない。

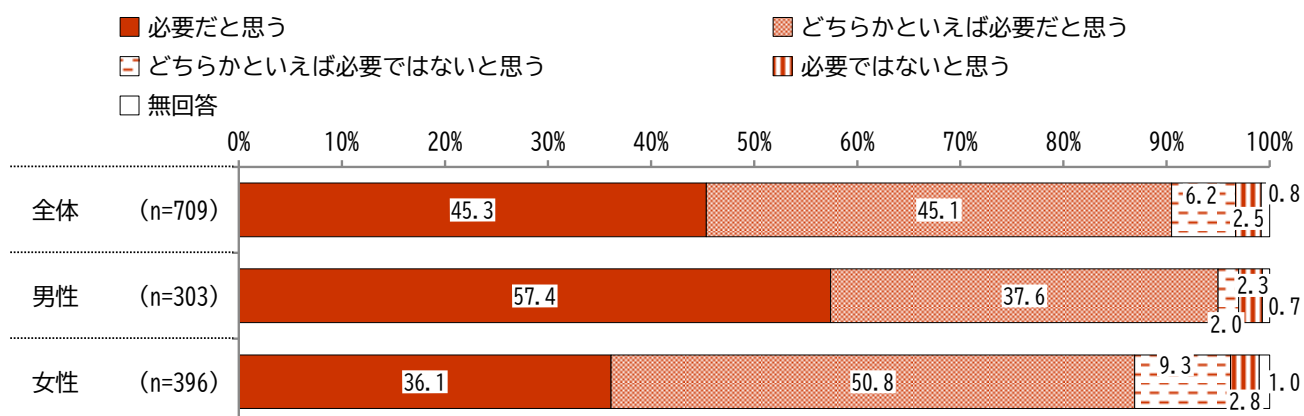
図表 70 町内や地域の活動に参加しているか（性別）



問 26 役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについてどう思いますか。【〇は1つ】

- 地域の意志決定の場へ女性が参画することについてでは、全体でみると、『必要派』（「必要だと思う」＋「どちらかといえば必要だと思う」）が90.1%、『不要派』（「必要ではないと思う」＋「どちらかといえば必要ではないと思う」）が8.7%となっている。
- 性別でみると、『必要派』が男性では95.0%、女性では86.9%で男性が女性より8.1ポイント多い。

図表 71 地域の意志決定の場へ女性が参画することについて（性・年代別）

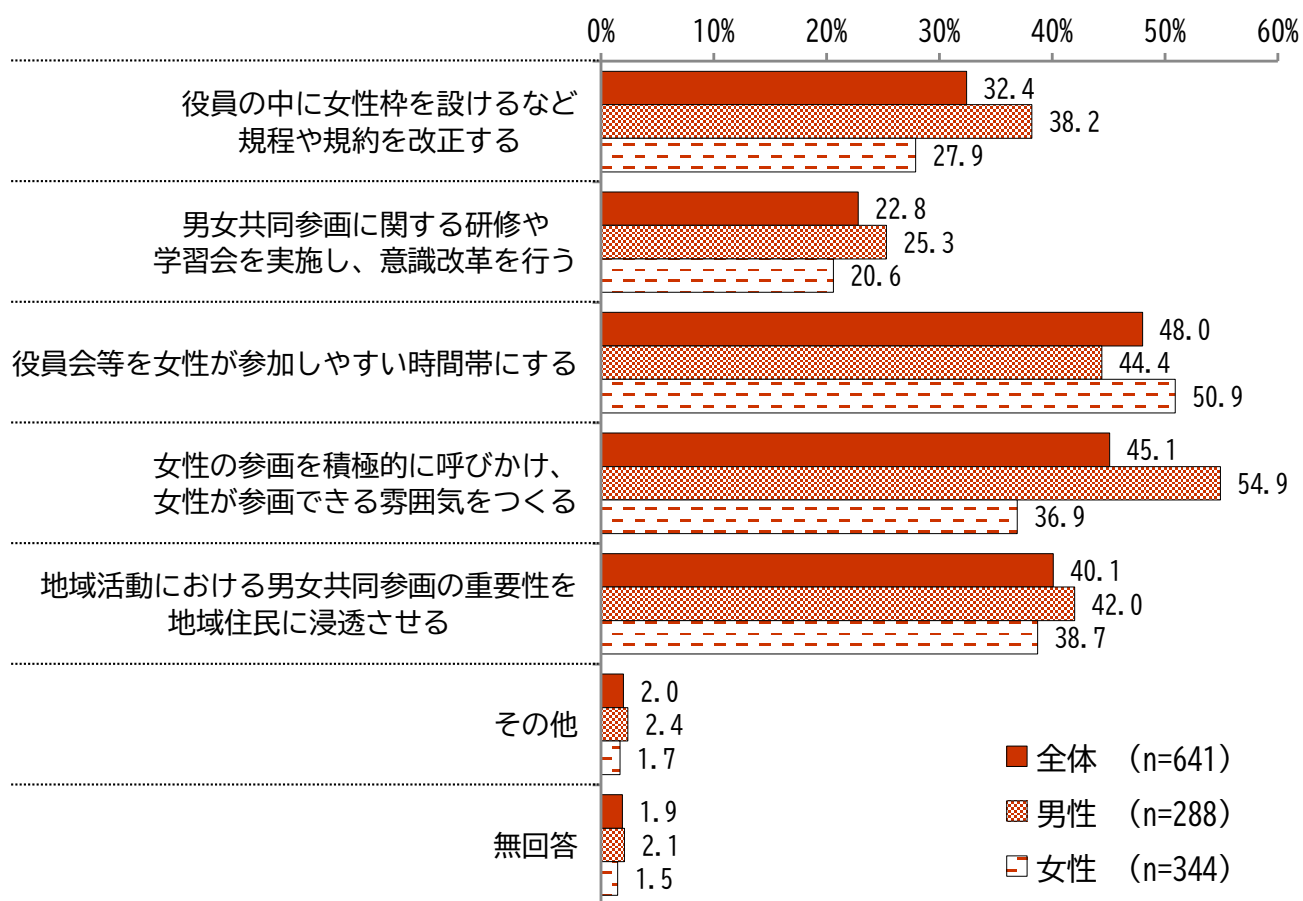


問 26 で「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」に○をつけた人にお聞きします。

問 26-1 どのようにすれば女性が参画できると思いますか。【○はいくつでも】

- どのようにすれば女性が地域の意志決定の場へ参画できるかでは、全体でみると、「役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が 48.0%と最も多く、次いで「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が 45.1%、「地域活動における男女共同参画の重要性を地域住民に浸透させる」が 40.1%となっている。
- 性別でみると、男性では「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が 54.9%、女性では「役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が 50.9%と最も多く、男女で違いがみられた。「役員の中に女性枠を設けるなど規定や規約を改正する」では、男性が 38.2%、女性が 27.9%と男性が女性より 10.3 ポイント多くなっている。

図表 72 地域の意志決定の場へ女性が参画するために必要なこと（問 26 で「必要派」の人/性別）

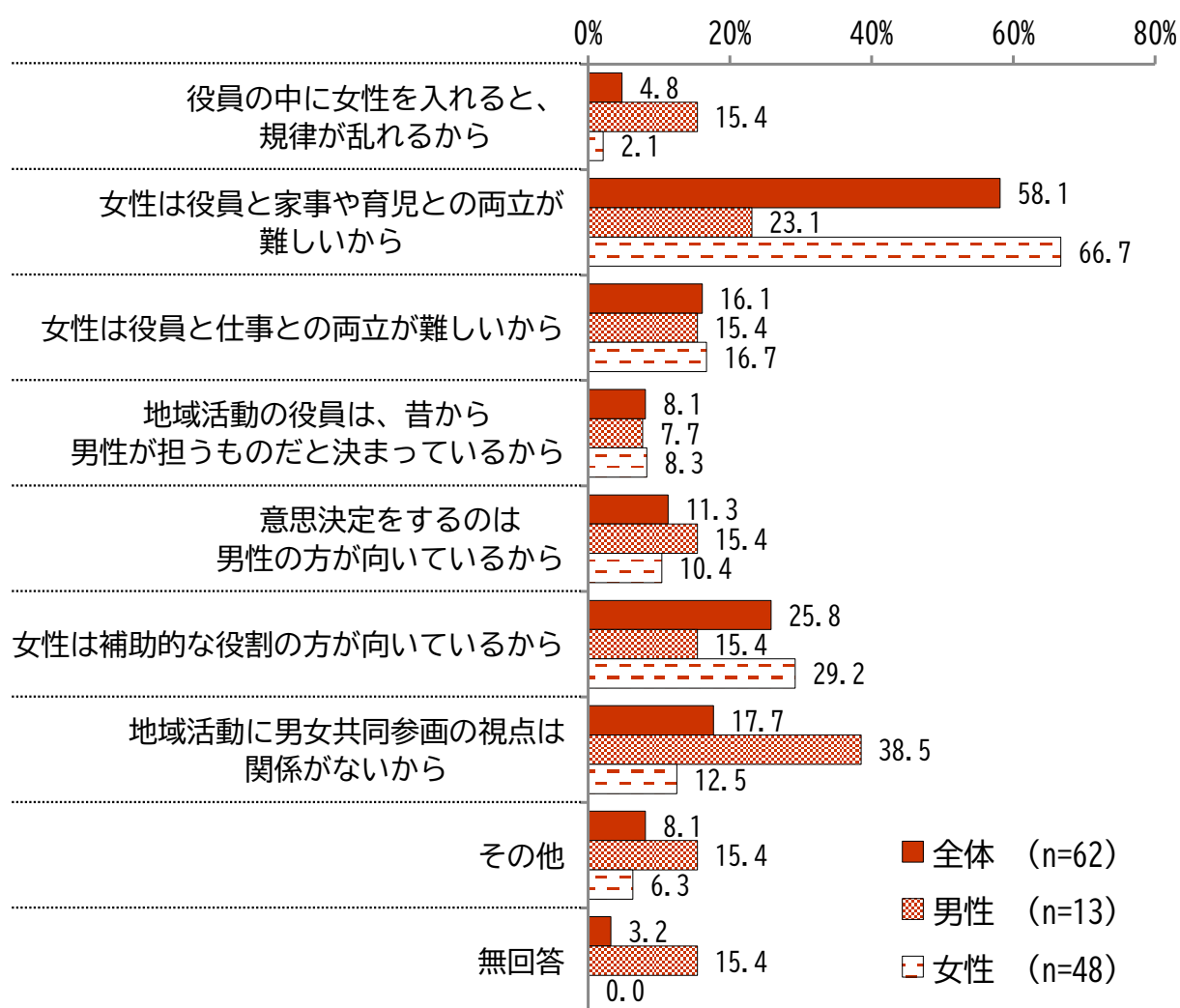


問 26 で「どちらかといえば必要ではないと思う」「必要ではないと思う」に○をつけた人にお聞きします。

問 26-2 そう思う理由をお答えください。【○はいくつでも】

- 地域の意志決定の場へ女性が参画する必要がないと思う理由では、全体でみると、「女性は役員と家事や育児との両立が難しいから」が 58.1%と最も多く、次いで「女性は補助的な役割の方が向いているから」が 25.8%、「地域活動に男女共同参画の視点は関係がないから」が 17.7%となっている。
- 性別でみると、男性では「地域活動に男女共同参画の視点は関係がないから」が 38.5%、女性では「女性は役員と家事や育児との両立が難しいから」が 66.7%と最も多く、男女で違いがみられる。

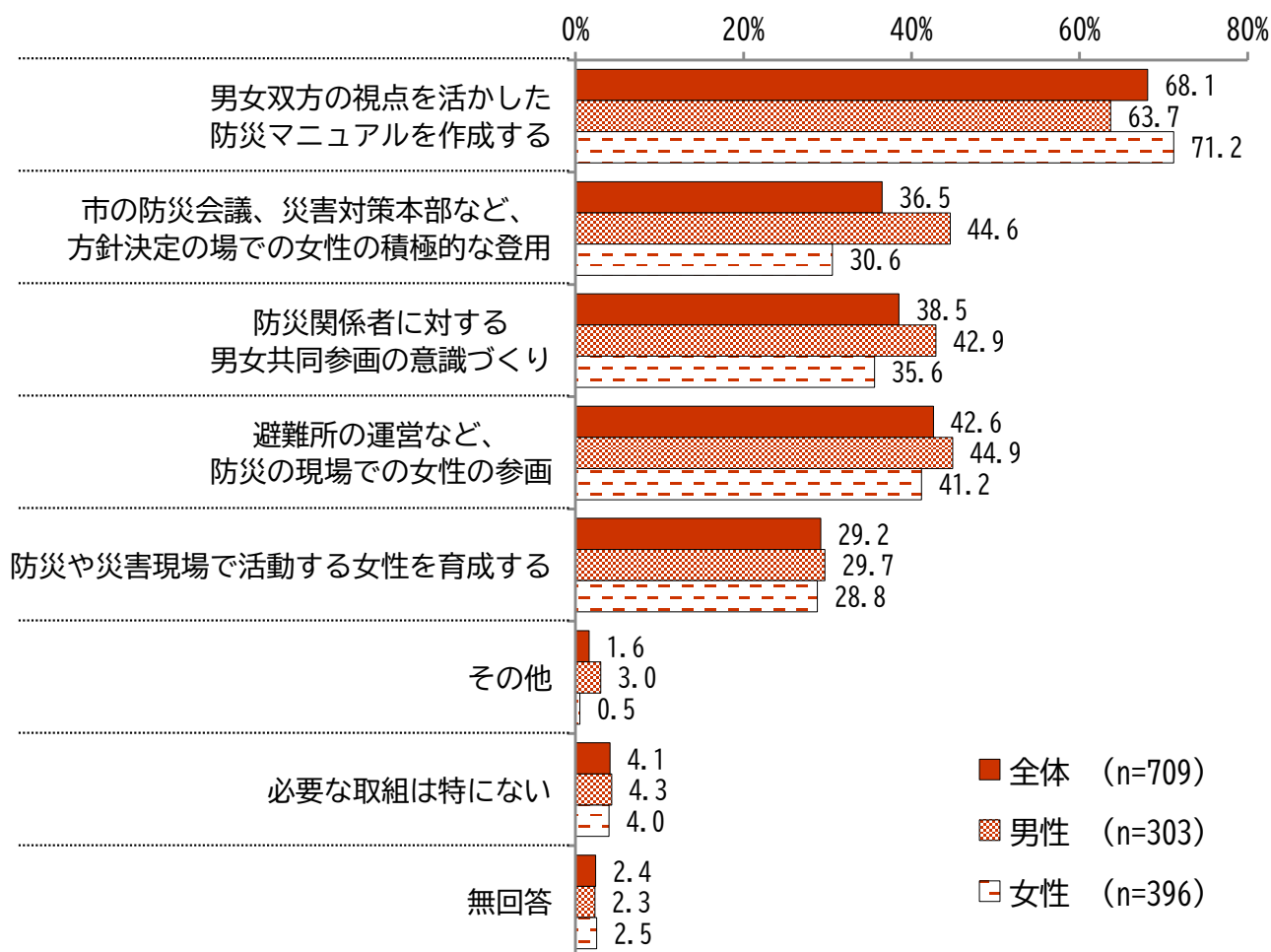
図表 73 地域の意志決定の場へ女性が参画する必要がないと思う理由(問 26 で『不要派』の人/性別)



問 27 地域において、男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

- 地域で男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるために必要な取組では、全体でみると、「男女双方の視点を活かした防災マニュアルを作成する」が 68.1%と最も多く、次いで「避難所の運営など、防災の現場での女性の参画」が 42.6%、「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」が 38.5%となっている。
- 性別でみると、男女共に「男女双方の視点を活かした防災マニュアルを作成する」が最も多い。「市の防災会議、災害対策本部など、方針決定の場での女性の積極的な登用」では男性が 44.6%、女性が 30.6%と男性が女性より 14.0 ポイント多くなっている。

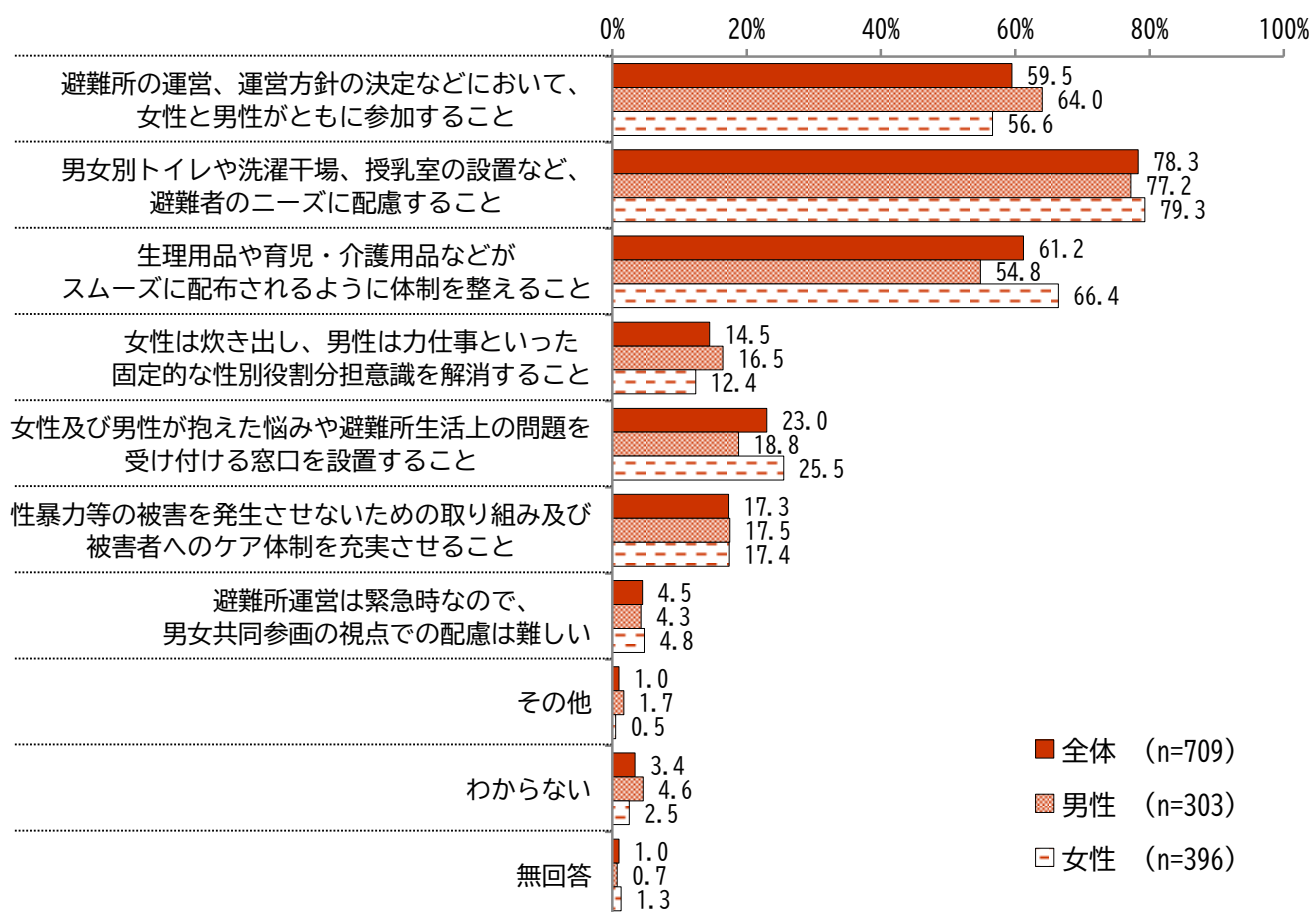
図表 74 地域で男女双方にとって安心安全な防災体制を整えるために必要な取組（性別）



問 28 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】（性別）

- 災害時の避難所運営に必要だと思うことでは、全体でみると、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が78.3%と最も多く、次いで「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が61.2%、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が59.5%となっている。
- 性別でみると、男女共に「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が8割弱と最も多い。「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」では、男性が54.8%、女性が66.4%と女性が男性より11.6ポイント多くなっている。

図表 75 災害時の避難所運営に必要だと思うこと（性別）



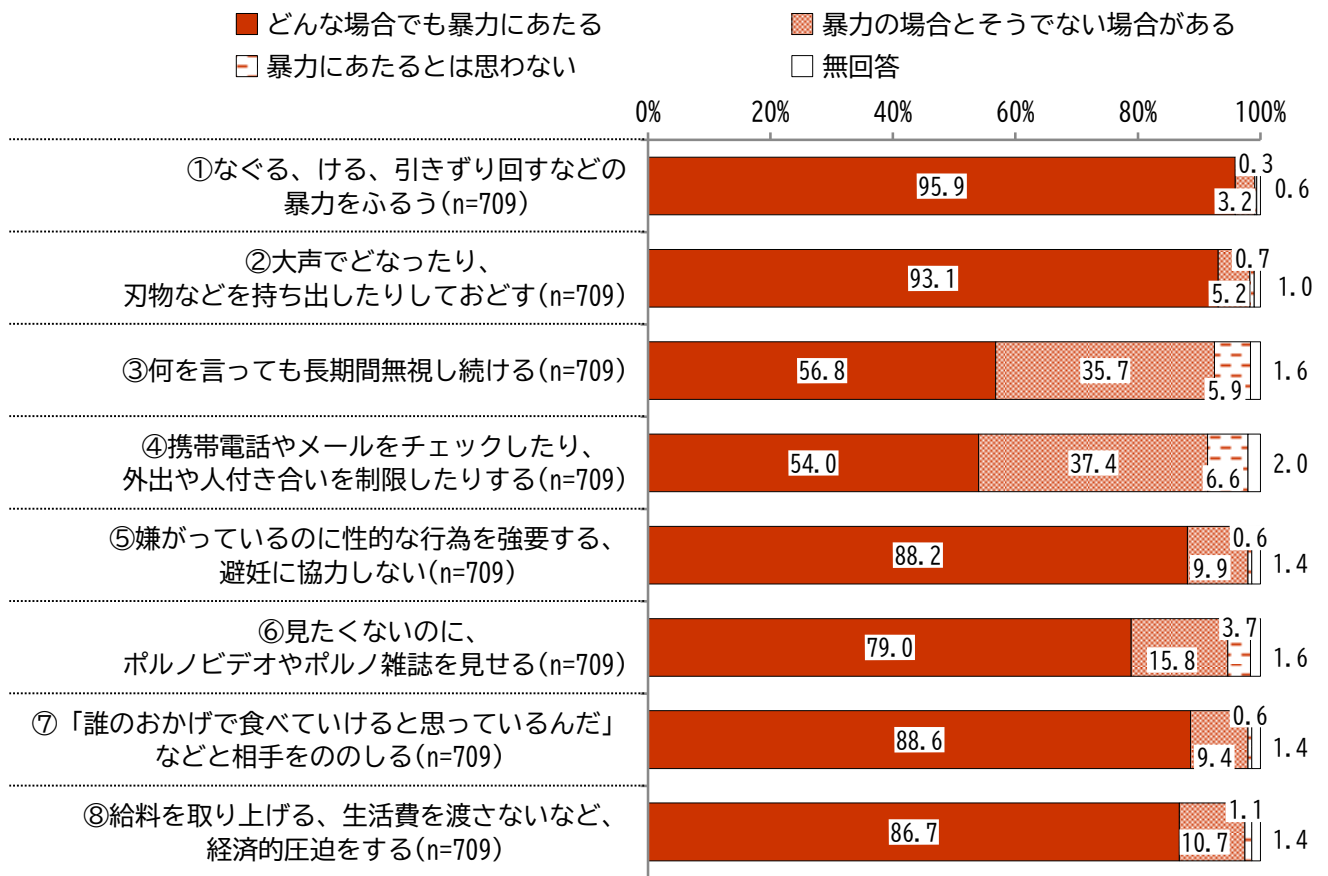
7. 男女の人権について

問 29 次のようなことが夫婦またはパートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

①～⑧のそれぞれについてお答えください。【①～⑧のそれぞれについて○は1つ】

- ①～⑧の各項目について暴力だと思うかでは、全体でみると、「③何を言っても長期間無視し続ける」と「④携帯電話やメールチェックしたり、外出や人付き合いを制限したりする」で「暴力の場合とそうでない場合がある」が3割半ばを超えており、他の項目と比べると意見が分かれている。

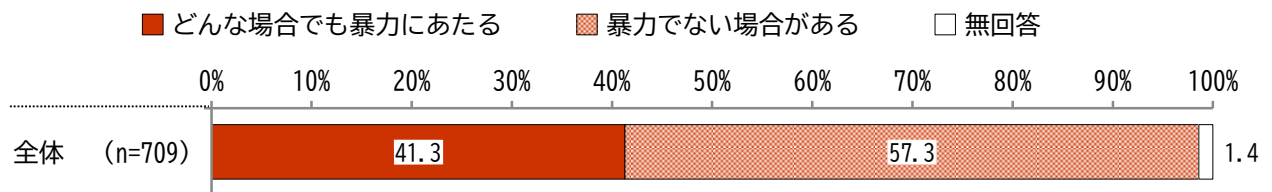
図表 76 暴力だと思うか



問 29 DV への認識について（問 29 で①～⑧をすべて「暴力」と答えている割合）

- ①～⑧のすべての項目において「どんな場合でも暴力にあたる」と認識している割合は 41.3%となっている。

図表 77 問 29 で①～⑧をすべて「暴力」と答えている割合

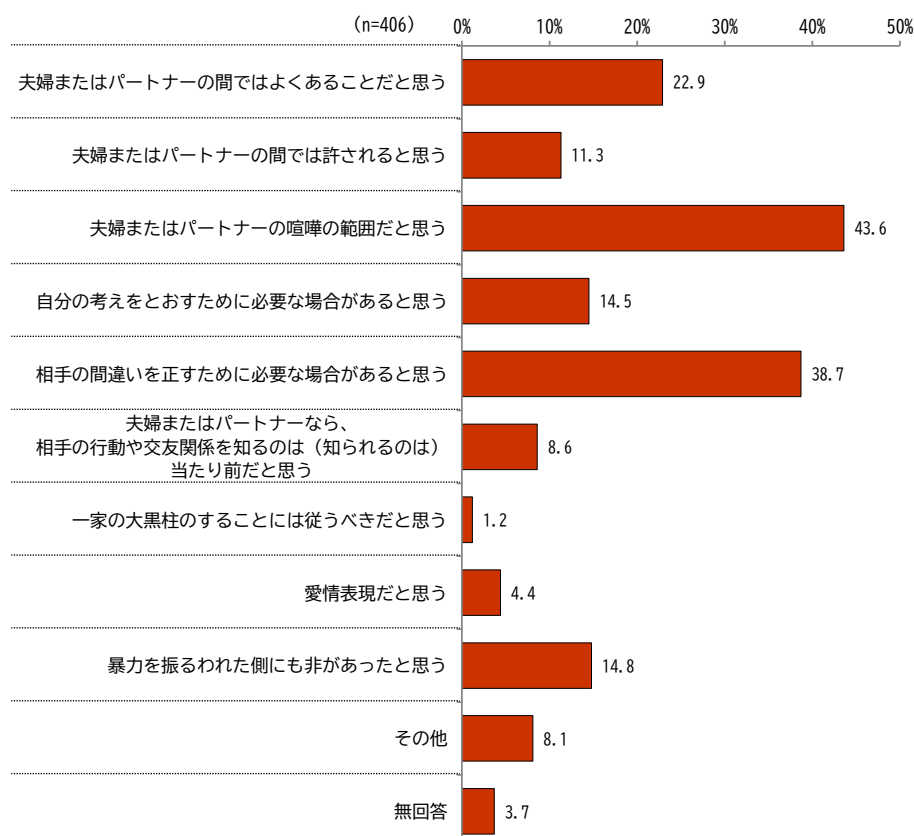


問 29 で 1 つでも「暴力の場合とそうでない場合がある」、「暴力にあたるとは思わない」に○を付けた人にお聞きします。

問 29-1 そう思う理由をお答えください。【○はいくつでも】

- 暴力ではないと思う理由では、「夫婦またはパートナーの喧嘩の範囲だと思う」が 43.6%と最も多く、次いで「相手の間違いを正すために必要な場合があると思う」が 38.7%、「夫婦またはパートナーの間ではよくあることだと思う」が 22.9%となっている。

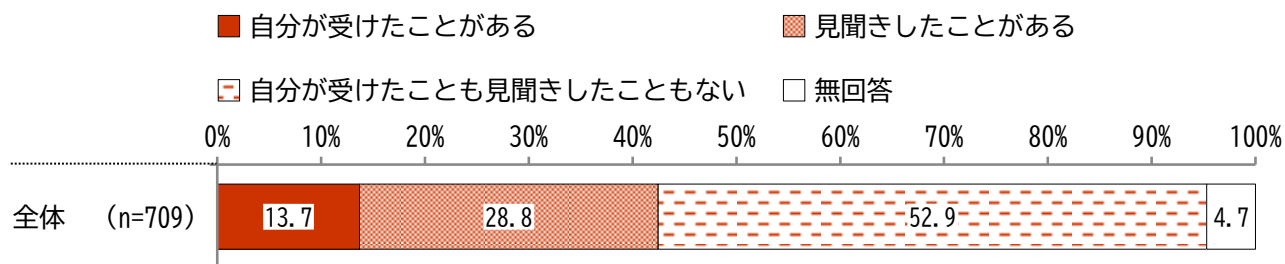
図表 78 暴力ではないと思う理由（問 29 で 1 つでも「暴力の場合とそうでない場合がある」「暴力にあたるとは思わない」と答えた人）



問 30 あなたはこれまで配偶者またはパートナー、交際相手から問 29 のような行為を一度でも受けたり、周りから見聞きした経験はありますか。【〇は 1 つ】

➤ 問 29 のような行為を「自分が受けたことがある」割合が 13.7%となっている。

図表 79 問 29 のような行為を受けたり見たりした経験があるか

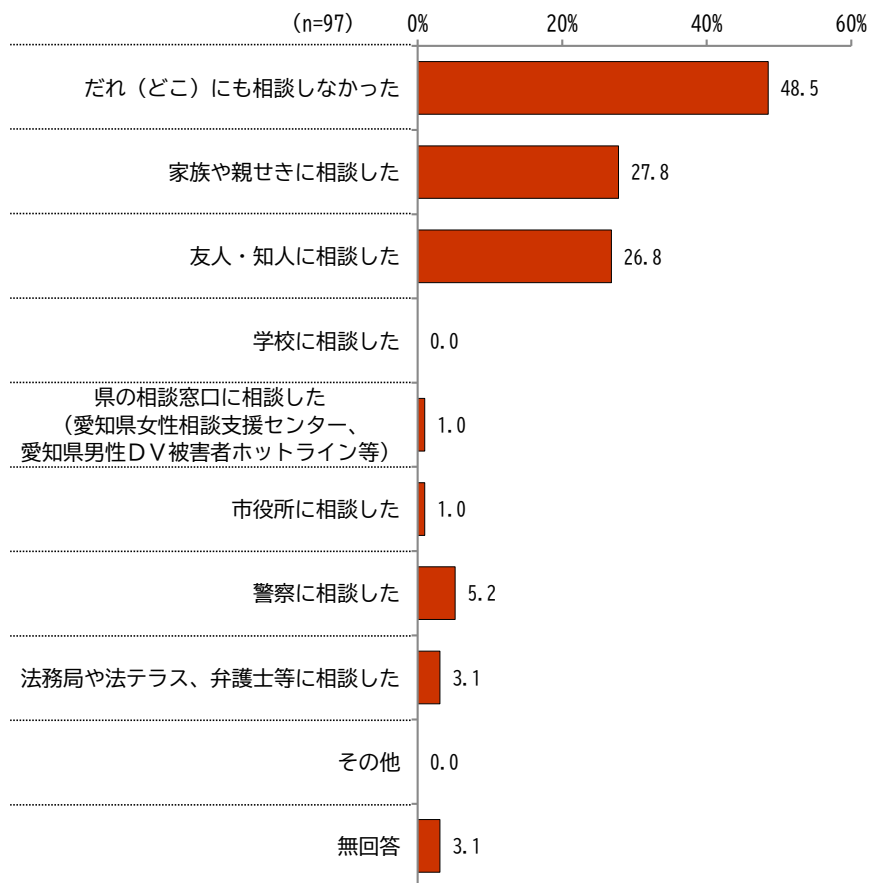


問 30 で「自分が受けたことがある」に〇をつけた人にお聞きします。

問 30-1 そのとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。【〇はいくつでも】

➤ だれかに打ち明けたり相談したりしたかでは、「だれ(どこ)にも相談しなかった」が 48.5%と最も多く、次いで「家族や親せきに相談した」が 27.8%、「友人・知人に相談した」が 26.8%となっている。

図表 80 だれかに相談したか (DV を「自分が受けたことがある」と答えた人)

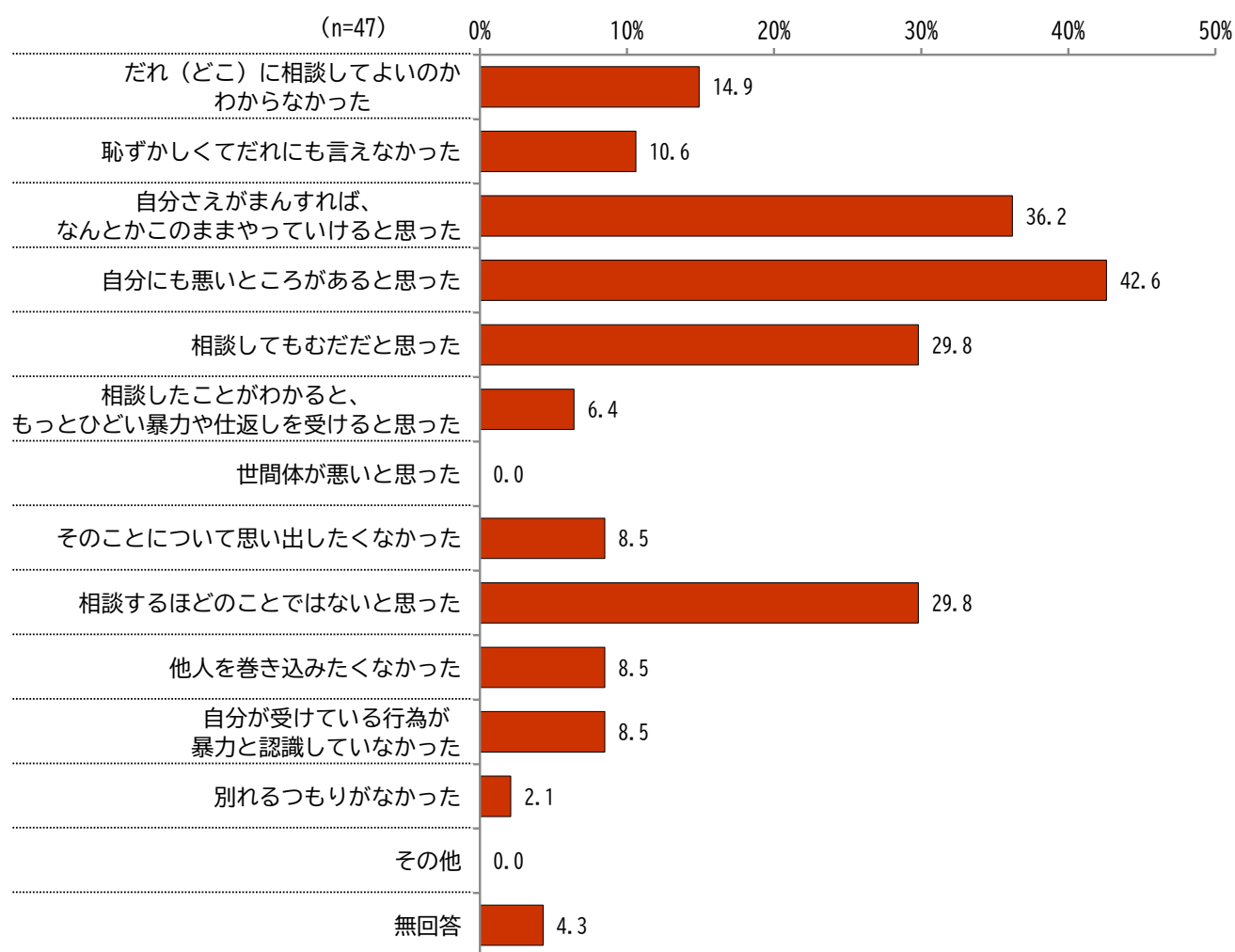


問 30-1 で「だれ（どこ）にも相談しなかった」に○をつけた人にお聞きします。

問 30-2 だれ（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。【○はいくつでも】

- だれ（どこ）にも相談しなかった理由では、「自分にも悪いところがあると思った」が 42.6%と最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」が 36.2%、「相談してもむだだと思った」「相談するほどのことではないと思った」が 29.8%となっている。

図表 81 だれ（どこ）にも相談しなかった理由（問 30-1 で「だれ（どこにも相談しなかった」と答えた人）

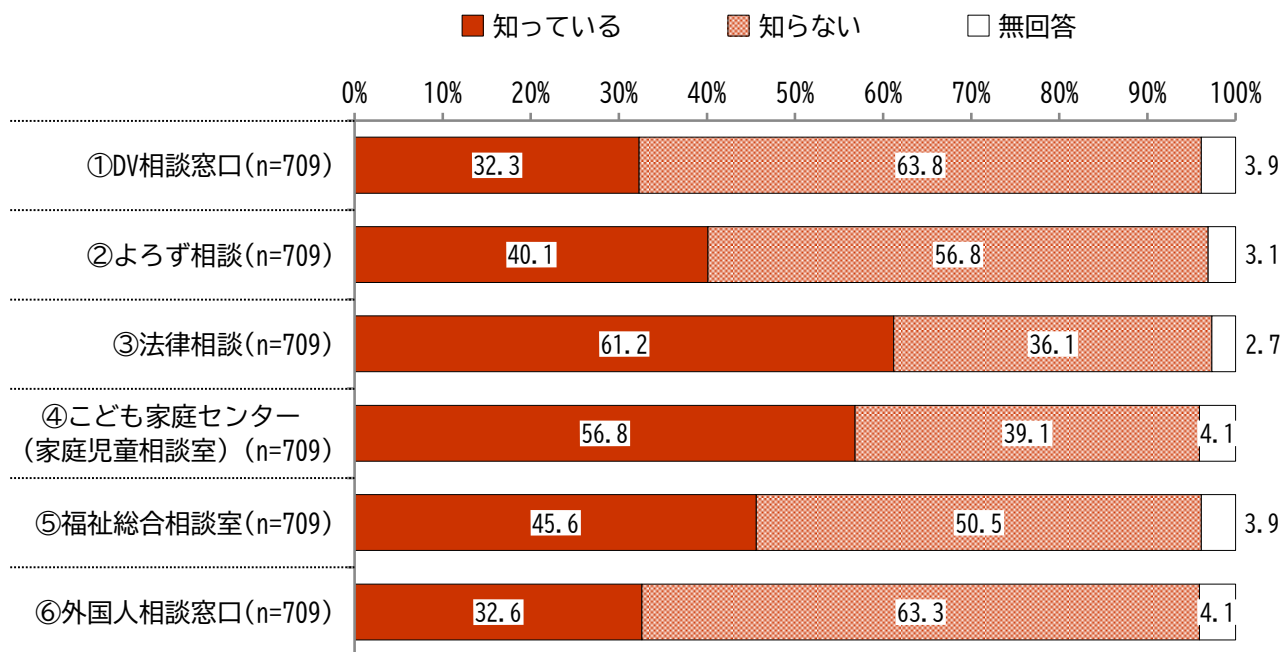


問 31 あなたは、蒲郡市に次の相談窓口があることを知っていますか。

【①～⑥それぞれについて○は1つ】

- 蒲郡市の相談窓口について、「③法律相談」「④こども家庭センター」では「知っている」が5割半ばから約6割と多い一方で、「①DV相談窓口」「⑥外国人相談窓口」では「知っている」が3割強と、相談窓口の種類によって認知度に違いがみられた。

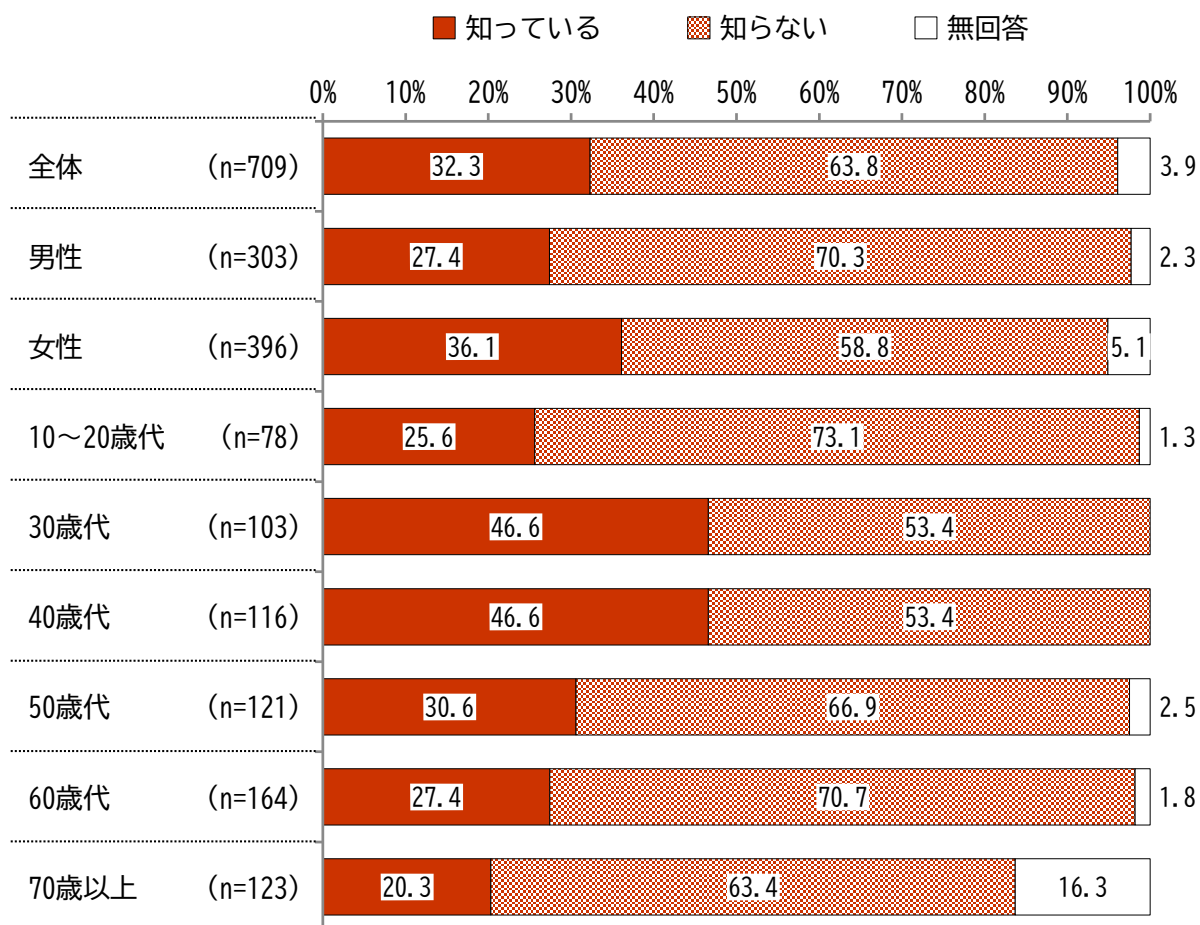
図表 82 蒲郡市にあることを知っているか



①DV 相談窓口

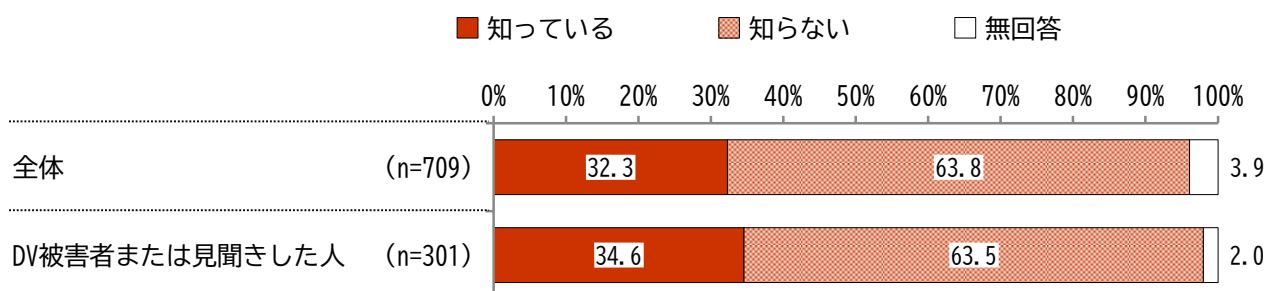
- 性別でみると、「知っている」が男性で 27.4%、女性で 36.1%と、女性が男性より 8.7%多くなっている。
- 年代別でみると、すべての年代で「知らない」が多いが、30～40 歳代では「知っている」が 46.6%と半数近くになっている。

図表 83 蒲郡市にあることを知っているか ①DV 相談窓口



- 問 30 で DV を「自分が受けたことがある」「見聞きしたことがある」と回答した人について①DV 相談窓口の認知度をみると、DV 被害者または見聞きした人であっても、DV 相談窓口を「知っている」割合は 34.6%にとどまっている。

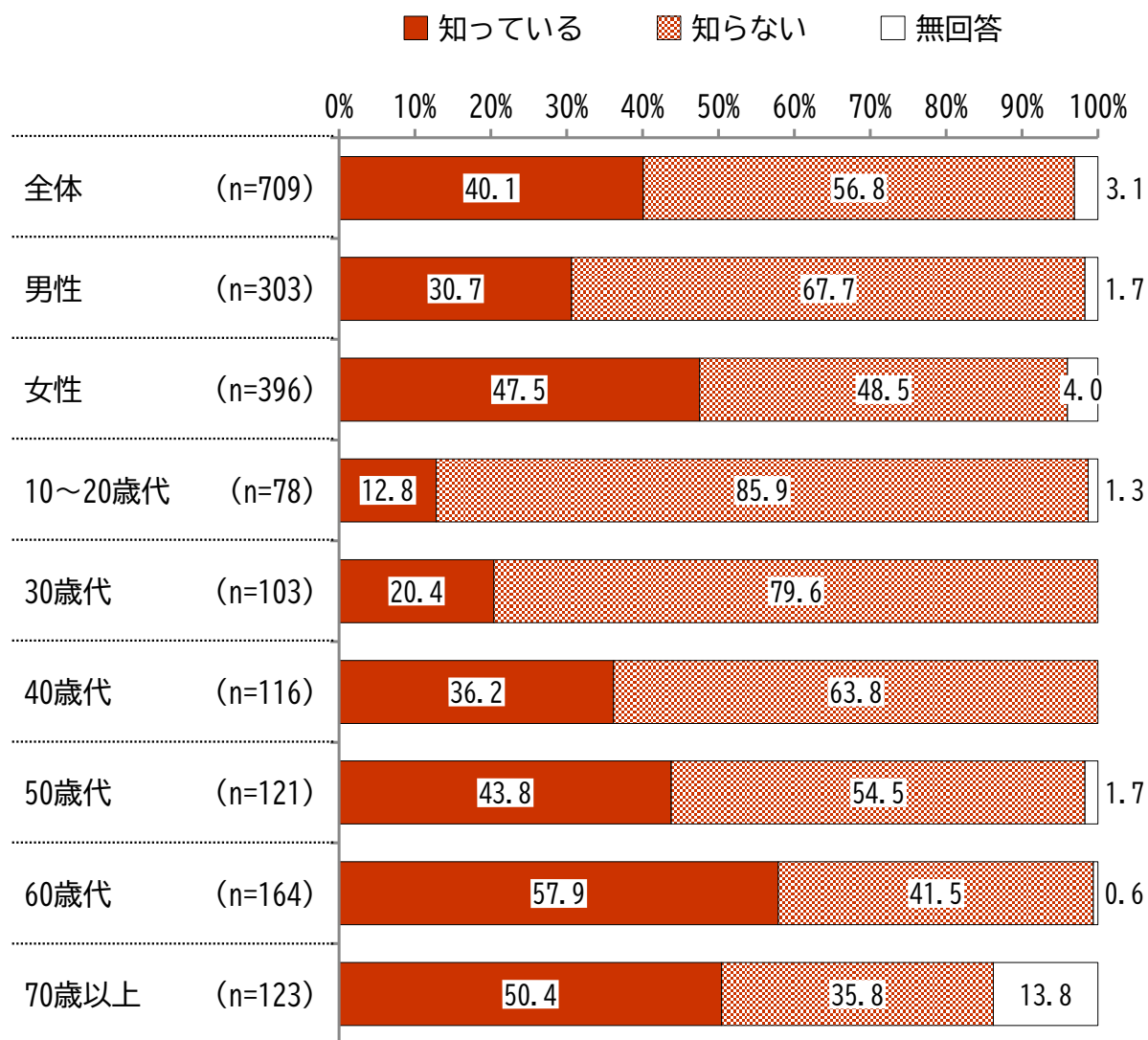
図表 84 ①DV 相談窓口 (DV 被害者または見聞きした人)



②よろず相談

- 性別でみると、男性では「知っている」が 30.7%、女性では 47.5%と、女性が男性より 20.0 ポイント多くなっている。
- 年代別でみると、60～70 歳以上で「知っている」が 5 割以上と多くなっている。

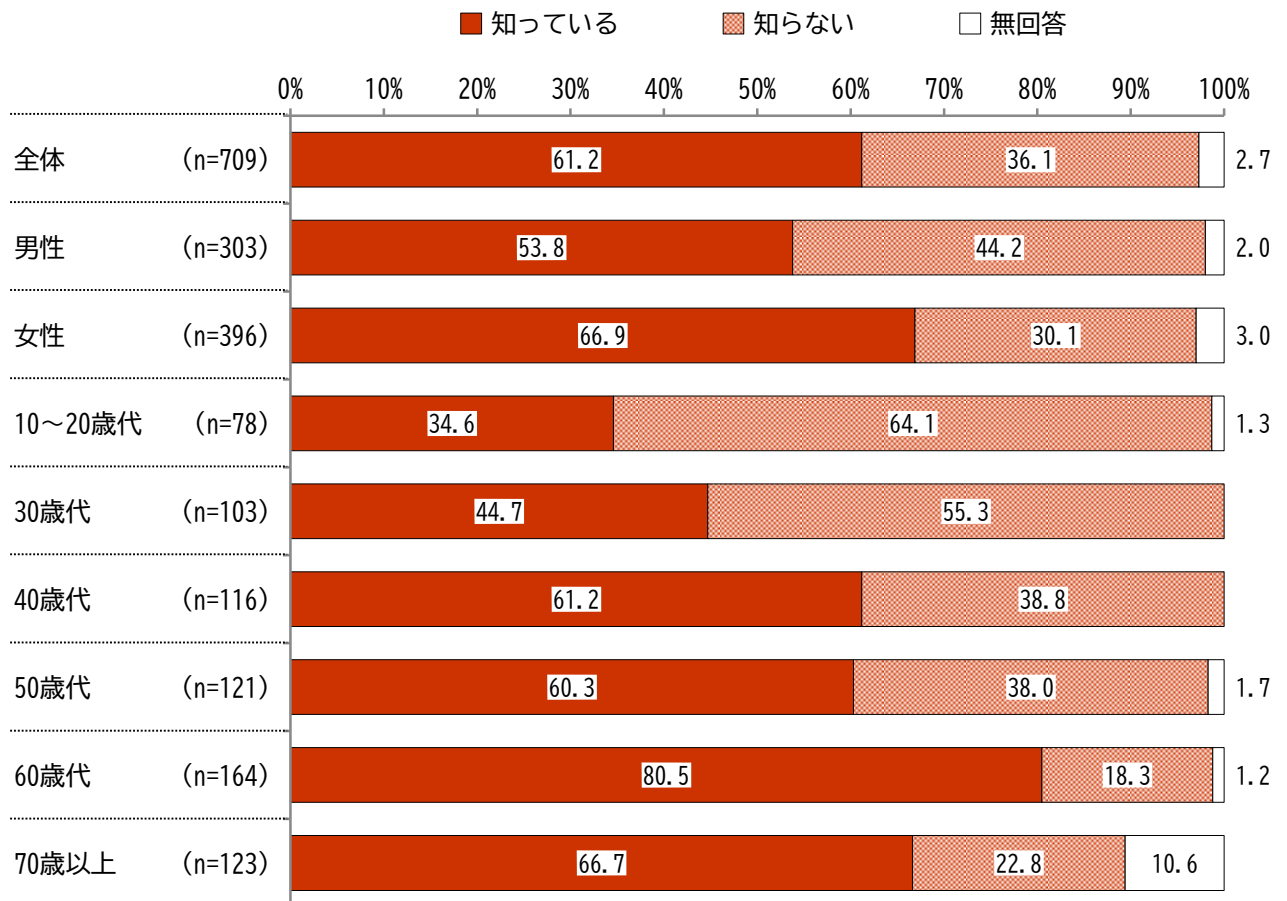
図表 85 蒲郡市にあることを知っているか②よろず相談（性・年代別）



③法律相談

- 性別で見ると、「知っている」が男性で 53.8%、女性で 66.9%と、女性が男性より 13.1 ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、10～30 歳代では、「知らない」が 5 割以上を占めているが、40～70 歳以上では「知っている」が 6 割以上となっており、特に 60 歳代で 80.5%と非常に高くなっている。

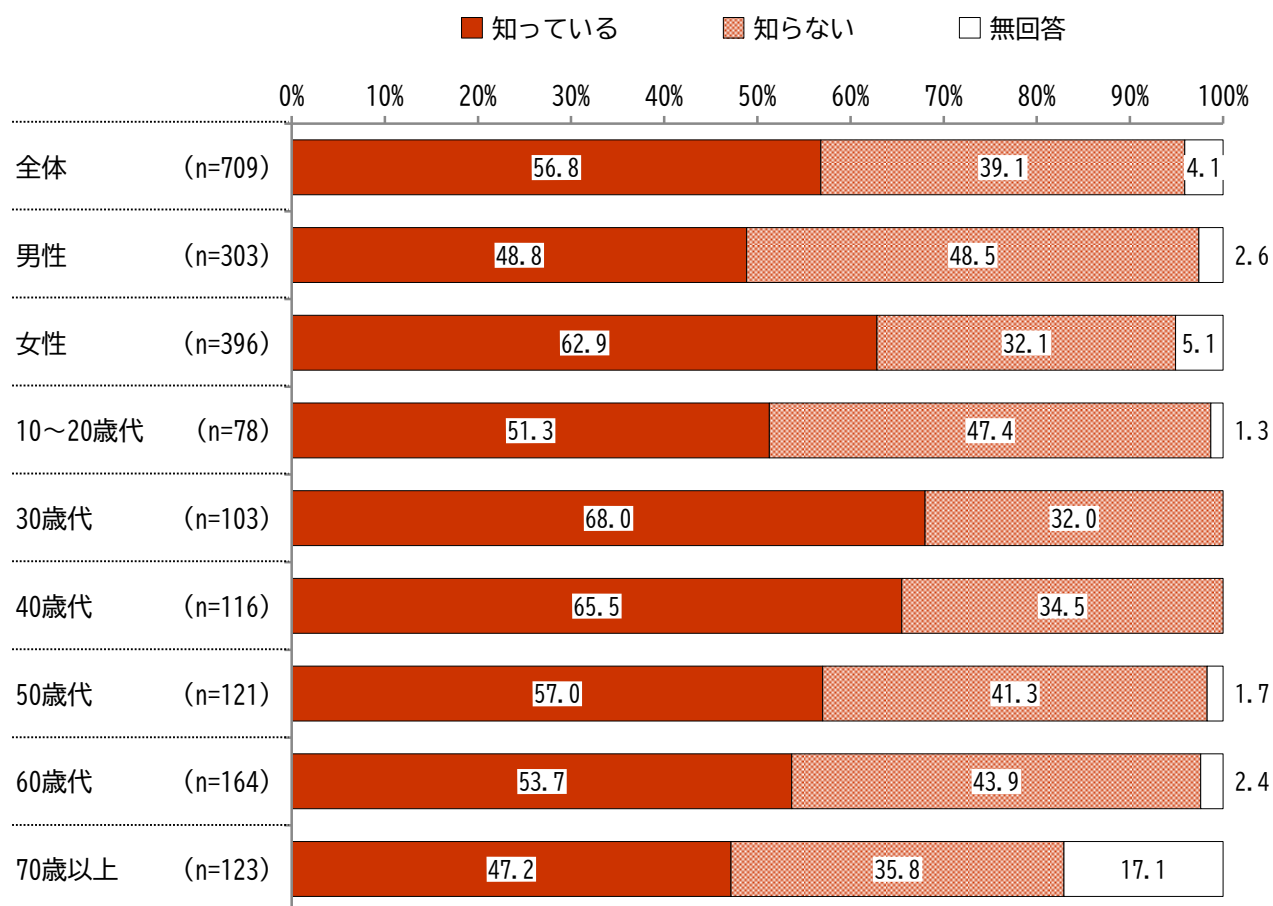
図表 86 蒲郡市にあることを知っているか③法律相談（性・年代別）



④こども家庭センター（家庭児童相談室）

- 性別で見ると、「知っている」が男性で 48.8%、女性で 62.9%と、女性が男性より 14.1 ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、「知っている」が 30 歳代で 68.0%と最も多く、30 歳代以上の年代では、年齢が高いほど「知っている」が少なくなる傾向にある。

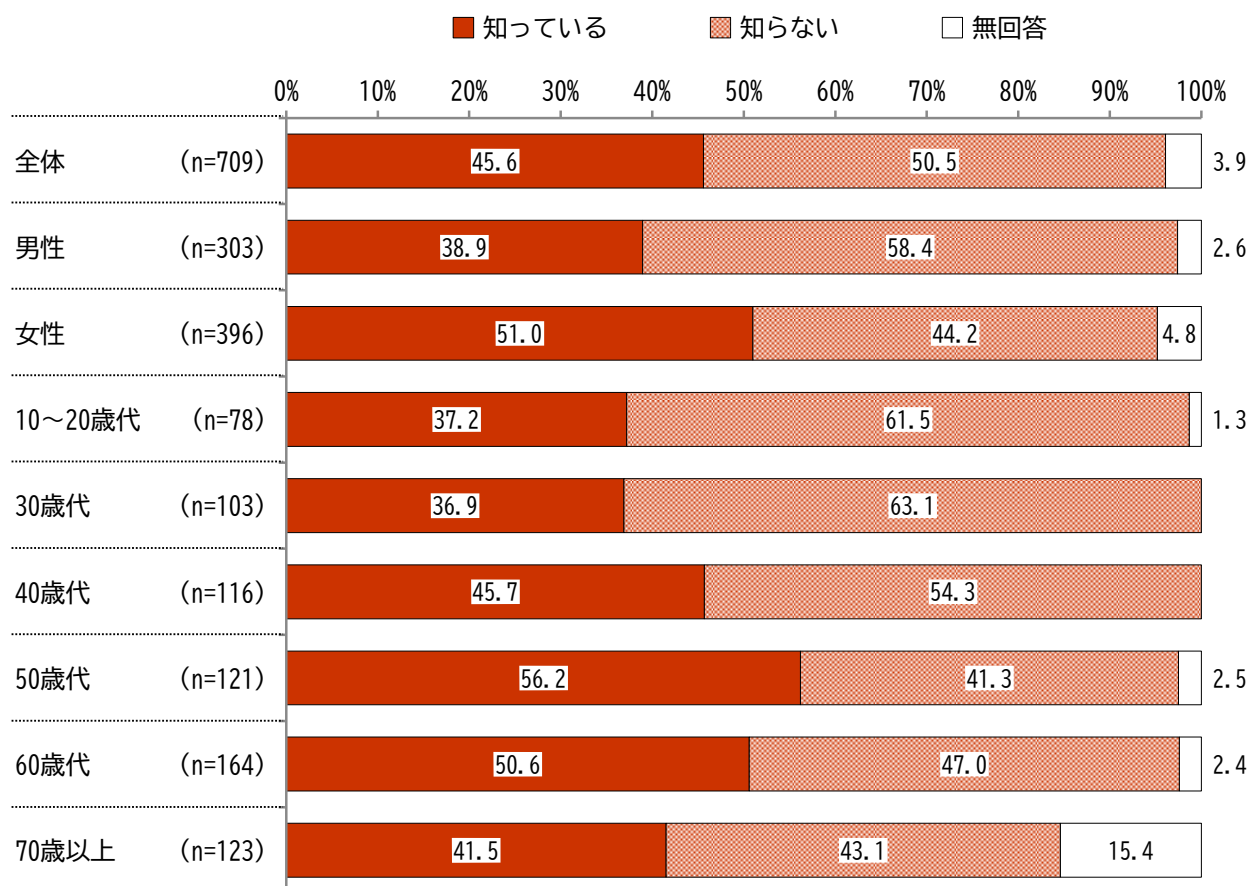
図表 87 蒲郡市にあることを知っているか④こども家庭センター（家庭児童相談室）（性・年代別）



⑤福祉総合相談室（性・年代別）

- 性別で見ると、男性では「知っている」が38.9%、女性で51.0%と、女性が男性より12.1ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、50～60歳代のみ「知っている」が5割以上となっている。

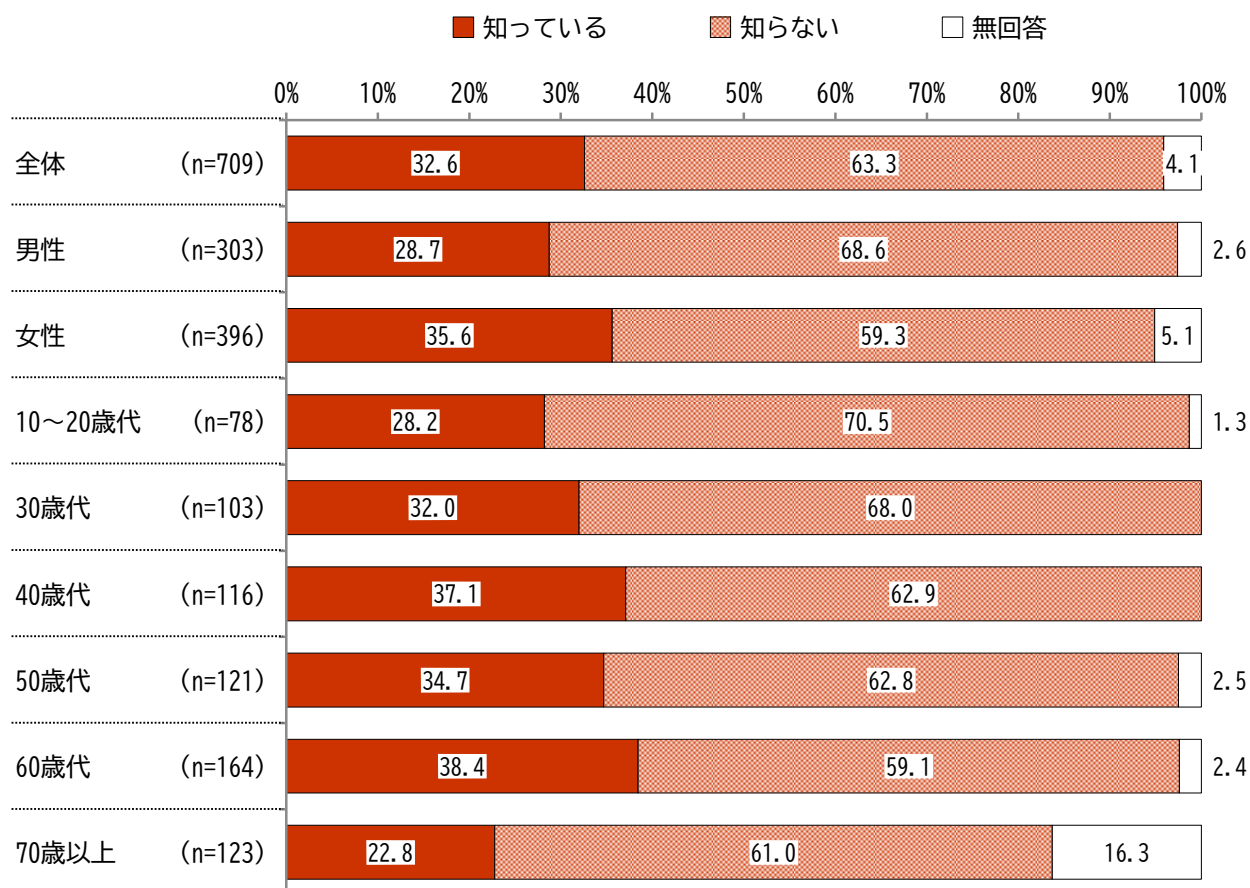
図表 88 蒲郡市にあることを知っているか⑤福祉総合相談室（性・年代別）



⑥外国人相談窓口（性・年代別）

- 性別で見ると、男性では「知っている」が28.7%、女性で35.6%と、女性が男性より6.9ポイント多くなっている。
- 年代別で見ると、70歳以上では22.8%と他の年代より特に少なくなっている。

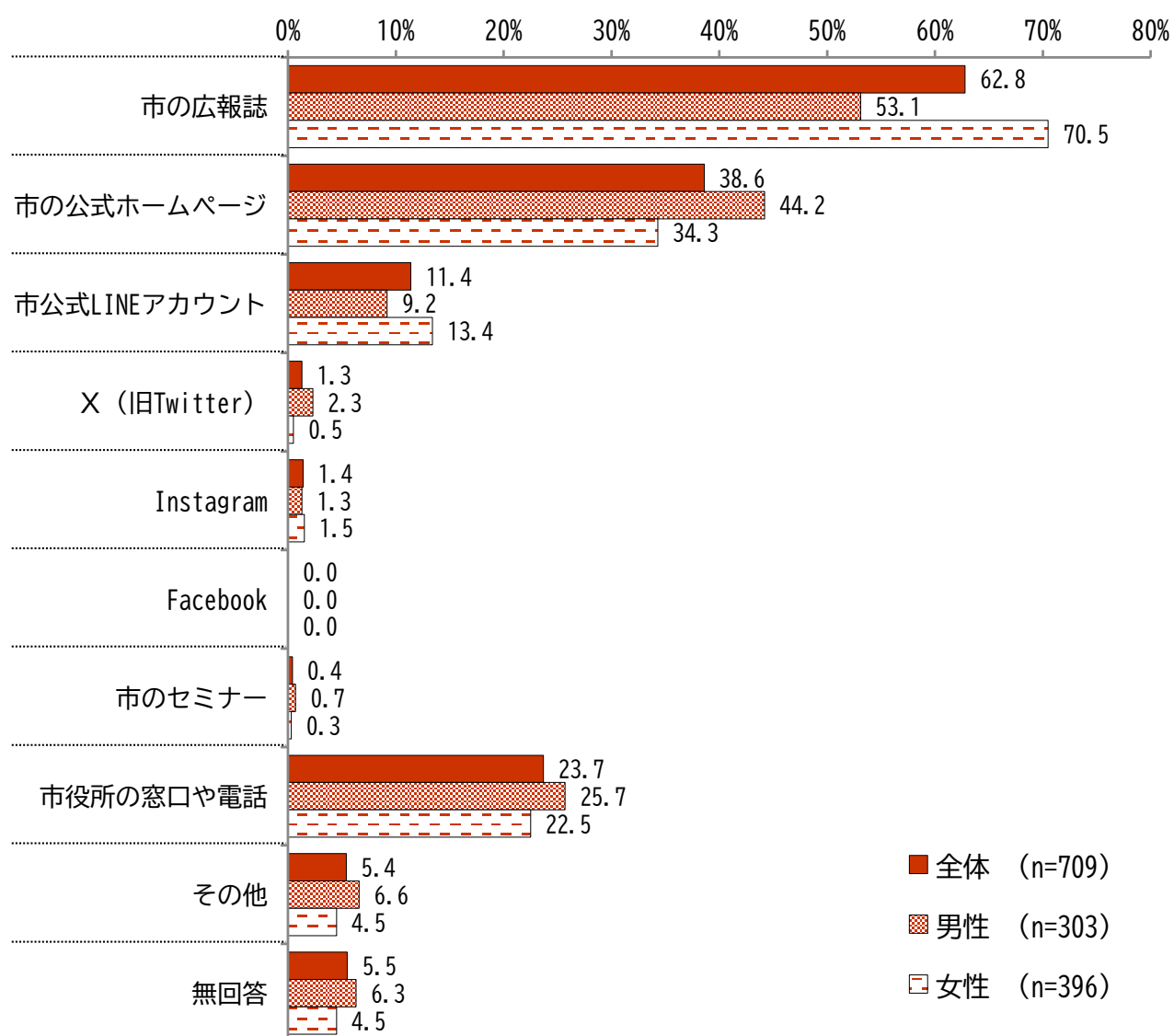
図表 89 蒲郡市にあることを知っているか⑥外国人相談窓口（性・年代別）



問 32 相談窓口を何から知りましたか。または、相談窓口を探すときに、何から情報を得ると思いますか。【〇はいくつでも】

- 相談窓口を何から知ったか、または何から情報を得るかでは、全体でみると、「市の広報誌」が 62.8%と最も多く、次いで「市の公式ホームページ」が 38.6%、「市役所の窓口や電話」が 23.7%となっている。
- 性別でみると、男女共に「市の広報誌」が最も多いが、男性が 53.1%、女性が 70.5%と女性が男性より 17.4 ポイント多くなっている。また、「市の公式ホームページ」では男性が 44.2%、女性が 34.3%と男性が女性より 9.9 ポイント多くなっている。

図表 90 相談窓口を何から知った・情報を得るか（性別）



- 年代別でみると、10～20 歳代以外では「市の広報誌」が最も多く、年齢が高いほど多くなっている。
「市の公式ホームページ」は 10～30 歳代、50 歳代で 4 割以上と多くなっているが、70 歳以上では 19.5%と少なくなっている。

図表 91 相談窓口を何から知った・情報を得るか（年代別）

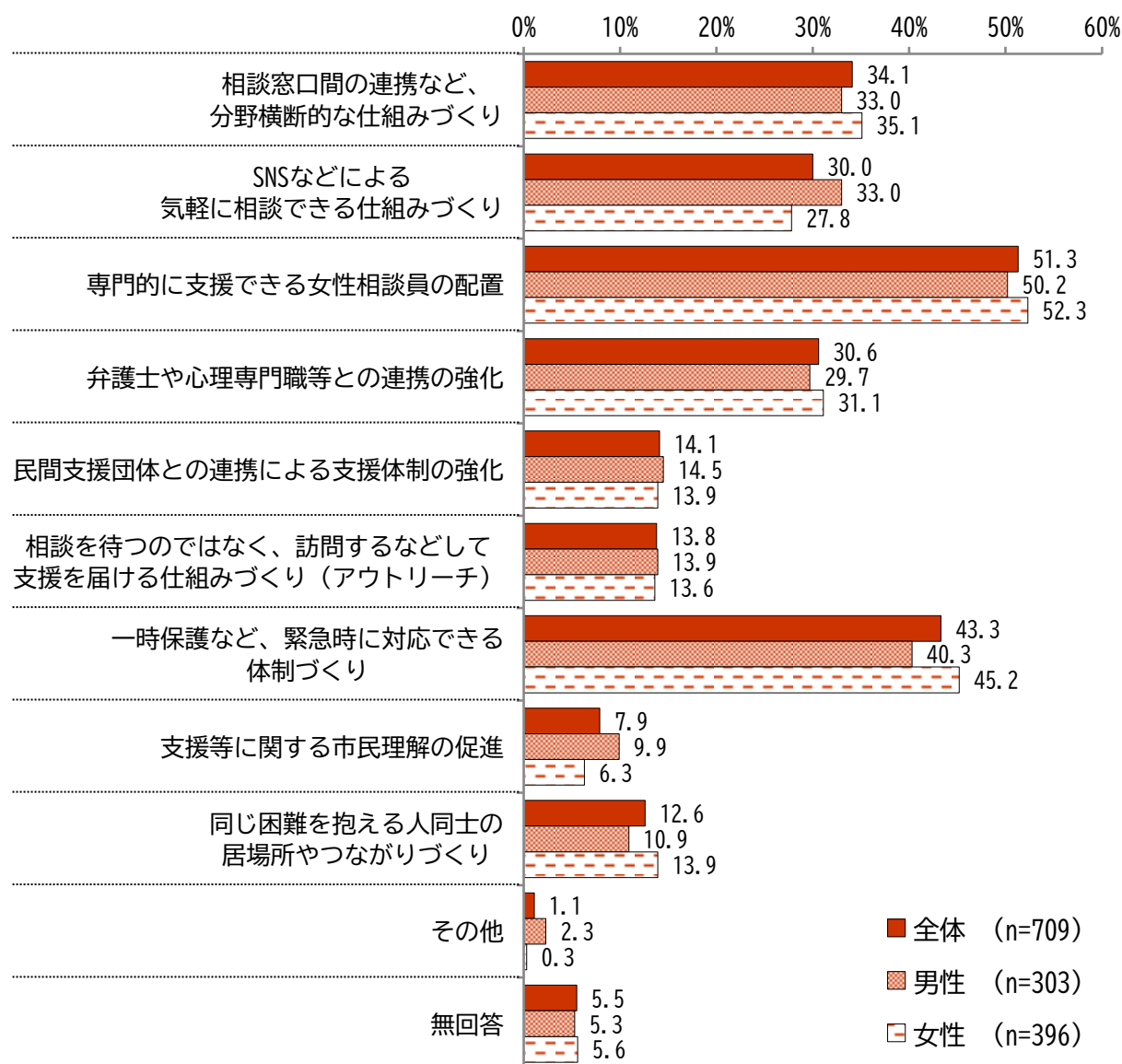
		全体	市の 広報誌	市の 公式 ホーム ページ	市 公式 LINE アカ ウント	T w i t t e r (旧 X)	I n s t a g r a m	F a c e b o o k	市 の セ ミ ナ ー	市 役 所 の 窓 口 や 電 話	そ の 他	無 回 答
全体		709	445	274	81	9	10	-	3	168	38	39
		100.0	62.8	38.6	11.4	1.3	1.4	-	0.4	23.7	5.4	5.5
年代別	10～20歳代	78	31	33	5	6	6	-	1	18	10	5
		100.0	39.7	42.3	6.4	7.7	7.7	-	1.3	23.1	12.8	6.4
	30歳代	103	53	50	22	2	2	-	-	20	11	2
		100.0	51.5	48.5	21.4	1.9	1.9	-	-	19.4	10.7	1.9
	40歳代	116	77	46	17	1	1	-	-	28	2	3
		100.0	66.4	39.7	14.7	0.9	0.9	-	-	24.1	1.7	2.6
	50歳代	121	72	57	12	-	1	-	1	25	4	7
		100.0	59.5	47.1	9.9	-	0.8	-	0.8	20.7	3.3	5.8
	60歳代	164	119	64	16	-	-	-	-	37	8	9
		100.0	72.6	39.0	9.8	-	-	-	-	22.6	4.9	5.5
	70歳以上	123	90	24	9	-	-	-	1	39	3	12
		100.0	73.2	19.5	7.3	-	-	-	0.8	31.7	2.4	9.8

問 33 貧困やDV、性暴力などに直面する女性への自立に向けて公的支援を強化していくため、令和6年4月に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。このことについてあなたが特に蒲郡市で取り組む必要があると思うものを教えてください。

【〇は3つまで】

- 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に市が取り組む必要があると思うことでは、全体でみると、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が51.3%と最も多く、次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が43.3%、「相談窓口間の連携など、分野横断的な仕組みづくり」が34.1%となっている。
- 性別でみると、男女で大きな差はみられない。

図表 92 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に市が取り組む必要があると思うこと
(性別)



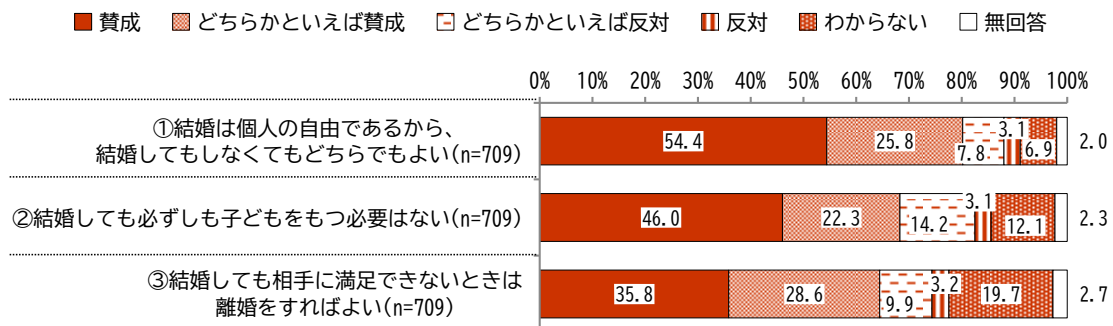
8. 多様性について

問 34 結婚、家庭、離婚について、どのように考えていますか。

①～③のそれぞれについてお答えください。【①～③のそれぞれについて○は1つ】

- 結婚、家庭、離婚についての考え方では、すべての項目で『賛成派』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が6割以上であり、特に「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は8割以上と多くなっている。

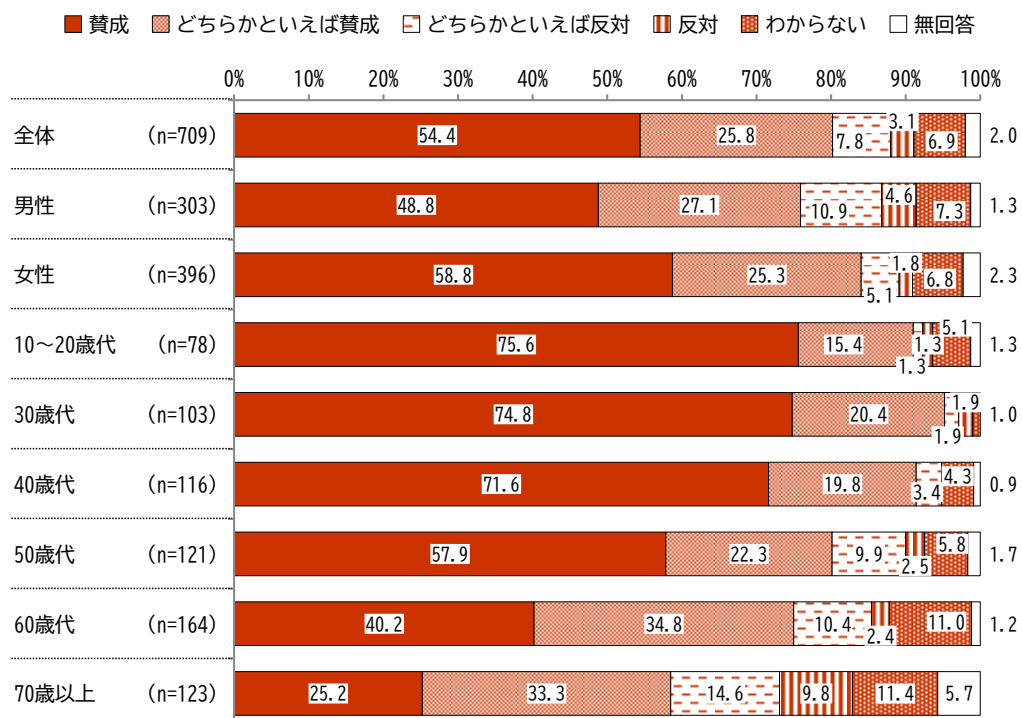
図表 93 結婚、家庭、離婚について



①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい【○は1つ】

- 性別でみると、男女共に『賛成派』が多くなっているが、男性が75.9%、女性が84.1%と女性が男性より8.2ポイント多くなっている。
- 年代別でみると、すべての年代で『賛成派』が多いが、年齢が高いほど割合が少なくなる傾向にある。

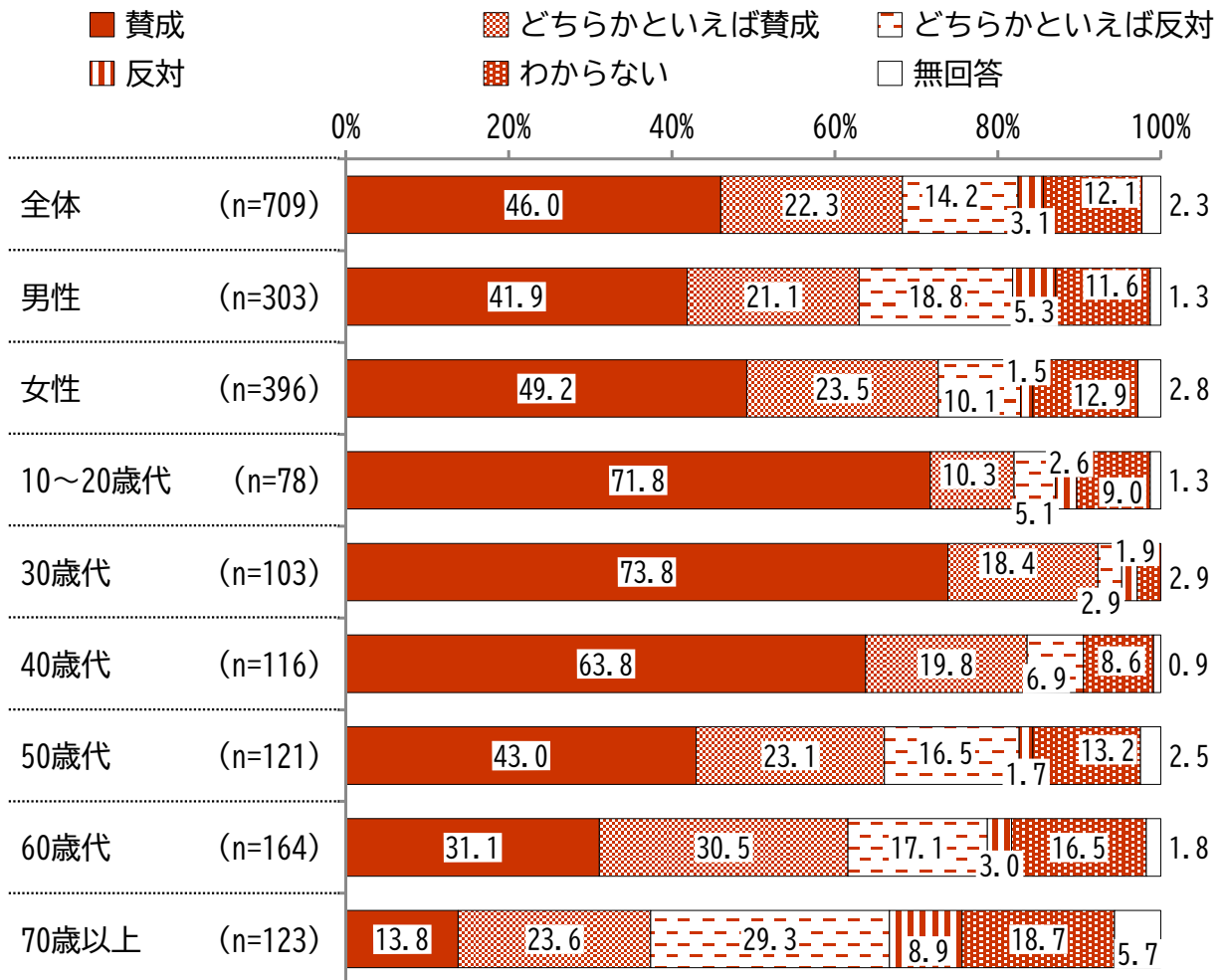
図表 94 ①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい（性・年代別）



②結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない【〇は1つ】

- 性別でみると、男女共に『賛成派』が最も多いが、『反対派』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）でみると、男性が24.1%、女性が11.6%と、男性が女性より12.5ポイント多くなっている。
- 年代別でみると、『賛成派』は年齢が高いほど割合が少なくなる傾向にあり、特に70歳以上では37.4%にとどまっている。

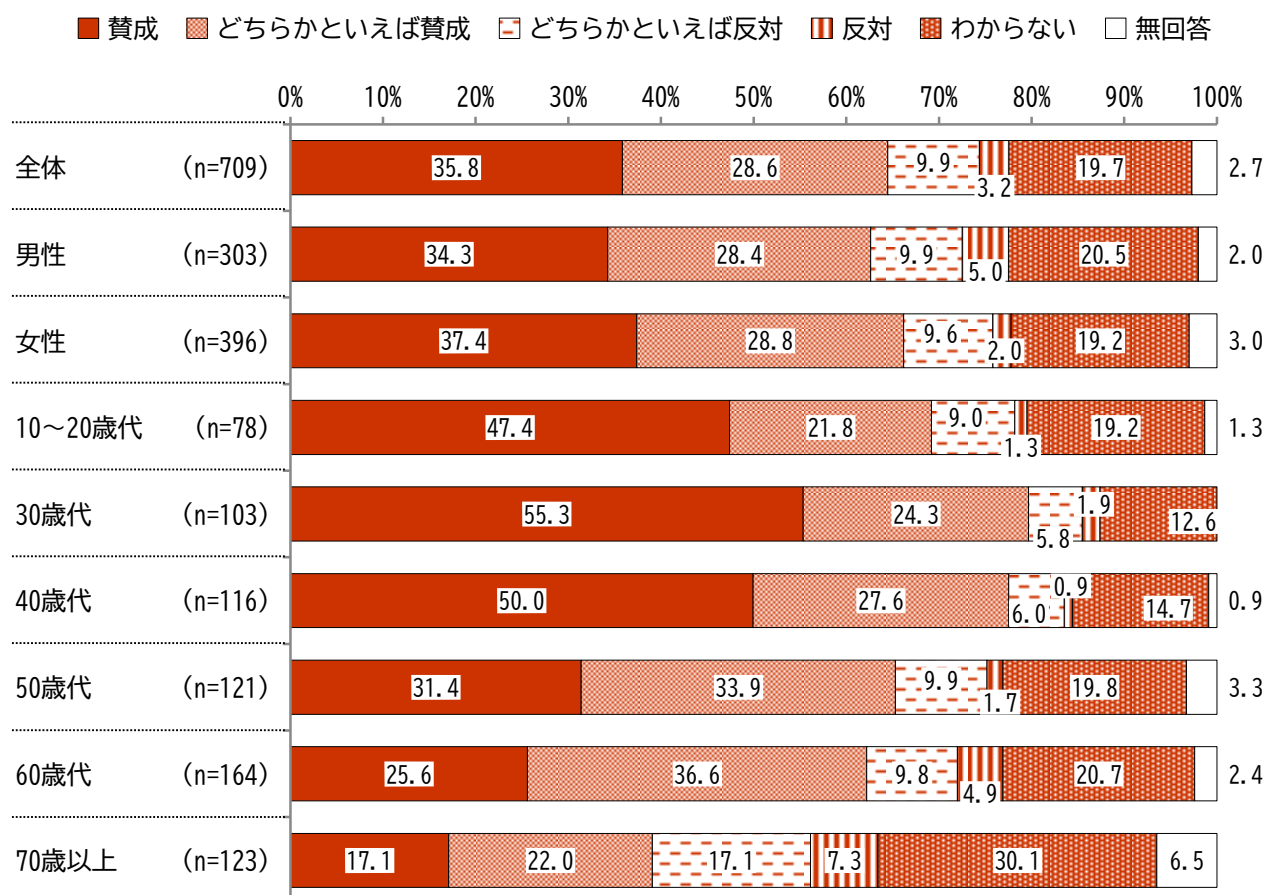
図表 95 ②結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない（性・年代別）



③結婚しても相手に満足できないときは離婚をすればよい【〇は1つ】

- 性別でみると、男女で大きな差は見られない。
- 年代別でみると、30歳代で79.6%と特に多く、年齢が高いほど割合が少なくなる傾向にある。

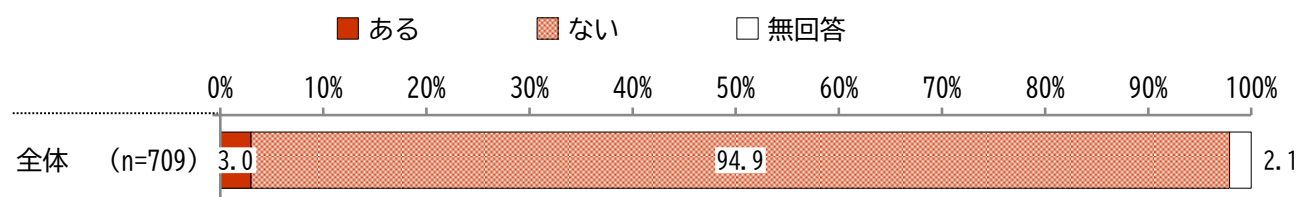
図表 96 ③結婚しても相手に満足できないときは離婚をすればよい（性・年代別）



問 35 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。【〇は1つ】

- 自分の身体や心の性や性的指向に悩んだことがあるかでは、「ない」が94.9%、「ある」が3.0%となっている。

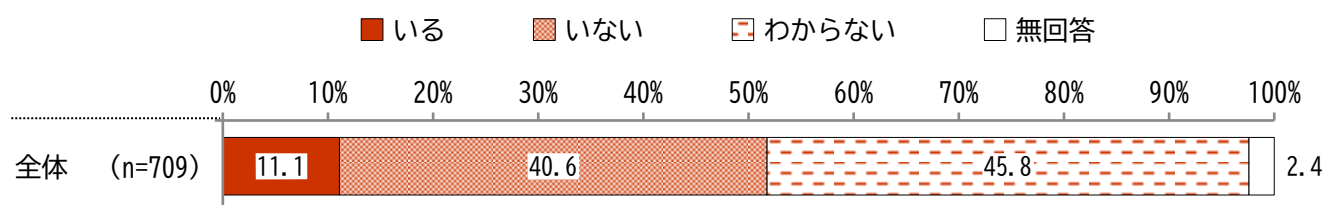
図表 97 自分の身体や心の性や性的指向に悩んだことがあるか



問 36 あなたの周りに性的マイノリティ（LGBTQ）の人はいますか。【○は1つ】

➤ 周りに性的マイノリティ（LGBTQ）の人がいるかについて、「いる」が11.1%となっている。

図表 98 周りに性的マイノリティの人がいるか

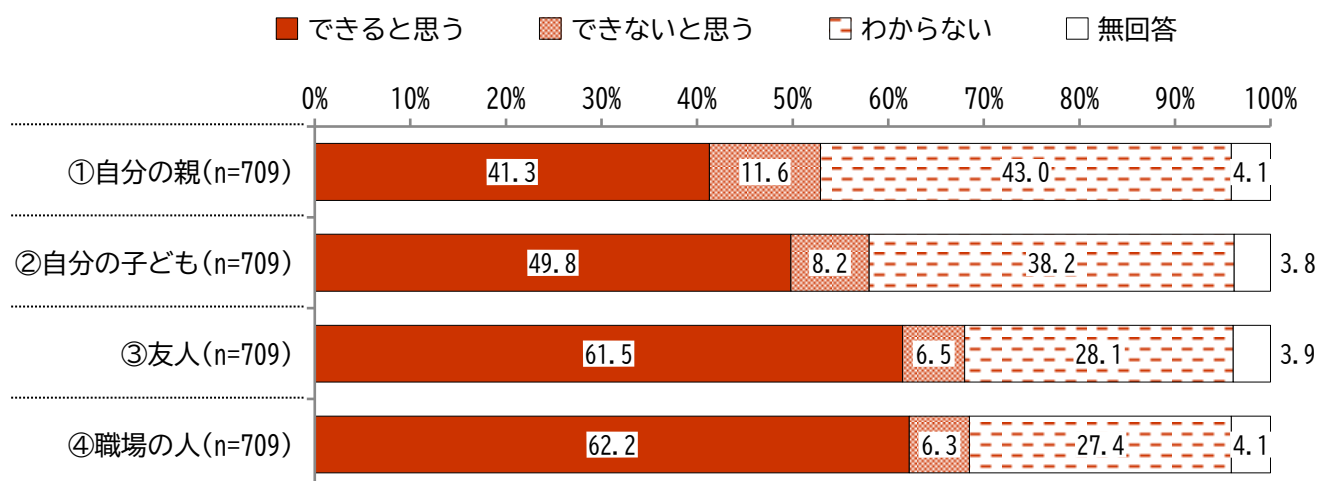


問 37 身近な人（家族、友人、職場の人）が性的マイノリティ（LGBTQ）だとわかった場合、これまでと変わらず接することができますか。

①～④のそれぞれについてお答えください。【①～④のそれぞれについて○は1つ】

➤ 身近な人が性的マイノリティ（LGBTQ）だとわかった場合、これまでと変わらず接することができるかでは、「自分の親」や「自分の子ども」といった血縁関係にある人では「できると思う」が約4～5割、「わからない」が約4割以上となっている。一方で、「友人」や「職場の人」では「できると思う」が6割以上となっている。

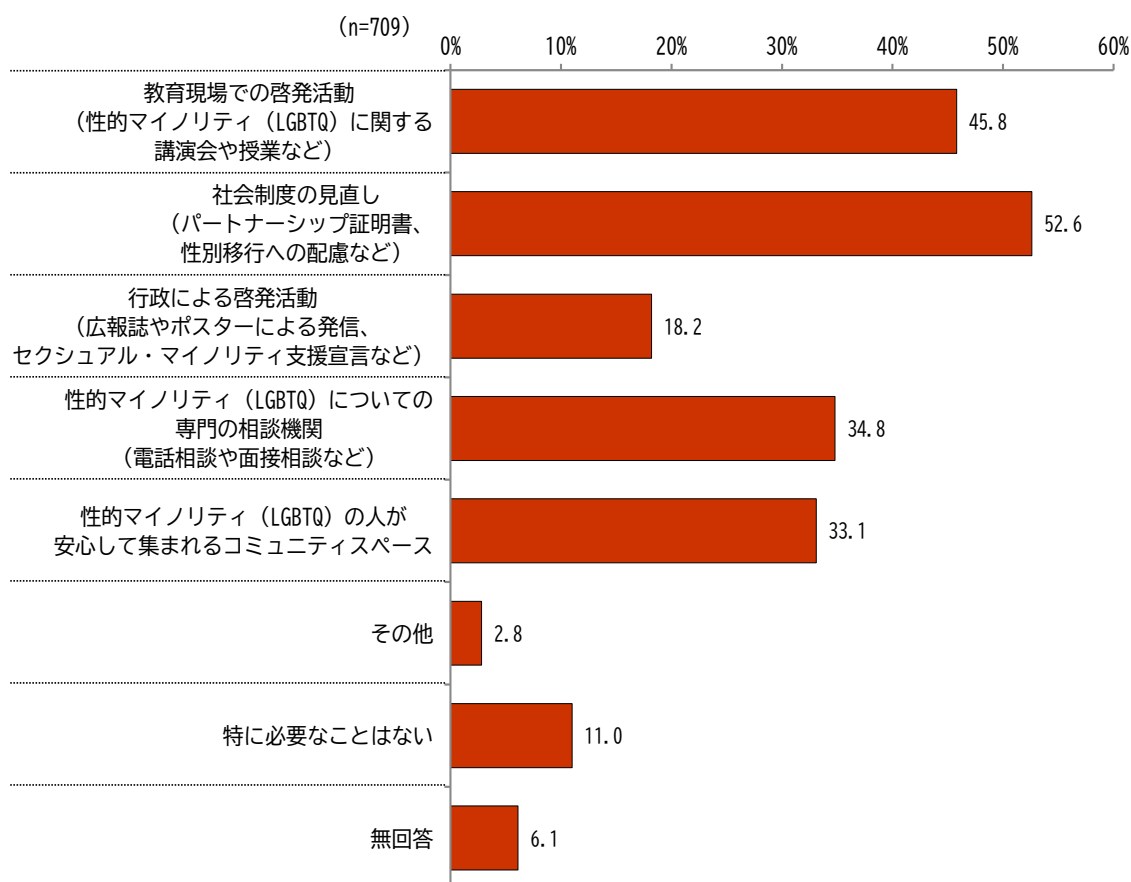
図表 99 身近な人が性的マイノリティだと分かった場合、これまでと変わらず接することができるか



問 38 性的マイノリティ（LGBTQ）の人が暮らしやすい社会をつくるために必要だと思うことは何ですか【〇はいくつでも】

- 性的マイノリティ（LGBTQ）の人が暮らしやすい社会をつくるために必要だと思うことでは、全体で見ると、「社会制度の見直し（パートナーシップ証明書、性別移行への配慮など）」が 52.6%と最も多く、次いで「教育現場での啓発活動（性的マイノリティ（LGBTQ）に関する講演会や授業など）」が 45.8%、「性的マイノリティ（LGBTQ）についての専門の相談機関（電話相談や面接相談など）」が 34.8%となっている。

図表 100 性的マイノリティ（LGBTQ）の人が暮らしやすい社会をつくるために必要だと思うこと



- 年代別でみると、すべての年代で、「社会制度の見直し（パートナーシップ証明書、性別移行への配慮など）」が最も多く、年代が高いほど割合が少なくなる傾向にある。

図表 101 性的マイノリティの人が暮らしやすい社会をつくるために必要だと思うこと（年代別）

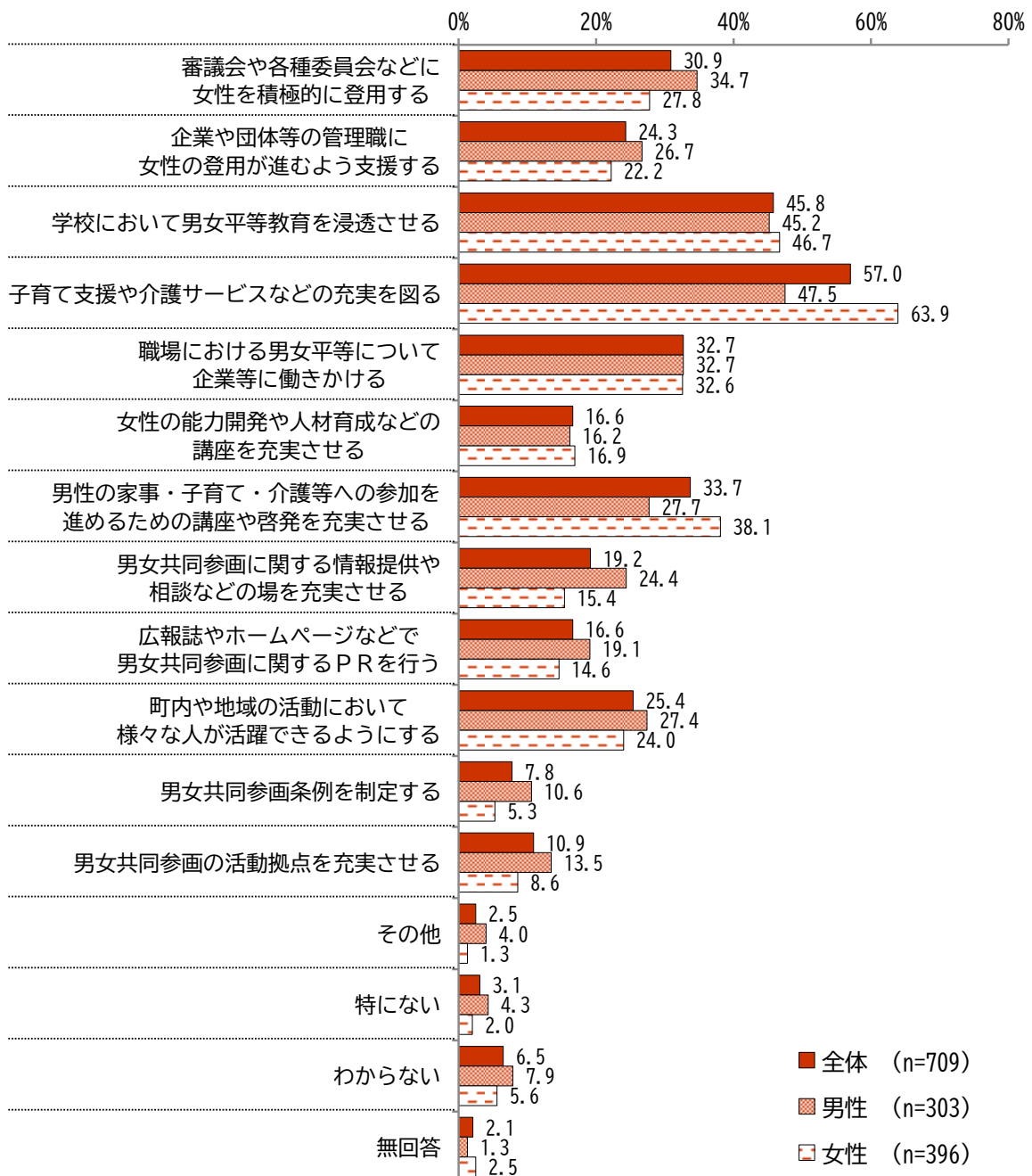
		全体	教育現場での啓発活動（性的マイノリティ（LGBTQ）に関する講演会や授業など）	社会制度の見直し（パートナーシップ証明書、性別移行への配慮など）	行政による啓発活動（広報誌やポスターによる発信、セクシュアル・マイノリティ支援宣言など）	専門の相談機関（電話相談や面接相談など）	性的マイノリティ（LGBTQ）について安心して集まれるコミュニティスペース	その他	特に必要なことはない	無回答	
全体		709 100.0	325 45.8	373 52.6	129 18.2	247 34.8	235 33.1	20 2.8	78 11.0	43 6.1	
年代別	10～20歳代	78 100.0	35 44.9	41 52.6	15 19.2	23 29.5	30 38.5	5 6.4	12 15.4	2 2.6	
		103 100.0	53 51.5	71 68.9	21 20.4	33 32.0	45 43.7	4 3.9	4 3.9	1 1.0	
	30歳代	116 100.0	66 56.9	67 57.8	23 19.8	38 32.8	49 42.2	1 0.9	11 9.5	1 0.9	
		121 100.0	56 46.3	62 51.2	21 17.4	43 35.5	42 34.7	3 2.5	13 10.7	6 5.0	
	40歳代	164 100.0	78 47.6	90 54.9	36 22.0	69 42.1	43 26.2	4 2.4	17 10.4	8 4.9	
		123 100.0	36 29.3	40 32.5	13 10.6	39 31.7	25 20.3	3 2.4	20 16.3	24 19.5	
	50歳代										
60歳代											
70歳以上											

9. 男女共同参画のまちづくりについて

問 39 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、蒲郡市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

- 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきことでは、全体で見ると、「子育て支援や介護サービスなどの充実を図る」が 57.0%と最も多く、次いで「学校において男女平等教育を浸透させる」が 45.8%、「男性の家事・子育て・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実させる」が 33.7%となっている。
- 性別で見ると、男女共に「子育て支援や介護サービスなどの充実を図る」が最も多いが、男性で 47.5%、女性で 63.9%と、女性が男性より 16.4 ポイント多くなっている。

図表 102 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと（性別）



- 年代別でみると、すべての年代で「子育て支援や介護サービスなどの充実を図る」が最も多い。次いで、10～20歳代で「職場における男女平等について企業等に働きかける」、30歳代以上で「学校において男女平等教育を浸透させる」が多くなっている。

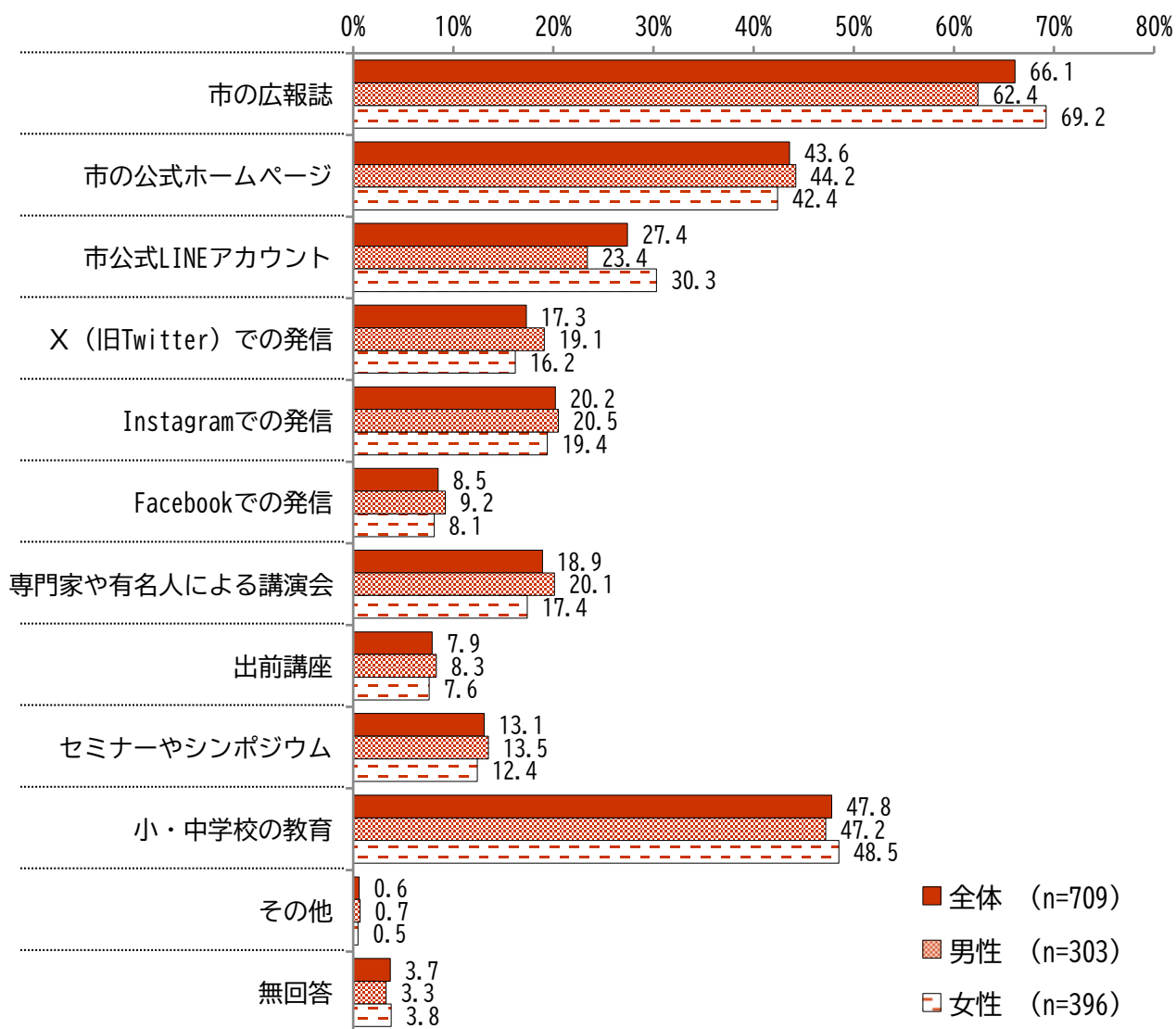
図表 103 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと（年代別）

		全体	審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する	企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	学校において男女平等教育を浸透させる	子育て支援や介護サービスなどの充実を図る	職場における男女平等について企業等に働きかける	女性の能力開発や人材育成などの講座を充実させる	男性の家事・子育て・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実させる	男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実させる	広報誌やホームページなどで男女共同参画に関するPRを行う	町内や地域の活動において様々な人が活躍できるようにする	男女共同参画条例を制定する	男女共同参画の活動拠点を充実させる	その他	特になし	わからない	無回答
全体		709	219	172	325	404	232	118	239	136	118	180	55	77	18	22	46	15
		100.0	30.9	24.3	45.8	57.0	32.7	16.6	33.7	19.2	16.6	25.4	7.8	10.9	2.5	3.1	6.5	2.1
年代別	10～20歳代	78	14	21	31	43	36	13	34	12	11	21	8	14	3	2	8	1
		100.0	17.9	26.9	39.7	55.1	46.2	16.7	43.6	15.4	14.1	26.9	10.3	17.9	3.8	2.6	10.3	1.3
	30歳代	103	32	23	65	68	47	25	48	19	14	26	13	9	1	3	4	1
		100.0	31.1	22.3	63.1	66.0	45.6	24.3	46.6	18.4	13.6	25.2	12.6	8.7	1.0	2.9	3.9	1.0
	40歳代	116	39	23	51	67	35	20	42	20	16	31	8	17	2	5	6	-
		100.0	33.6	19.8	44.0	57.8	30.2	17.2	36.2	17.2	13.8	26.7	6.9	14.7	1.7	4.3	5.2	-
	50歳代	121	32	22	51	65	35	17	33	28	22	23	10	8	5	5	10	-
		100.0	26.4	18.2	42.1	53.7	28.9	14.0	27.3	23.1	18.2	19.0	8.3	6.6	4.1	4.1	8.3	-
	60歳代	164	55	47	77	105	40	28	51	38	31	39	7	14	3	6	9	3
		100.0	33.5	28.7	47.0	64.0	24.4	17.1	31.1	23.2	18.9	23.8	4.3	8.5	1.8	3.7	5.5	1.8
	70歳以上	123	45	34	48	54	37	13	29	19	23	39	9	14	3	1	9	10
		100.0	36.6	27.6	39.0	43.9	30.1	10.6	23.6	15.4	18.7	31.7	7.3	11.4	2.4	0.8	7.3	8.1

問 40 男女共同参画に関する情報発信方法や啓発方法として、効果的だと思うものは何ですか。
【〇はいくつでも】

- 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うことでは、全体で見ると、「市の広報誌」が66.1%と最も多く、次いで「小・中学校の教育」が47.8%、「市の公式ホームページ」が43.6%となっている。
- 性別で見ると、「市の広報誌」と「市公式LINEアカウント」について男性より女性が約7.0ポイント多くなっている。

図表 104 男女共同参画に関する情報発信として効果的だと思うこと（性別）



- 年代別でみると、10～20 歳代以外では「市の広報誌」が最も多く、年代が高いほど割合が多くなる傾向にある。また、10～40 歳代では「小・中学校の教育」の割合が 5 割以上と多くなっている。

図表 105 男女共同参画に関する情報発信として効果的だと思うこと（年代別）

		全体	市の広報誌	市の公式ホームページ	市公式LINEアカウント	Twitter(旧X)での発信	Instagramでの発信	Facebookでの発信	専門家や有名人による講演会	出前講座	セミナーやシンポジウム	小・中学校の教育	その他	無回答
全体		709 100.0	469 66.1	309 43.6	194 27.4	123 17.3	143 20.2	60 8.5	134 18.9	56 7.9	93 13.1	339 47.8	4 0.6	26 3.7
年代別	10～20歳代	78 100.0	34 43.6	30 38.5	25 32.1	30 38.5	35 44.9	8 10.3	14 17.9	6 7.7	10 12.8	40 51.3	1 1.3	-
		103 100.0	65 63.1	43 41.7	39 37.9	33 32.0	46 44.7	15 14.6	19 18.4	7 6.8	9 8.7	62 60.2	-	1 1.0
	30歳代	116 100.0	73 62.9	51 44.0	38 32.8	23 19.8	25 21.6	15 12.9	20 17.2	11 9.5	20 17.2	68 58.6	2 1.7	-
		121 100.0	77 63.6	60 49.6	36 29.8	20 16.5	22 18.2	11 9.1	18 14.9	7 5.8	13 10.7	49 40.5	-	5 4.1
	50歳代	164 100.0	121 73.8	75 45.7	36 22.0	12 7.3	10 6.1	8 4.9	38 23.2	16 9.8	29 17.7	70 42.7	1 0.6	9 5.5
		123 100.0	95 77.2	49 39.8	19 15.4	5 4.1	5 4.1	3 2.4	24 19.5	9 7.3	12 9.8	46 37.4	-	11 8.9
	70歳以上													

- 言葉の理解度（問 9）別にみると、言葉の理解度が高い方がすべての項目において回答の割合が多くなっている。

図表 106 男女共同参画に関する情報発信として効果的だと思うこと（言葉の理解度（問 9）別）

		全体	市の広報誌	市の公式ホームページ	市公式LINEアカウント	Twitter(旧X)での発信	Instagramでの発信	Facebookでの発信	専門家や有名人による講演会	出前講座	セミナーやシンポジウム	小・中学校の教育	その他	無回答
全体		709 100.0	469 66.1	309 43.6	194 27.4	123 17.3	143 20.2	60 8.5	134 18.9	56 7.9	93 13.1	339 47.8	4 0.6	26 3.7
言葉の理解度	低	317 100.0	206 65.0	121 38.2	68 21.5	27 8.5	40 12.6	17 5.4	53 16.7	19 6.0	34 10.7	137 43.2	2 0.6	15 4.7
		345 100.0	228 66.1	162 47.0	110 31.9	81 23.5	88 25.5	37 10.7	69 20.0	33 9.6	51 14.8	174 50.4	2 0.6	10 2.9
	中	47 100.0	35 74.5	26 55.3	16 34.0	15 31.9	15 31.9	6 12.8	12 25.5	4 8.5	8 17.0	28 59.6	-	1 2.1
	高													

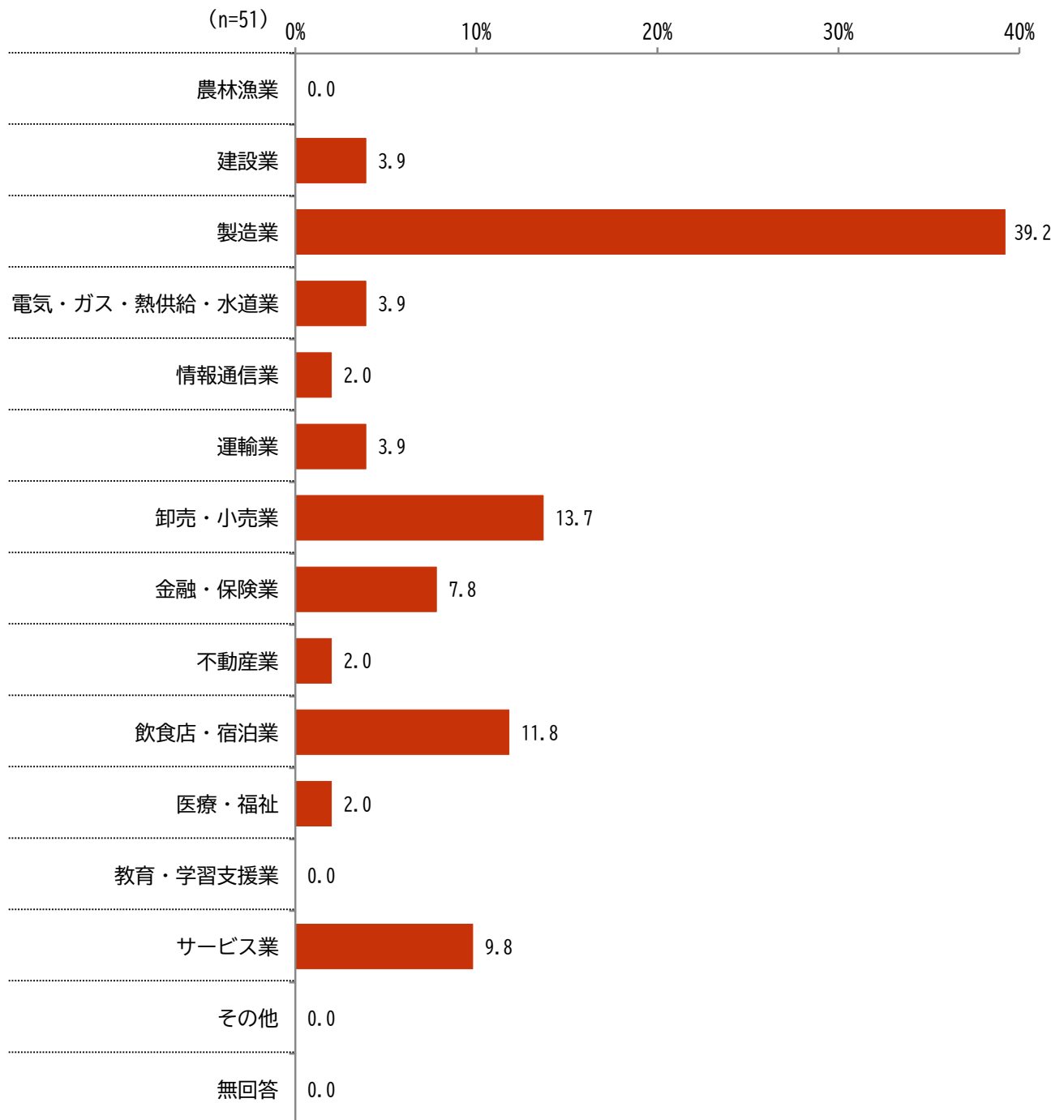
IV. 調査結果（事業所）

1. 貴事業所について

問1 貴事業所の業種についてお答えください。【〇は主なもの1つ】

- 業種では、「製造業」が39.2%と最も多く、次いで「卸売・小売業」が13.7%、「飲食店・宿泊業」が11.8%となっている。

図表 107 業種

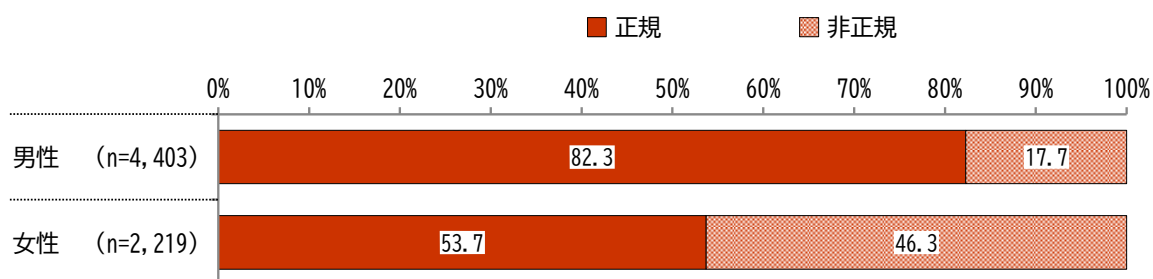


問2 貴事業所の従業員数についてお答えください。【数字を記入】

①正規・非正規雇用割合

- 事業所の従業員の正規・非正規雇用割合について、正規雇用の男性は 82.3%、女性は 53.7%となっており、女性従業員の非正規割合が多くなっている。

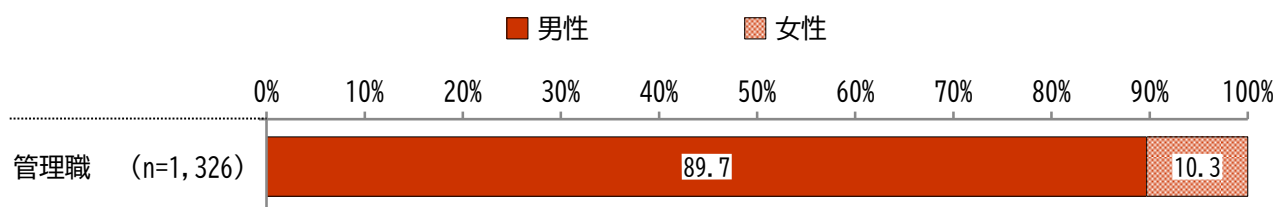
図表 108 正規・非正規雇用割合



②管理職に占める女性割合

- 管理職に占める「女性」の割合は、10.3%となっている。

図表 109 管理職に占める女性割合



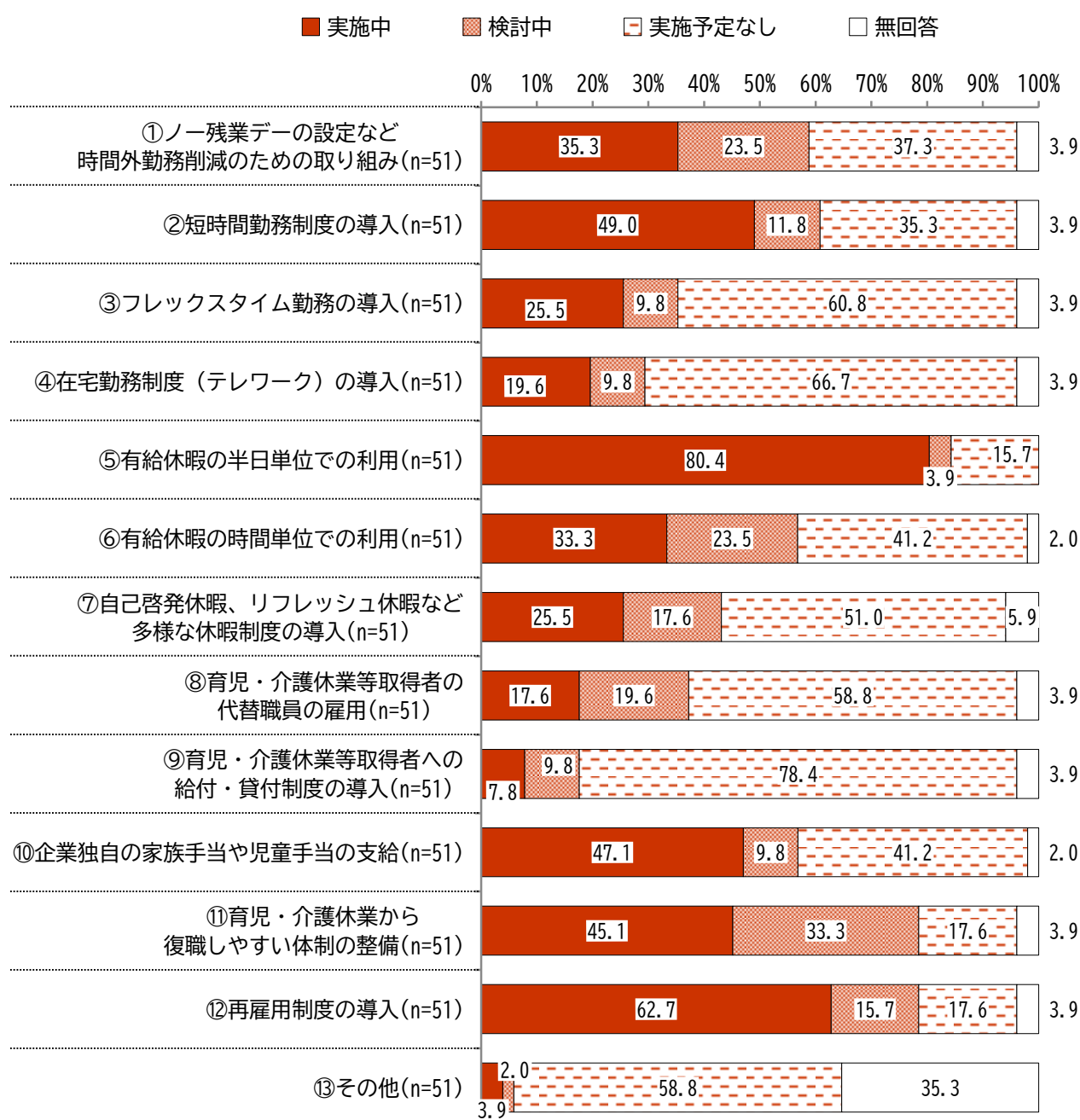
2. ワーク・ライフ・バランスについて

問3 事業所でのワーク・ライフ・バランス施策について、該当するものをお選びください。

【①～⑬のそれぞれについて○は1つ】

- ワーク・ライフ・バランス施策では、「⑤有給休暇の半日単位での利用」で「実施中」が80.4%と非常に多くなっている。
- 「実施予定なし」では、「③フレックスタイム勤務の導入」「④在宅勤務制度の導入」「⑦自己啓発休暇、リフレッシュ休暇など多様な休暇制度の導入」「⑧育児・介護休業等取得者の代替職員の雇用」「⑨育児・介護休業等取得者への給付・貸付制度の導入」で半数を超えている。

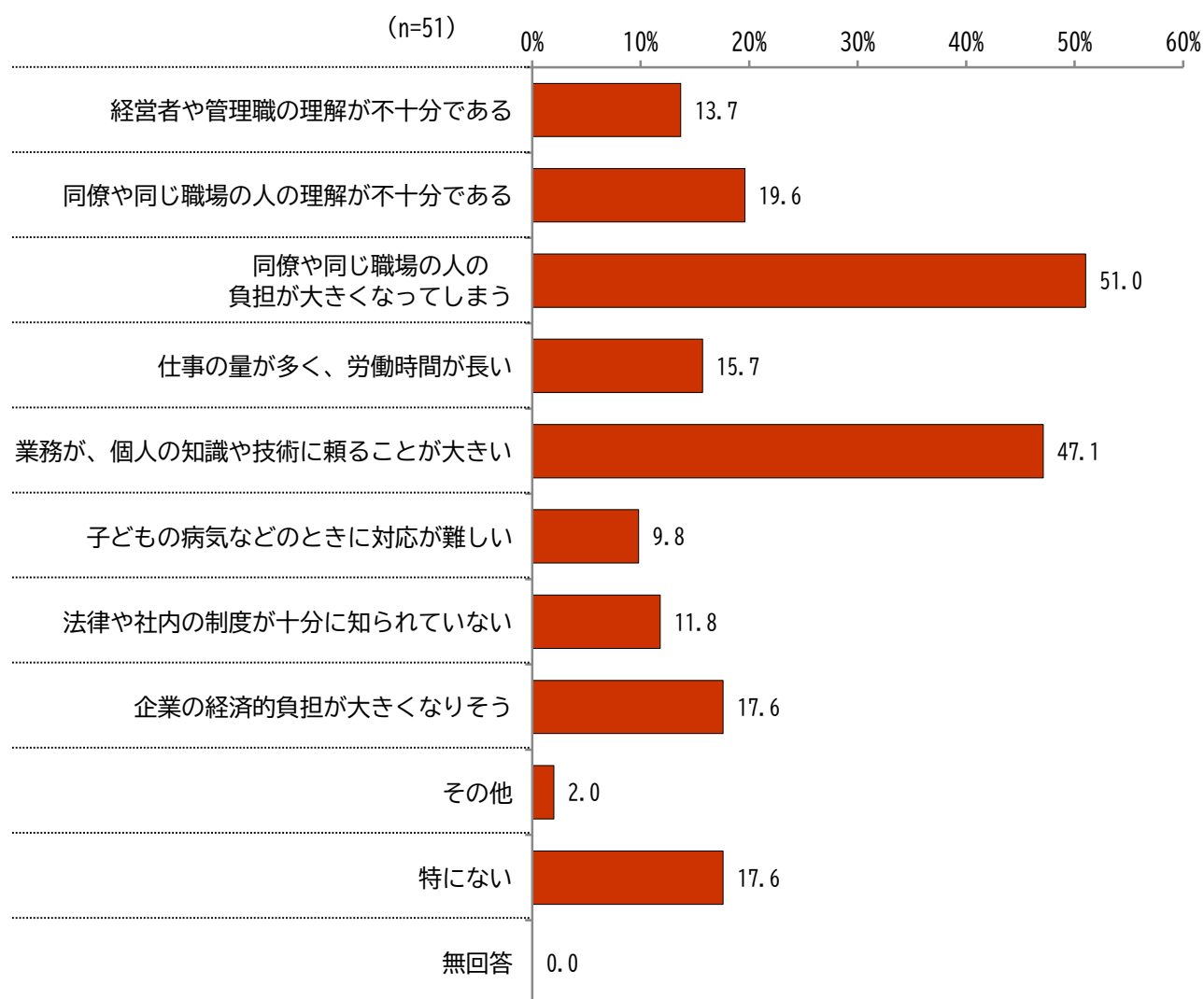
図表 110 ワーク・ライフ・バランス施策について



問 4 貴事業所で、「ワーク・ライフ・バランス」支援を進めていく上で、どのような課題がありますか。【〇はいくつでも】

- 「ワーク・ライフ・バランス」支援を進めていく上での課題では、「同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまう」が51.0%と最も多く、次いで「業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい」が47.1%、「同僚や同じ職場の人の理解が不十分である」が19.6%となっている。

図表 111 「ワーク・ライフ・バランス」支援を進めていく上での課題



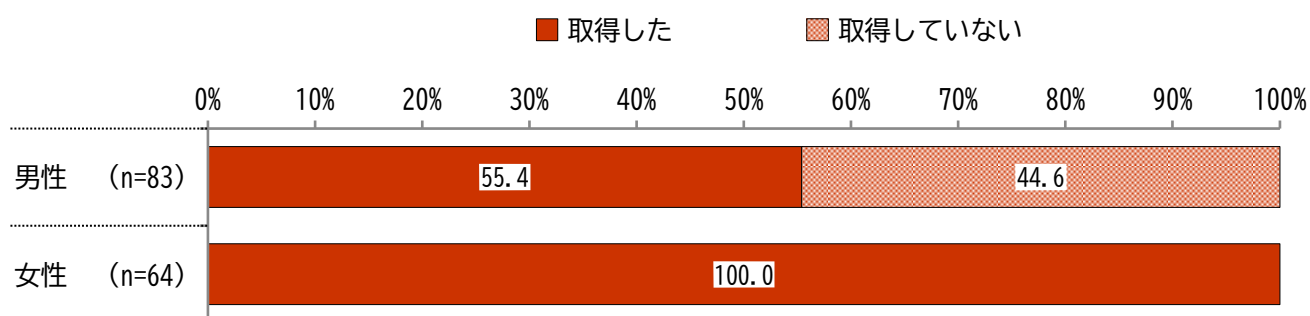
3. 育児・介護について

問5 貴事業所における令和5年度の育児・介護休業取得状況をお教えてください。【数字を記入】

①育児休業取得割合

- 育児休業取得割合では、性別で見ると、「取得した」が男性は55.4%と半数にとどまる一方で、女性は100.0%となっており、男女で大きな差がみられる。

図表 112 ①育児休業取得割合



②介護休業取得人数

- 回答事業所全51社中、令和5年度に介護休業を取得した男性従業員は0人、女性従業員は6人となった。

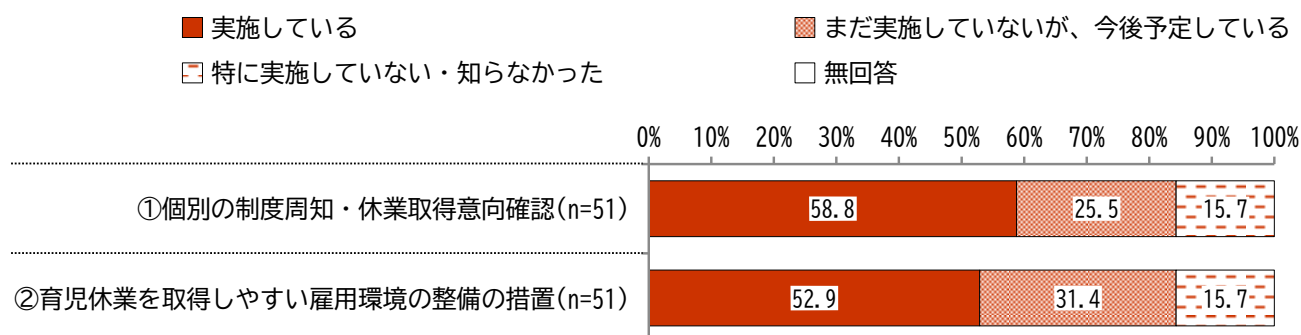
図表 113 ②介護休業取得人数

区分	介護休業取得者数
男性従業員	0人／51社
女性従業員	6人／51社

問6 令和4年4月から育児・介護休業法の改正に伴い、以下の対応が義務付けられました。貴事業所では次の取り組みを行っていますか。【①②それぞれについて○は1つ】

- 「①個別の制度周知・休業取得意向確認」「②育児休業を取得しやすい雇用環境の整備の措置」について、どちらも『実施していない』（「まだ実施していないが、今後予定している」＋「特に実施していない・知らなかった」）が4割以上となっている。

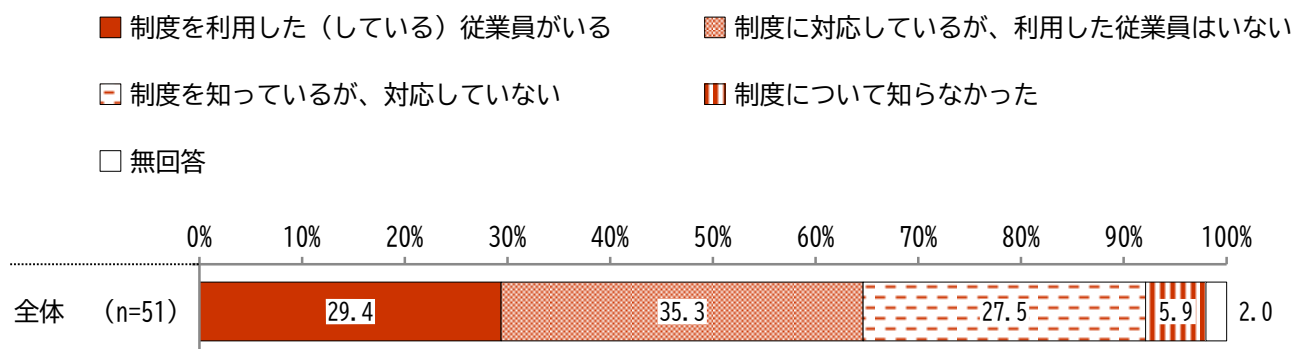
図表 114 育児・介護休業法の改正に対する取り組みを行っているか



問7 育児・介護休業法の改正により、令和4年10月から「産後パパ育休（出生時育児休業）制度」が創設されました。制度についての貴事業所の状況についてお答えください。【○は1つ】

- 産後パパ育休制度について、「制度に対応しているが、利用した従業員はいない」が35.3%と最も多く、次いで「制度を利用した（している）従業員がいる」が29.4%、「制度を知っているが、対応していない」が27.5%となっている。

図表 115 産後パパ育休（出生時育児休業）制度について

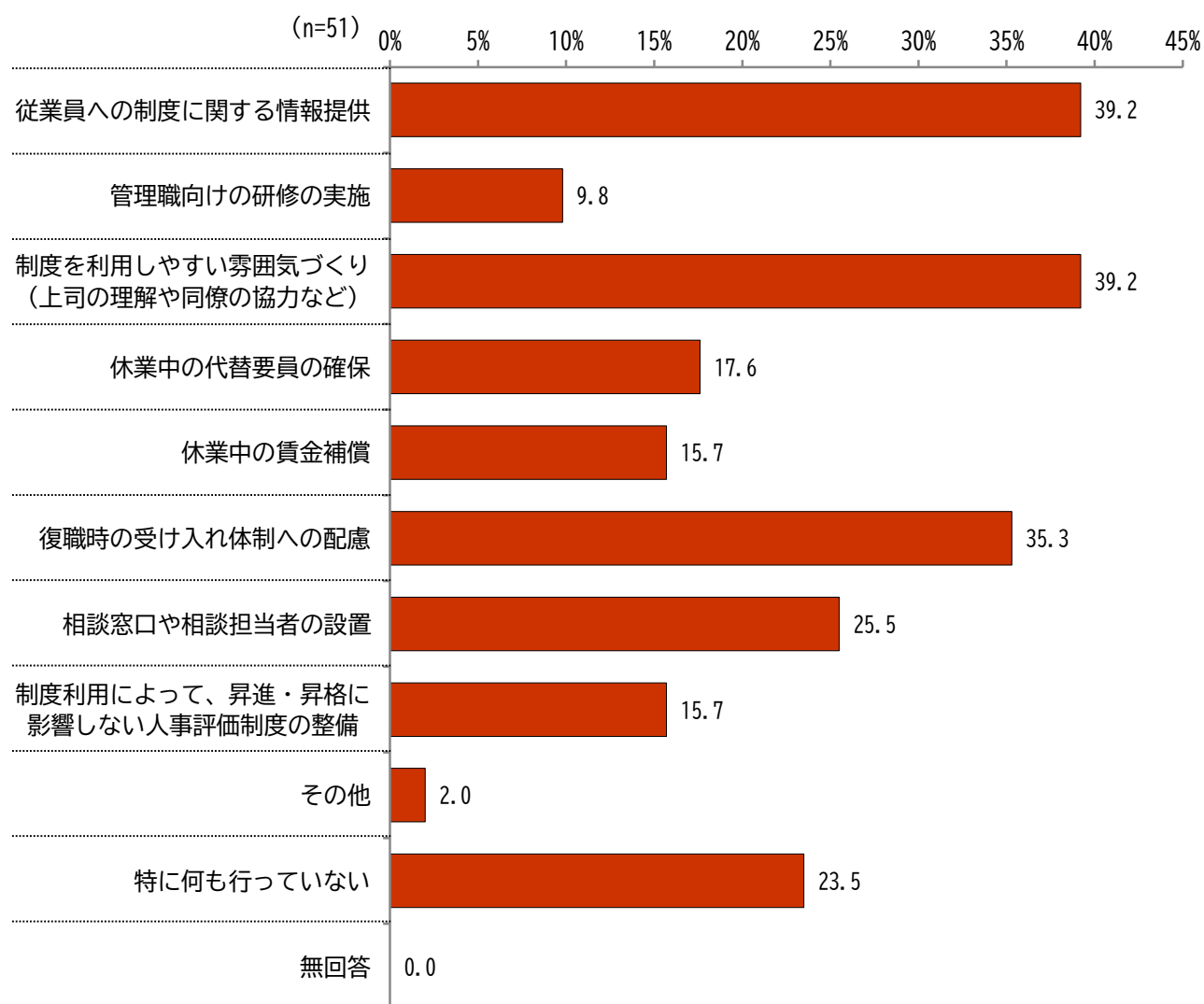


問 8 貴事業所で育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは何ですか。

【〇はいくつでも】

- 育児・介護休業制度を定着させるために行っていることでは、「従業員への制度に関する情報提供」「制度を利用しやすい雰囲気づくり（上司の理解や同僚の協力など）」が 39.2%と最も多く、次いで「復職時の受け入れ体制への配慮」が 35.3%、「相談窓口や相談担当者の設置」が 25.5%となっている。

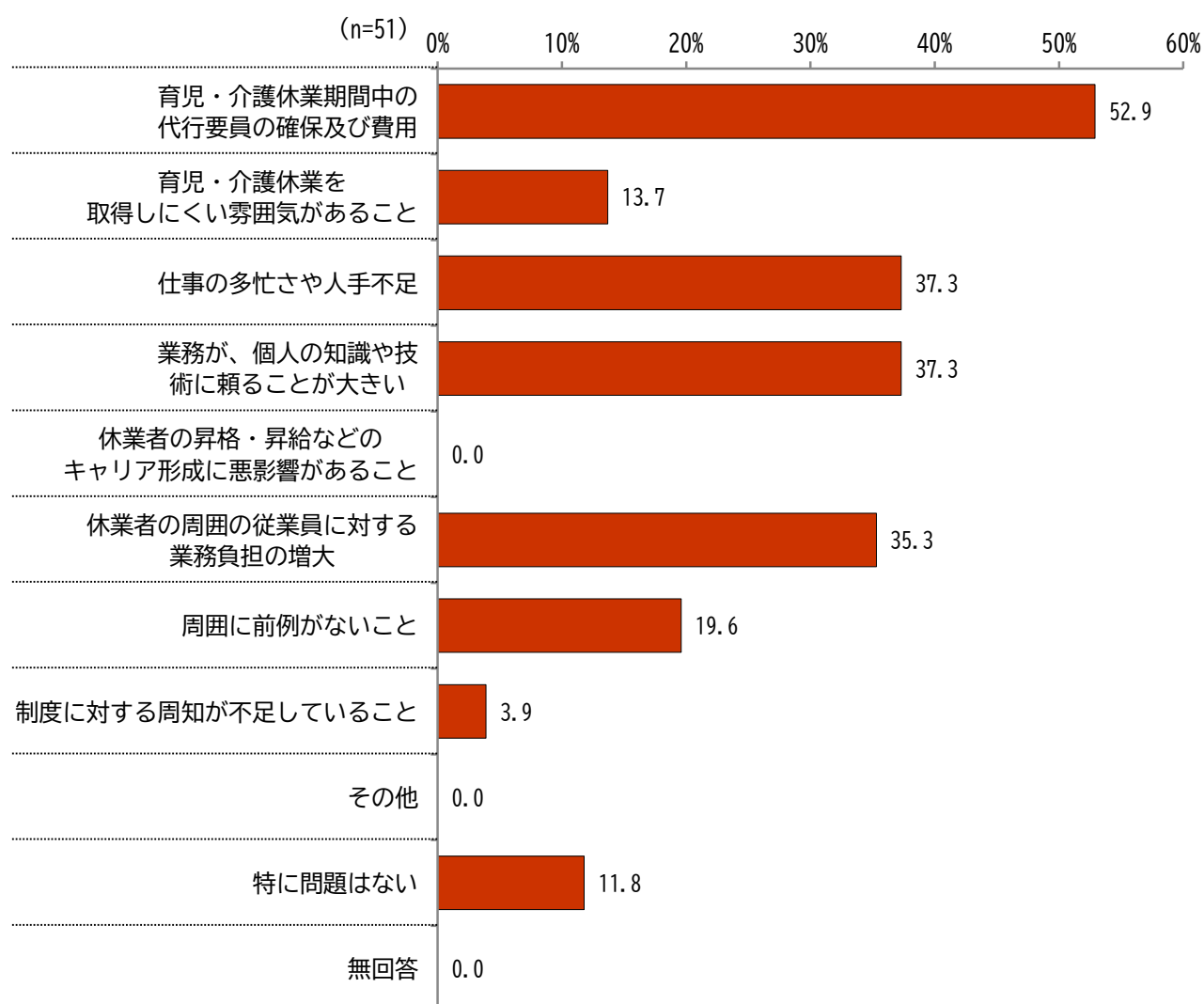
図表 116 育児・介護休業制度を定着させるために行っていること



問9 育児・介護休業制度の利用を進めていくうえで、貴事業所で課題となることはどのようなことですか。【〇はいくつでも】

- 育児・介護休業制度の利用を進めるうえでの課題では、「育児・介護休業期間中の代行要員の確保及び費用」が52.9%と最も多く、次いで「仕事の多忙さや人手不足」「業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい」が37.3%、「休業者の周囲の従業員に対する業務負担の増大」が35.3%となっている。

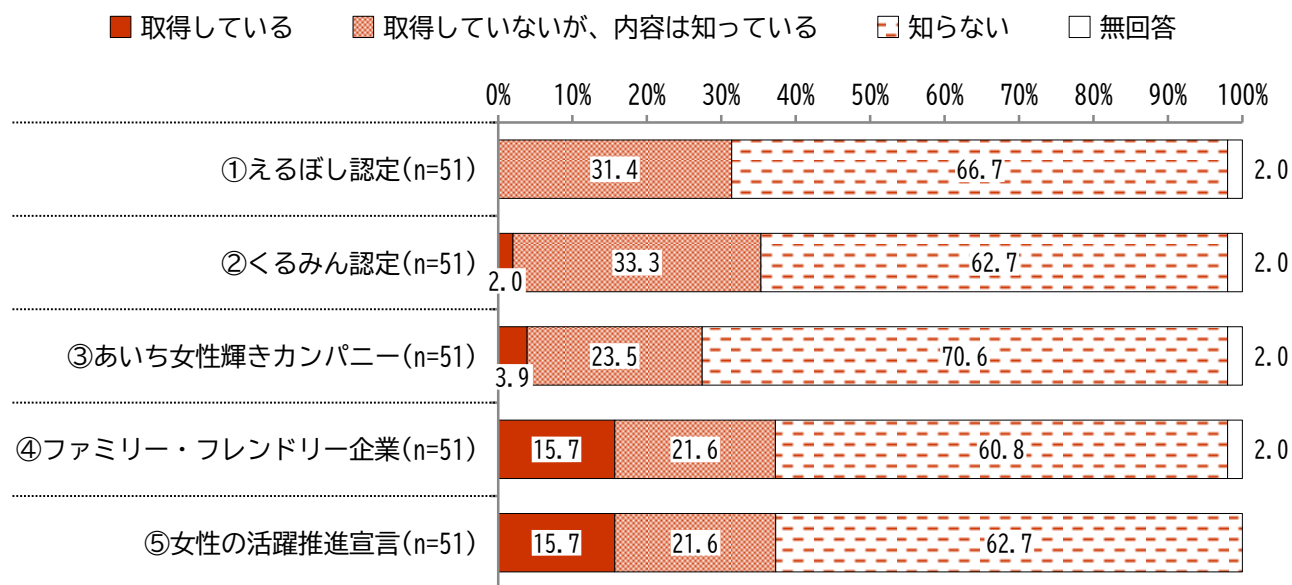
図表 117 育児・介護休業制度の利用を進めるうえでの課題



問 10 貴事業所では、国や県が定めている次の認証制度等を取得していますか。【○は1つ】

- 認証制度等の取得については、全項目で「知らない」が約6～7割と多く、全項目で認知や取得が広がっていないことがわかる。

図表 118 認証制度の取得について



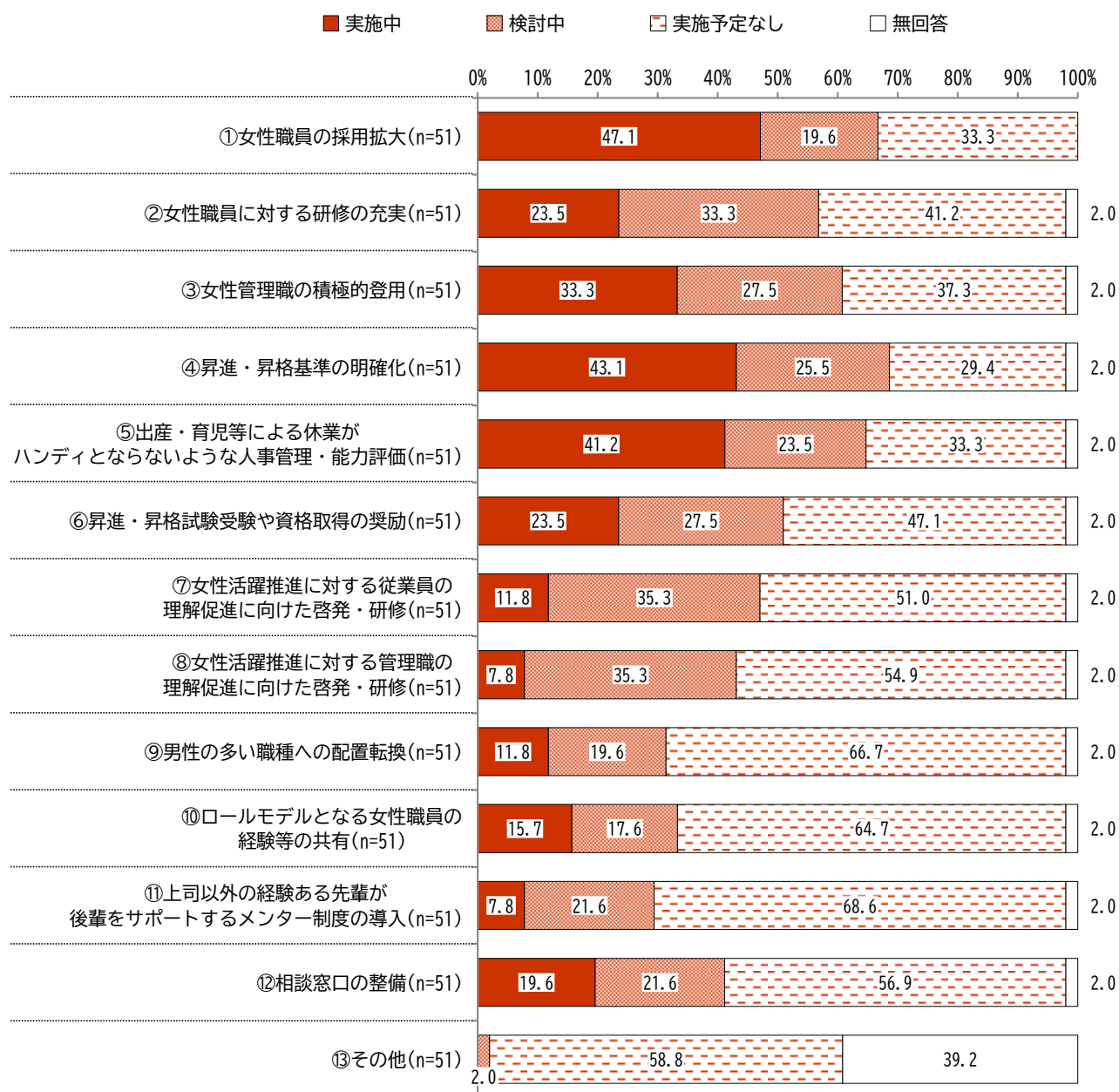
4. 女性の活躍推進について

問 11 女性の活躍推進への取り組み状況について、該当するものをお選びください。

【①～⑬のそれぞれについて○は1つ】

- 女性の活躍推進への取り組み状況では、「①女性職員の採用拡大」、「④昇進・昇格基準の明確化」、「⑤出産・育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」で「実施中」が4割以上となっているが、そのほかの項目では「実施予定なし」が最も多くなっている。

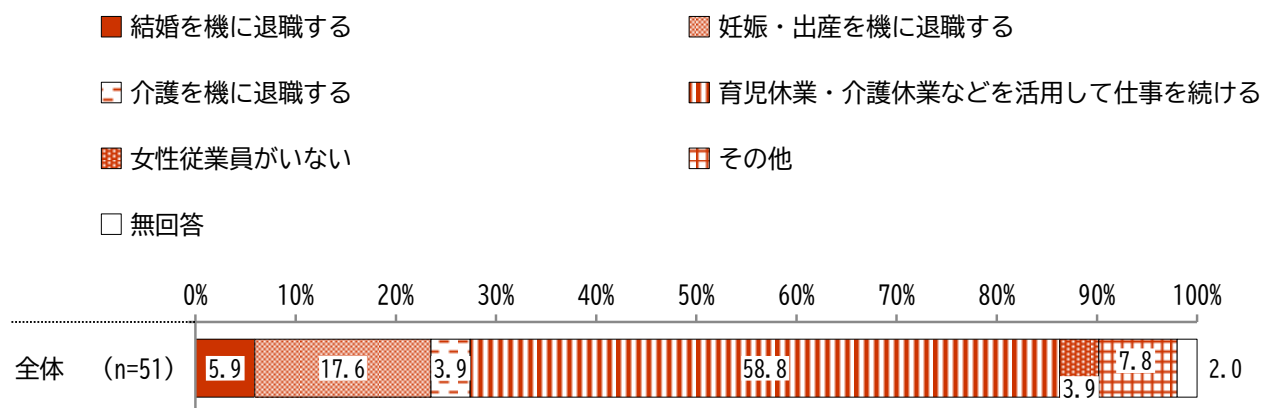
図表 119 女性の活躍推進への取り組み状況



問 12 貴事業所の女性従業員はどのような働き方が多いですか。最も多いケースをお答えください。
【〇は1つ】

- 女性従業員の働き方では、「育児休業・介護休業などを活用して仕事を続ける」が 58.8%と最も多く、次いで「妊娠・出産を機に退職する」が 17.6%、「結婚を機に退職する」が 5.9%となっている。

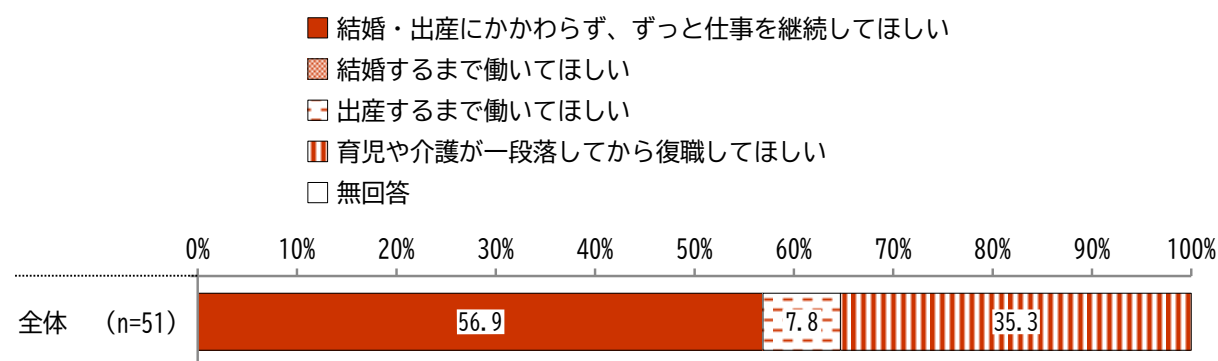
図表 120 女性従業員の働き方



問 13 女性従業員に対して、どのように働いてほしいと思いますか。【〇は1つ】

- 女性従業員にどのように働いてほしいかでは、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を継続してほしい」が 56.9%、「育児や介護が一段落してから復職してほしい」が 35.3%となっている。

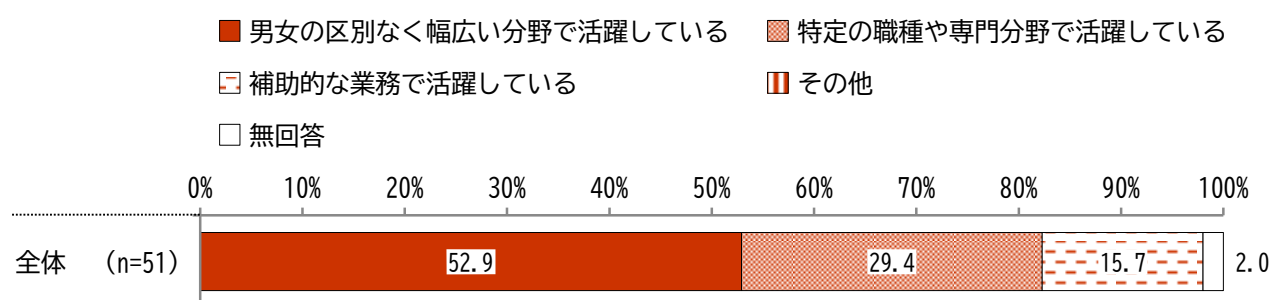
図表 121 女性従業員に対してどのように働いて欲しいと思うか



問 14 貴事業所では女性従業員がどのように活躍していますか。【〇は1つ】

- 女性従業員がどのように活躍しているかでは、「男女の区別なく幅広い分野で活躍している」が 52.9%と最も多く、次いで「特定の職種や専門分野で活躍している」が 29.4%、「補助的な業務で活躍している」が 15.7%となっている。

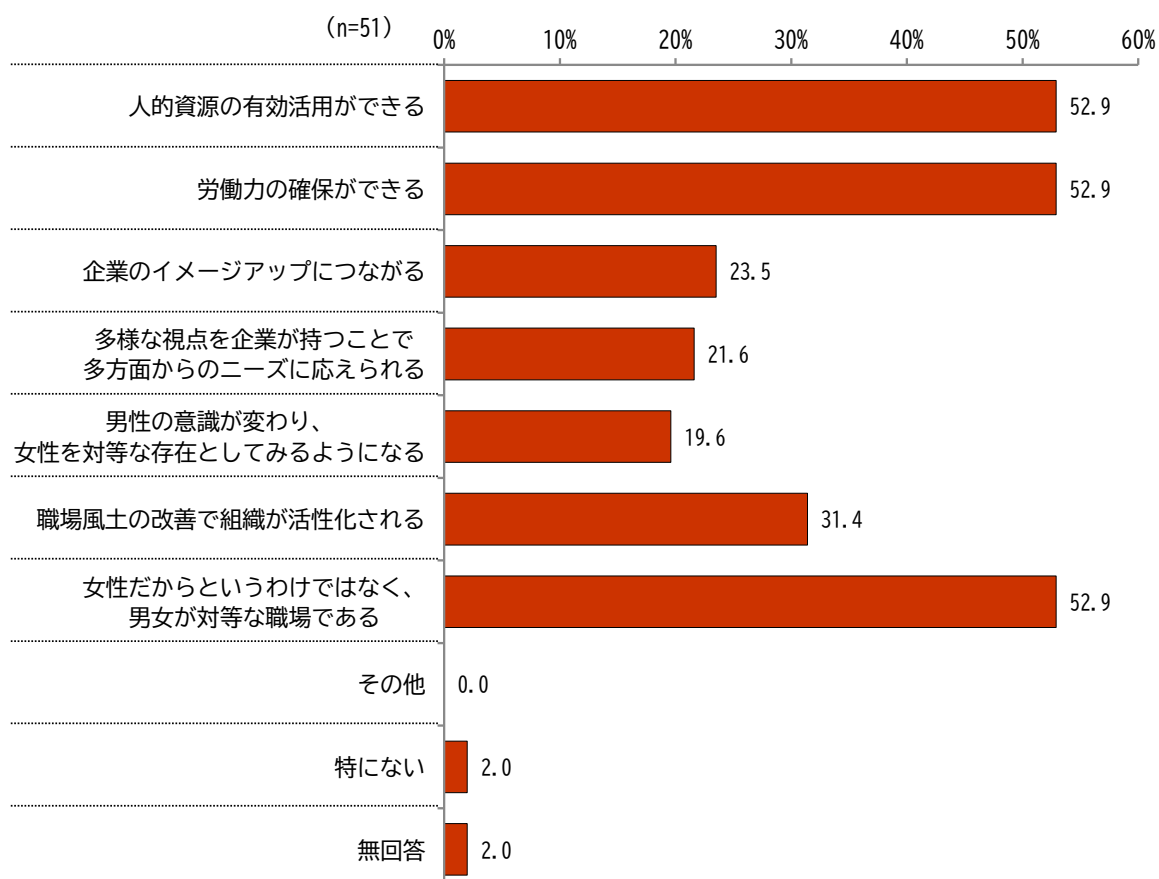
図表 122 女性従業員がどのように活躍しているか



問 15 女性従業員が活躍するメリットは何だと思いますか。【〇はいくつでも】

- 女性従業員が活躍するメリットでは、「人的資源の有効活用ができる」「労働力の確保ができる」「女性だからというわけではなく、男女が対等な職場である」が 52.9%と最も多くなっている。

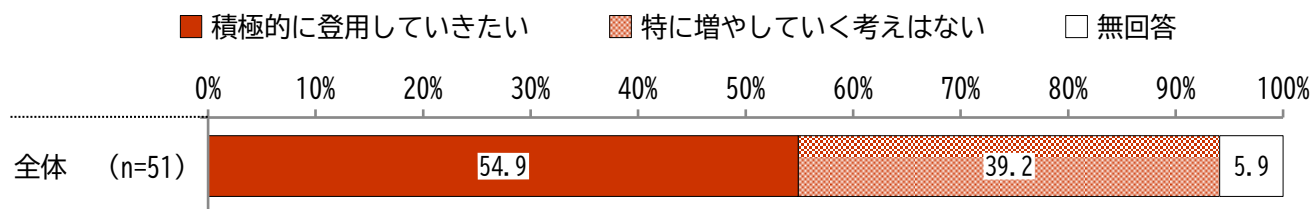
図表 123 女性従業員が活躍するメリット



問 16 今後、管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。【○は1つだけ】

- 今後、女性を管理職に積極的に登用しようと考えているかでは、「積極的に登用していきたい」が 54.9%、「特に増やしていく考えはない」が 39.2%となっている。

図表 124 今後、管理職雇用で女性を積極的に登用しようと考えているか

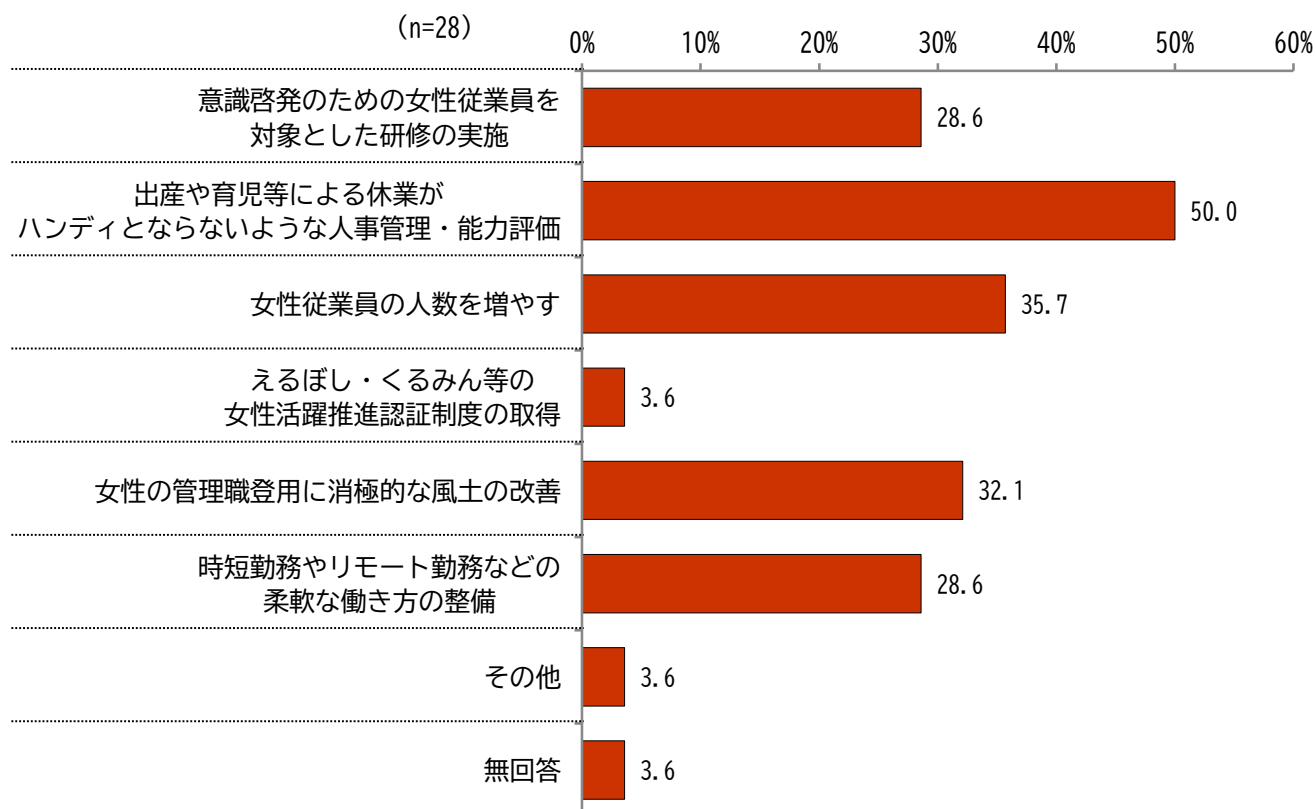


<問 16 で「1. 積極的に登用していきたい」と答えた方におたずねします。

問 16-1 女性の管理職を増やすためにどのようなことが必要だと思いますか。【○は3つまで】

- 女性の管理職を増やすために必要だと思うことでは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」が 50.0%と最も多く、次いで「女性従業員の人数を増やす」が 35.7%、「女性の管理職登用に消極的な風土の改善」が 32.1%となっている。

図表 125 女性の管理職を増やすために必要だと思うこと

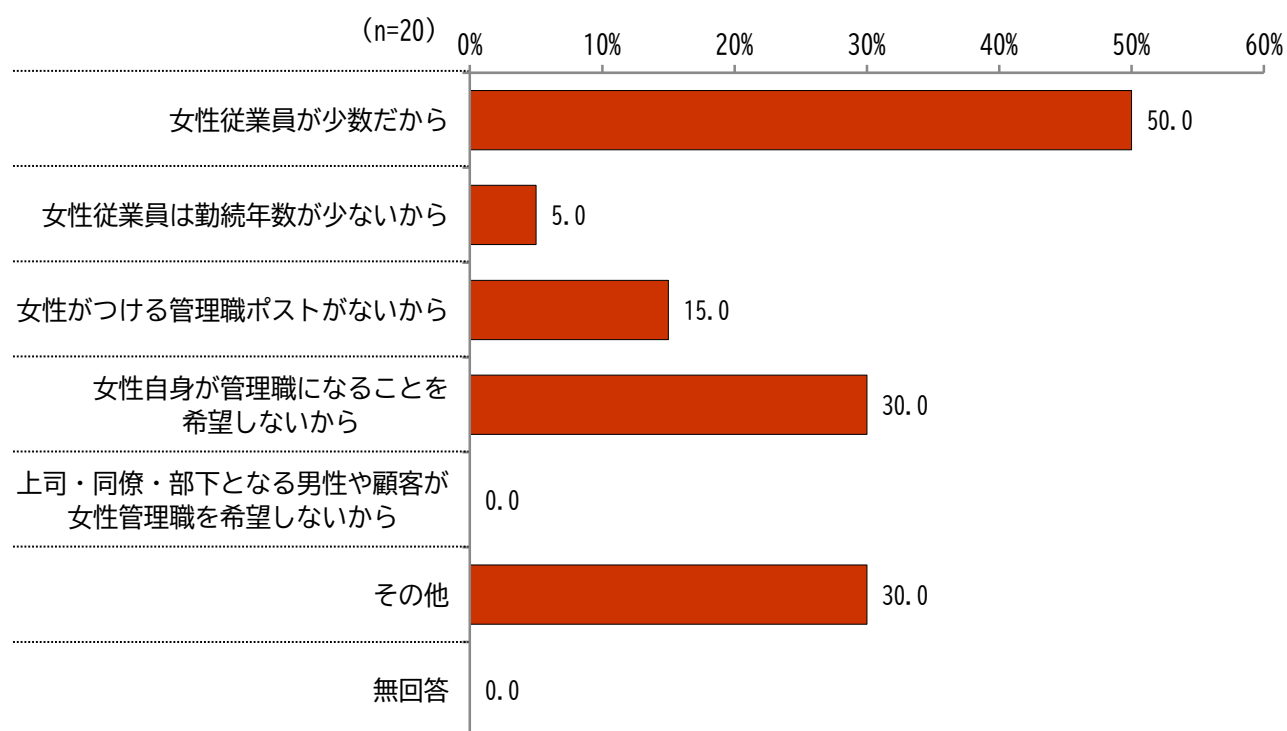


<問 16 で「2. 特に増やしていく考えはない」と答えた方におたずねします。

問 16-2 その理由は何ですか。【〇はいくつでも】

- 今後、管理職雇用で女性を増やしていく考えがない理由では、「女性従業員が少数だから」が 50.0%と最も多く、次いで「女性自身が管理職になることを希望しないから」が 30.0%、「女性がつける管理職ポストがないから」が 15.0%となっている。

図表 126 今後、管理職雇用で女性を増やしていく考えがない理由

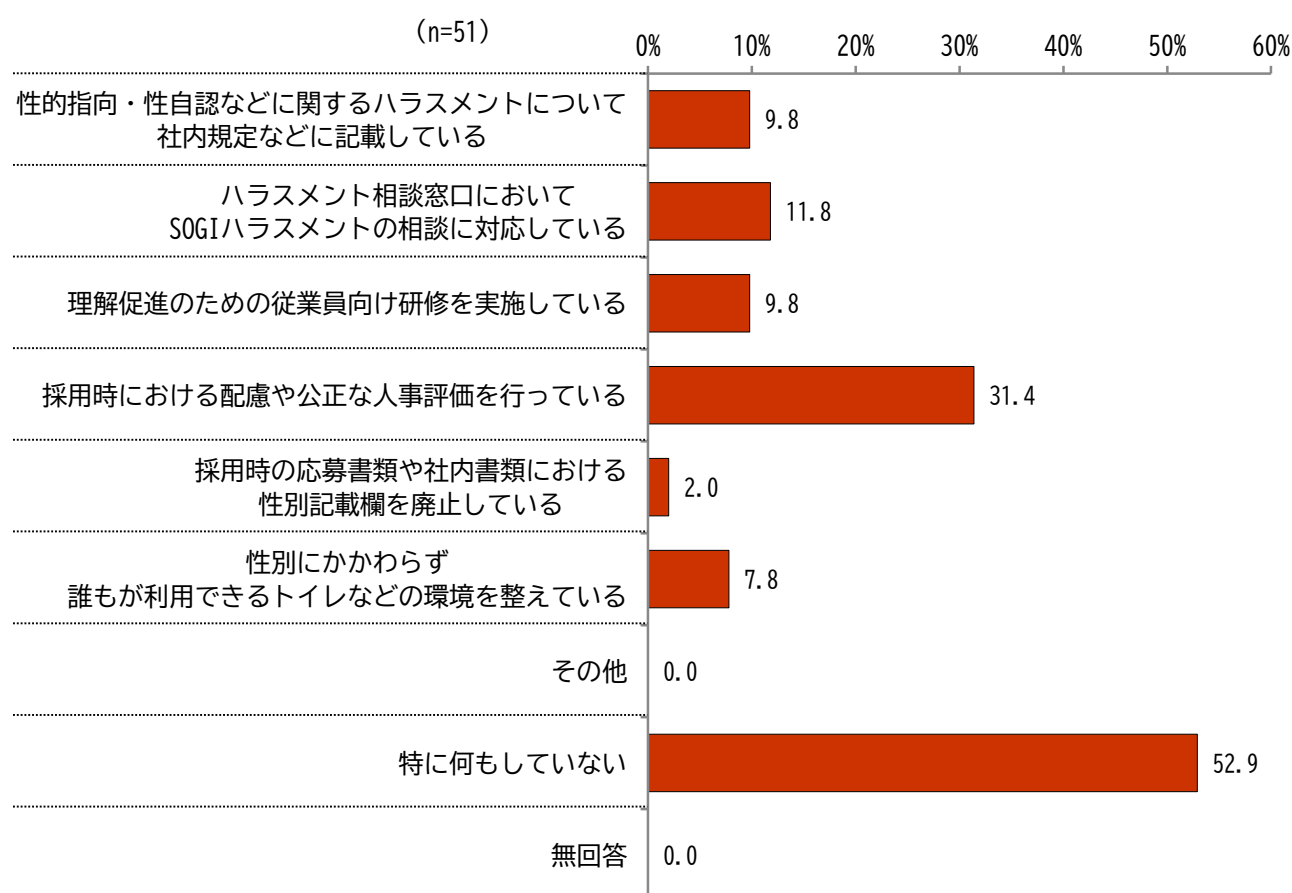


5. 多様性について

問 17 性的マイノリティ（LGBTQ）の従業員への配慮について、貴事業所の取組状況を教えてください。
【あてはまるものすべてに○】

- 性的マイノリティ（LGBTQ）の従業員への取組では、「特に何もしていない」が 52.9%と最も多く、次いで「採用時における配慮や公正な人事評価を行っている」が 31.4%、「ハラスメント相談窓口において SOGI ハラスメントの相談に対応している」が 11.8%となっている。

図表 127 性的マイノリティ（LGBTQ）の従業員への配慮についての取組



6. ハラスメント対策について

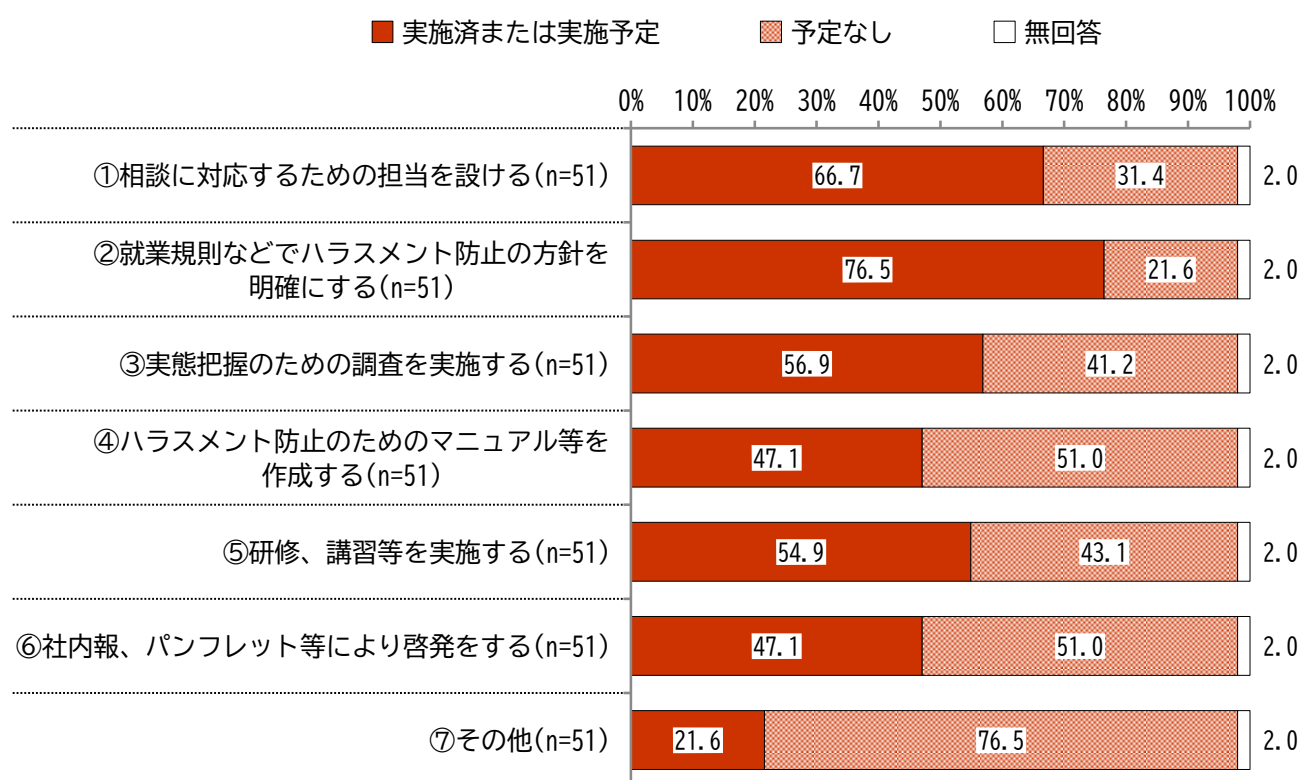
問 18 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント(職務上の地位を利用した、いじめや嫌がらせ)についてどのような取り組みを行っていますか(または実施予定ですか)。

①～⑦の取り組みについて、該当するものをそれぞれ1つずつ選んでください。

セクシャル・ハラスメント

- セクシュアル・ハラスメント対策では、「実施済または実施予定」について、②就業規則などでハラスメント防止の方針を明確にする」が 76.5%、「①相談に対応するための担当を設ける」が 66.7%と多くなっている。

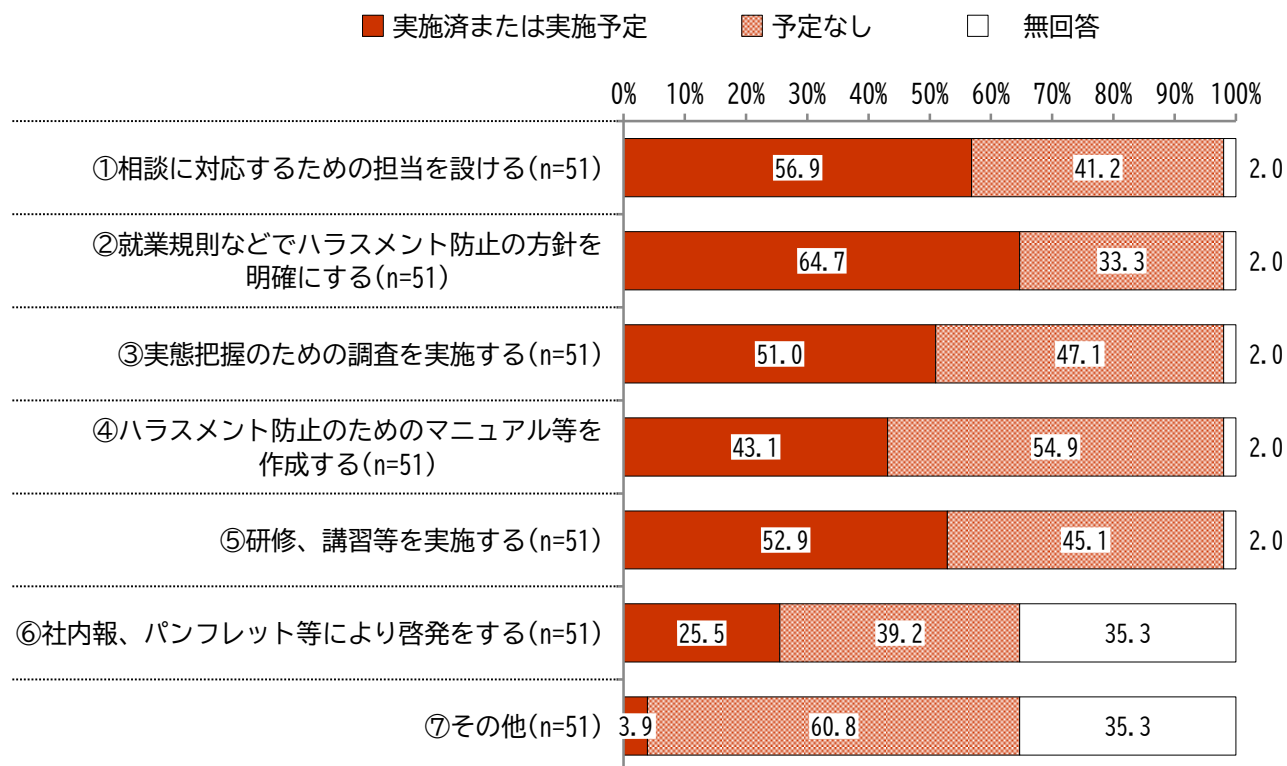
図表 128 セクシュアル・ハラスメントについて行っている取り組み



パワー・ハラスメント

- パワー・ハラスメント対策では、「実施済または実施予定」について、「②就業規則などでハラスメント防止の方針を明確にする」が 64.7%、「①相談に対応するための担当を設ける」が 56.9%と多くなっている。

図表 129 パワー・ハラスメントについて行っている取り組み

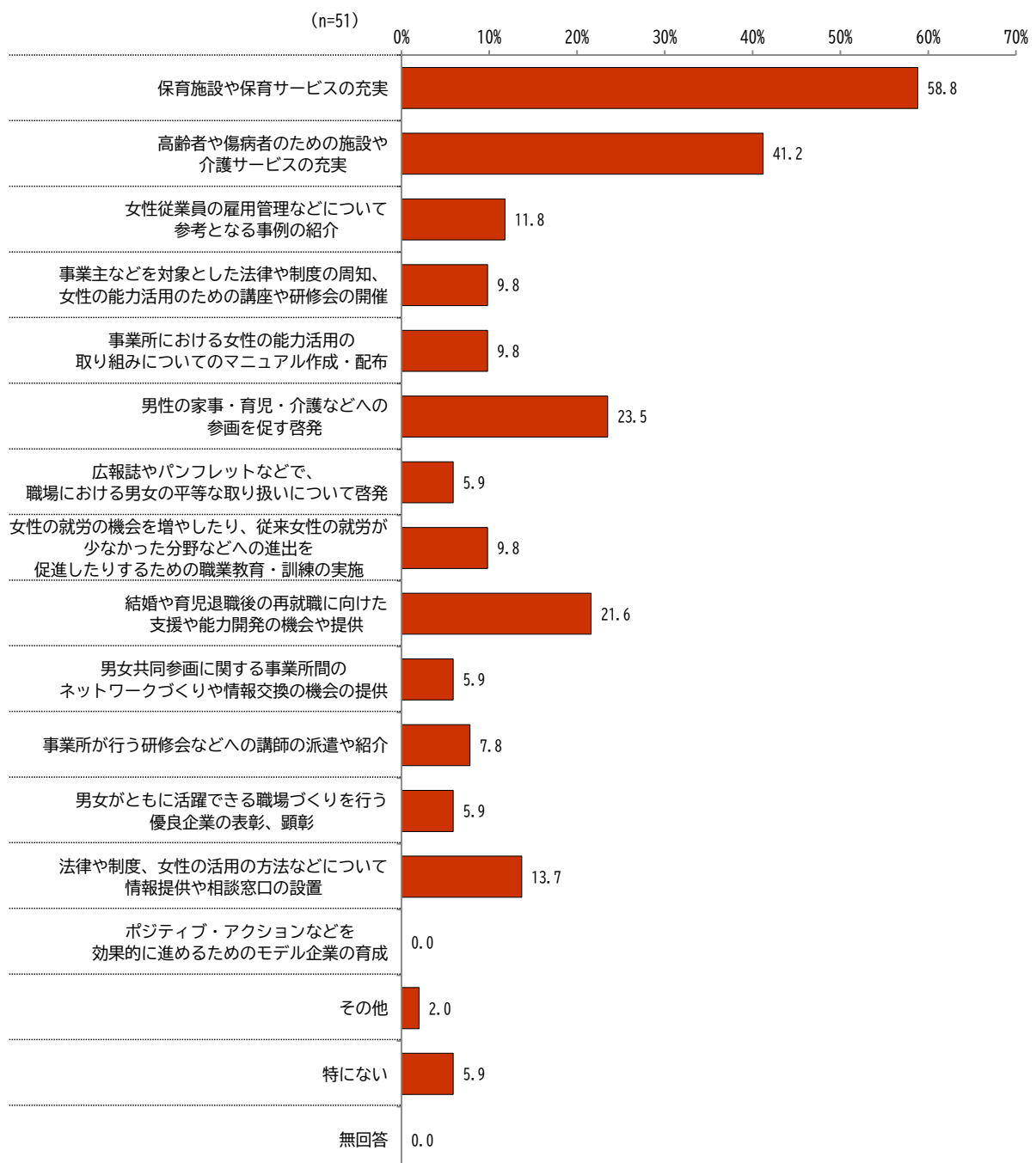


7. 男女共同参画全体について

問 19 貴事業所において男女共同参画を進めるにあたって、今後、蒲郡市はどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。【〇は3つまで】

- 男女共同参画を進めるために市で力を入れていくべきことについて、「保育施設や保育サービスの充実」が58.8%と最も多く、次いで「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」が41.2%、「男性の家事・育児・介護などへの参画を促す啓発」が23.5%となっている。

図表 130 男女共同参画を進めるために市で力を入れていけばよいと思うこと



問 20 事業所に対する男女共同参画に関する情報発信方法や啓発方法として、効果的だと思うものは何ですか。【〇はいくつでも】

- 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うものでは、「市の広報誌」が 56.9%と最も多く、次いで「市の公式ホームページ」が 43.1%、「セミナーやシンポジウム」が 29.4%となっている。

図表 131 男女共同参画に関する情報発信・啓発方法として効果的だと思うもの

